

## 【凡例】

- ・この著作目録は『伊藤信吉著作集』第7巻（2003年 沖積社）の「年譜・書誌（龍沢友子編纂）」を底本とし、飯塚葉採録・著『風の日和』（2009年 群馬県立土屋文明記念文学館）、伊藤作成の初期詩集構想メモ等の情報を追加し作成しました。
- ・原則として旧漢字は新字に改めました。
- ・図書雑誌新聞名は『 』、作品名は「 」で表記し、著書は太字にしました。
- ・追加の情報等お気づきになられた方はお知らせください。

西暦 (和暦)	年齢	著作
1922 (大正11)	16	短篇小説「或る日の出来事」、俳句5句（『久友会誌』1巻3号（大正11年7月））
1923 (大正12)	17	短歌「夕くるるなら山坂草枯れて胸毛ゆるがせ山羊のなき居り」（『文章倶楽部』8年2号（大正12年2月））
		詩「厭世者の部屋」（『上毛新聞』4月1日） 「美しき幻の夢」（『文章倶楽部』8年4号（大正12年4月）掲載外佳作） 詩「熱病の幻夢」5篇「火焰」「深夜の怪音」「悲しき幻夢」「幻惑する狂友」「墓場の寝台」（『上毛新聞』4月29日） 詩「観念」「うれひもてる女」（『上毛新聞』6月13日） 詩「逆立ち」（『上毛新聞』11月11日） 詩「愛憐」（『上毛新聞』12月23日）
1924 (大正13)	18	詩「冷たき夜」（『上毛新聞』1月13日） 詩「鮑」（『太平洋詩人』、『抒情詩』再掲）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「影」（『抒情詩』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「四月」（『詩世紀』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「宵」（『日本詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬至」（『日本詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「空」（『毒刃』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「春宵」（『文学界』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「雁来紅」（『毒刃』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬」（『毒刃』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「月」（『毒刃』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 短篇小説「蒼白い微笑」（『上毛新聞』5月25日）
1925 (大正14)	19	詩「宵」（『日本詩人』5巻3号（大正14年3月）） 詩「影」（『太平洋詩人』7月号、『抒情詩』8号）○伊藤初期メモでは1924年 詩「冬と或る夫人の美しい古典」「駅」「洋傘」「晩」（『近代詩歌』12月号） 詩「蛙」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「たんぼぼの春」（『蠶の集』1）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「黄色いピアノ」（『投書時代』1）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「春の白痴」（『田園詩歌』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「李花」（『田園詩歌』2）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「六月の笛」（『田園詩歌』2）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「夏」（『田園詩歌』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「馬車と晩春」（『田園詩歌』1、「青衣の獵人」「櫛の木」3）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「駅」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「窓」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬と或る夫人の美しい古典」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「洋傘」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬」（『田園詩歌』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「鬚ある肖像」（『詩神』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「寒い馬車」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「鏡」（『田園詩歌』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「洋燈」（『詩神』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「図書館」（『田園詩歌』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「冬」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「陸軍秋期機動演習の硝煙と秋色」（『詩神』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「戦後」（『毒刃』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「夜」（『櫛の木』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「月の出」（『太平洋詩人』）伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「港」伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「陽まわり」伊藤作成の初期詩集構想メモより 詩「洋燈の」伊藤作成の初期詩集構想メモより 短篇小説「あの春」（『上毛新聞』3月15日） 短篇小説「葡萄一房」（掲載誌不詳） 短歌1首（『上毛新聞』10月21日） この頃、「近代詩歌」（萩原朔太郎が選者）に前橋短歌会の記事あり、伊藤の短歌1首
1926 (大正15)	20	詩「出帆」「酒」（『あゝ らりるれる』創刊号） 詩「霜どけ風景」「劇場」「秋色風景」「駅前」（『日本詩人』6巻2号（大正15年2月））

西暦 (和暦)	年齢	著作
		詩「裏町の春」(『文芸往来』2月号)○伊藤初期メモでは「裏街の春」
		詩「夏・床・哀傷」「日没」「洋燈」(『あゝ らりるる』2号)
		詩「鬮ある肖像」「霜どけ風景」(『詩神』3月号)
		詩「月の出」「冬」(『近代詩歌』3月号)○伊藤初期メモでは『青衣の獵人』1
		詩「春の白痴」(『田園風景』2巻4号)
		詩「冬」(『詩神』4月号)
		詩「顔と満月」(『詩神』6月号)
		詩「蛙の晩春」(『詩神』9月号)
		詩「菖畑の晩春」「厚き愛唱」(『詩歌時代』1巻6号(大正15年10月))○伊藤初期メモでは「菖畑・・・」は「創作時代」
		詩「しねまと虹」(『青衣の獵人』1巻2号(大正15年10月))※佐々木晴章氏より
		詩「菜畑の雨」(『太平洋詩人』創刊号)
		詩「秋」(『詩神』)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「冬」(『詩神』)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「厚き愛唱」(『創作時代』10月号)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「白い部屋」(『文芸の園』)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「春の病婦」「花簪の春」「春夜」「麦笛の六月」「馬車と晩春」「村雨の譜」「春の射手」「五月の扇」「五月」伊藤作成の初期詩集構想メモより
		評論「傾向詩派の癡態」(『詩神』5月号)
		評論「前橋詩人協会について」(『上州新報』7月19日)
		短歌3首(大沢雅休編『歌集 りんだう』野菊社 3月1日)
1927 (昭和2)	21	詩「燈火」(『街』2号)
		詩「病患」「球」(『街』3号)
		詩「しねまと虹」(『えいくわん』3号)○伊藤初期メモでは「めくら蛇(しねまと虹2改題)」(『鶯娘』2巻1号)
		詩「円戯」(『街』4号)
		詩「春」「浴後の六月」(『街』5号)
		詩「地下室」「春」(『街』6号)
		詩「イスラエルの月」2篇「博戯史」「白の髪」(『街』8号)
		詩「朱い博戯」「黄色い都府」「スペイン猫」(『耽美祭』創刊号)
		詩「白い亡国」(『詩神』9月号)
		詩「黄ばめる疲労(しねまと蛇3改題)」(『鶯娘』2巻1号)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「白い亡国」(『詩神』)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「黄錯」(『現代文芸』4巻11号)伊藤作成の初期詩集構想メモより
		「五篇の記」(『上毛新聞』2月20日)
		「シラノ・デ・バルヂェラック」(『街』4号)(『哀しき父』(『風の日より』3月1日))
		「翁行燈その他」(『上州新報』3月14日)
		「えいくわん」(『上毛新聞』4月10日)
		「緑衣の六月」(『上毛新聞』6月5日)
		「HISTORY OF GAMHLING」(『青筋』昭和2年7月号)
		「『虫』の回想」(『虫』12月終刊号)
		詩「春と歯痛」「扇とその骨」「櫛」「楽手と蛇」「めくら蛇」「めくらと別離」「悲しきしねま」「楽手と蛇」「タぐれ林檎」伊藤作成の初期詩集構想メモより
1928 (昭和3)	22	詩「花嫁の家」(『日輪』4号)
		詩「室の午後」(『青馬』7号(昭和3年1月))
		詩「ココア色の花嫁」(『耽美祭』2号)
		詩「円ろい春」「六月」(『耽美祭』3号)
		詩「狂へる春」「魚」「四月馬鹿」(『耽美祭』4号)
		詩「八月」「失題」(『城』創刊号)○伊藤初期詩集構想メモでは「鳥(失題)」
		詩「愛の書信」「郷里への書信」(『城』2号)○伊藤初期詩集構想メモでは「愛の書(愛の書信)」
		随筆「朱の手套」(『耽美祭』3号)
		随筆「七月の秋風」(『上毛新聞』8月5日)
		随筆「八月の書」(『上毛新聞』8月19日)
1929 (昭和4)	23	『学校詩集』伊藤信吉 編(学校詩集発行所 12月31日)
		詩「烈風の歌」「秋」(『片』)
		詩「四人」(『学校』2号)
		詩「無題」(『学校』3号)
		詩「波止場人足」「あなたに贈る」(『城』3号)
		詩「一人は一人の手に手をあてて」(『学校』4号)
		詩「無題」(『学校』5号)○伊藤初期詩集構想メモでは「燕(無題)」
		詩「坂」(『第二』5号)
		詩「河」(『第二』6号)
		詩「轢」「トランク」(『学校』6号)○伊藤初期詩集構想メモでは「磯音に添へて(櫟)」
		詩「子供公園にて」(『詩神』8月号)
		詩「五月の霜」(『学校』7号)
		詩「故郷」(『第二』8号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		詩「五月の霜」「裏日本へ」「トランク」(『学校詩集』)
		詩「草原」(『壁』) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		「草野心平氏への一瞥」(『ファンタジア』4月号)
1930 (昭和5)	24	詩「裏日本へ」(『南方詩人』新春号)
		詩「前夜」(『労働派』創刊号)
		詩「信号」(『前衛詩人』創刊号)3月
		詩「燕」(『戦旗』3巻7号(昭和5年5月))
		詩「燕」(『前衛詩人』1巻3号(昭和5年5月)メーデー号)
		詩「引越しの日」(『前衛詩人』7月号)
		詩「燃える歌」(『戦旗』3巻13号(昭和5年8月))
		詩「上野駅で」「燃える歌」「老いた母の言葉」(『前衛詩人』1巻6号(昭和5年8月))
		詩「皇製薬争議左翼宣言」(石井秀との共作)のうち2篇「燃える歌」「老いた母の言葉」(『労働派』8月号)
		詩「信号 二」「奪還の朝—大衆朗読詩」(『前衛詩人』1巻7号(昭和5年9月))
		詩「戦線」(『文学時代』9月号)
		詩「飢餓を超えて」「戦ひの前に」(『戦旗』9月号)
		詩「波止場で」(『詩・現実』第3冊)
		詩「革命記念日に」(『ナップ』11月号)
		詩「嵐の中に」(『ナップ』12月号)
		詩「戦ひの前に」(『戦旗』12月号)
		詩「全線」(『前衛詩人』7月号) 編集製作 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「壁を打つ」(『プロレタリア音楽と詩』7月号) 年不詳 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「闘ひ」(『前衛詩人』10月号) 年不詳 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		「プロレタリア詩に関する雑考」(『労働派』創刊号)
		「歌ひ得る詩と音楽に就いて」(『前衛詩人』メーデー号)
		「プロレタリア詩に関する走り書」(『前衛詩人』1巻6号(昭和5年8月))
		「セルゲイ・エセーニンに関する断片」(『前衛詩人』1巻7号(昭和5年9月))
1931 (昭和6)	25	『ナップ七人詩集』中野重治 窪川鶴次郎 伊藤信吉 [ほか]著 中野重治 編 (白揚社 12月23日)
		詩「バルチザンの春」(『ナップ』2月号)
		詩「朝」(『プロレタリア詩』2)
		詩「海」(『若草』2月号)
		詩「雪」(『プロレタリア詩』3)
		詩「雪(この日暮れ・・・)」(『時間』8号(昭和6年2月)) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「雪(広場・・・東京駅前)」(『ナップ』2巻2号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「引越しの日」(『詩・現実』第4冊(昭和6年3月))
		詩「二つの波に」(『ナップ』5月号)
		詩「革命記念日に」(『日本プロレタリア詩集 一九三一年版』)
		詩「信号」(『詩・現実』第5冊)
		詩「ぬか雨に濡れて」(『前線』6月創刊号)
		詩「燕」(『改造』6月号)
		詩「霜」(『前線』78月合併号)
		詩「河」(『ナップ』8月号)
		詩「海流」(『中央公論』8月号 プロレタリア詩五人集)
		詩「家系」(『プロレタリア詩』9月号)
		詩「霜」(『ナップ』9月号)
		詩「坂」(『国民新聞』9月号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「川添に」(『プロレタリア詩』10月号)
		詩「夜風の中を」(『ナップ』10月号)
		詩「海流」(春陽堂版『明治大正文学全集』6巻詩篇)
		詩「あさ子に」(『文学時代』12月号)
		詩「三度ゼネストへ」(『バルチザン』2月号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「燕(肌寒い季節風に乗り)」(『改造』6月号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「秋」(『ナップ七人詩集』12月23日) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		「セルゲイ・エセーニンに関する断片」(『詩・現実』第5冊)
		「編集後記」(『ナップ』ロシア革命記念号)
		「コレスボンダノス」(『時間』11号(昭和6年5月))
1932 (昭和7)	26	『プロレタリア詩の諸問題』伊藤信吉 森山啓 中野重治 著 (叢文閣 6月18日)
		詩「夕寒の町で」(『プロレタリア詩』1月号)
		詩「手紙に代えて」「ローザに」(『プロレタリア文学』1月創刊号) ○伊藤初期詩集構想メモでは「プレスラウ監獄から」も
		詩「この日都会に」(『プロレタリア文学』6号)
		詩「亡命の日に」(『働く夫人』1月号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		詩「陸橋」(『駿台新聞』2月号) 伊藤作成の初期詩集構想メモより
		「『主題の積極性』に關聯して」(『プロレタリア詩』1月号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「監獄裏の春」(『若草』1月号) 童話「燕」(『一九三二年』中外書房 7月)
1933 (昭和8)	27	『詩集 故郷』伊藤信吉 著 (中外書房 4月13日) 詩「坂にて」(『若草』4月号) 「石川啄木と其の時代性」(『短歌研究』2巻6号(昭和8年6月)) 「高原」(『上毛新聞』日曜文芸 11月5日)
1934 (昭和9)	28	「『破戒』をめぐる回顧と感想」(『散文』1巻2号(昭和9年5月) 筆名・大川康之助) 「文学的懐疑と反省の過程」(『上毛新聞』8月19日) 「現実追求の文学 一」(『阪路』13号) 「現実追求の文学 二」「林芙美子論」(『阪路』15号) 「自己否定の精神—作家的発展の形式とリアリズムへの途」「詩に於ける浪漫性と意思的情熱—詩集『永島』に於ける感想」(『阪路』16号 筆名・大川康之助) 「現実の否定的面に就いて」(『散文』11月号)
1935 (昭和10)	29	詩「風」(『上毛新聞』2月17日 筆名・竹野村夫) 「島崎藤村研究 その作家的道程に就いて」連載3回(『上毛新聞』2月24日、3月3日、10日 筆名・崎山茂吉) 「生理 瞥見」(『上毛新聞』3月10日) 「藤村の芸術とその社会性」連載2回(『上毛新聞』3月31日、4月7日 筆名・崎山茂吉) 「激怒する浅間見聞記」連載3回(『上毛新聞』5月28日、29日、30日 天野純一との共同執筆) 「蚕糸群馬の先覚・中居屋重兵衛物語り」(『蚕糸公論』5月号) 「ソノの芸術的方法断片」連載3回(『上毛新聞』5月19日、6月2日、23日 筆名・崎山茂吉) 「政治的進出と産青聯」(『蚕糸公論』6月号) 「藤村と芸術的遺産」連載3回(『上毛新聞』8月25日、9月1日、8日 筆名・大川康之助) 「肯定と否定」(『上毛文学』1巻2号 筆名・大川康之助) 「島崎藤村と外国文学」(『散文』2巻7号 筆名・大川康之助) 「島崎藤村氏の印象」(『上毛新聞』11月3日 筆名・大川康之助) 「島崎藤村論—藤村的リアリズムと主情性」(『コスモス』1集(昭和10年11月) 筆名・大川康之助) 「青森紀行」(『蚕糸公論』11月号) 「師走めいた感想」(『上毛新聞』12月8日 筆名・大川康之助)
1936 (昭和11)	30	『島崎藤村の文学』伊藤信吉 著 (第一書房 2月20日) 「独断する精神」(『散文』1月号) 「アンナ・カレニナの感想」連載2回(『上毛文学』2巻2号、3号)4月、7月 「牧歌的な神津牧場」(『上毛文化』1巻1号(昭和11年4月)) 「与謝蕪村の歴史」連載5回(『上毛新聞』4月26日、5月3日、10日、17日、31日) 「碑文の背面(1)」(『上毛文化』1巻4号(昭和11年7月)) 「碑文の背面(2)」(『上毛文化』1巻6号(昭和11年9月)) 「一二月のプーシキン」(『文学評論』7月号) 「郷土歌謡に就て」(『上毛新聞』7月26日) 「夏の回顧と感想」(『上毛新聞』8月23日) 「感動の周辺」(『コギト』8月号) 「『夜明け前』論序説」連載2回(『上毛新聞』9月20日、27日) 「プーシキンの詩に就いて」(『上毛文学』2巻6号(昭和11年10月)) 俳句4句(『百黄土』創刊号)
1937 (昭和12)	31	「土の唄と民話」「組合製糸群馬社探訪」(『地方文化』創刊号) 「作家精神の頹敗」(『上毛文学』3巻2号) 「魯迅に就いての感想」連載3回(『コギト』3月号、4月号、8月号) 「島崎藤村の俳句論」(『俳句研究』4巻4号(昭和12年4月)) 「島崎藤村論」(草野心平ほか編『現代日本詩人論』西東書林) 「碑文の背面」(『上毛文化』17号) 「外部への意識」(『文学界』9月号) 「一茶に就いて」(『俳句研究』4巻10号(昭和12年10月)) 「清水扇之丞編『南柳句集』をめぐりて(感想)」(『上州詩人』20号(昭和12年2月))
1938 (昭和13)	32	「伊藤左千夫に就て」(『短歌研究』7巻4号) 「作品の生活性」(『文学界』5巻8号) 「芭蕉」(『俳句研究』5巻10号) 「作家精神に就て」(『文学界』5巻11号)
1939 (昭和14)	33	『土の唄と民話』伊藤信吉 著 (四元社 10月25日) 詩「永日」(『歷程』6号) 詩「夜警」(『俳句研究』6巻12号) 「藤村と農民文学」(『読書と人生』2月号) 「萩原茶次郎氏の回想」(『日本詩壇』3月号) 「土地の話と民話」(『文学界』6巻3号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「小諸紀行」(『俳句研究』6巻7号)
		「萩原恭次郎氏の回顧」(『歷程』7号)
		「未完成の精神」(『文学界』6巻7号)
		「萩原朔太郎論」連載3回(『批評』創刊号-12月号)
		「座談会 歴史と文学-小林秀雄氏を囲む」(『批評』創刊号)
		「草野心平氏に就て」(『歷程』8号)
		「写生文に就て」(『俳句研究』6巻9号)
		「三好達治氏に就て」(『歷程』9号)
		「座談会 國語に就いて-柳田國男氏を囲む」(『批評』11月号)
		「座談会 批評の肉感性-河上徹太郎氏を囲む」(『批評』12月号)
		「室生犀星論」(『文学者』1巻12号)
		「中原中也論」(『文学界』6巻12号)
1940 (昭和15)	34	『現代詩人論』伊藤信吉 著 (河出書房 7月10日)
		詩「粗林」「光に就いて」「夜警」(萩原朔太郎編『昭和詩鈔』富山房)
		詩「河」「七月」「並木の下にて」「粗林」(『批評』9月号)
		「書評 亀井勝一郎著『島崎藤村』-『旅人』の観念」(『文学界』7巻1号)
		「中野重治論」(『批評』1月号)
		「座談会 作家と批評家-横光利一氏を囲む」(『批評』1月号)
		「千家元麿氏に就て」(『歷程』10号)
		「書評『石橋忍月評論集』-ある〈氣候〉の回顧」(『批評』2月号)
		「書評 柳田國男著『孤猿隨筆』」(『俳句研究』7巻2号)
		「詩人論-日本近代詩の歴史に就て」(『文学界』7巻3号)
		「室生犀星論」(『批評』3月号)
		「蒲原有明論」(『歷程』11号)
		「受賞式の印象」(『セルパン』10巻5号)
		「書評 三好達治著『春の岬』」(『短歌研究』9巻6号)
		「高村光太郎論」(『批評』7月号)
		「書評 中野重治著『汽車の鐘焚き』-生活感情に就て」(『文学界』7巻8号)
		「書評 萩原朔太郎著『港にて』『掃蕩者』-新しき出発」(『批評』9月号)
		「島崎藤村の印象」(『むらさき』7巻11号)
		「高村光太郎論」(『知性』3巻6号)
		「書評 緑川昇詩集『穉子抄』-小感」(『蠟人形』11巻12号)
1941 (昭和16)	35	詩「河」「並木の下にて」「七月」「粗林」「蚕」「永日」(『歷程詩集』紀元二六〇〇年版)
		詩「季節」「歌」「冬」「落日」(『批評』7月号)
		詩「六月」「贈る」(『歷程』16号)
		「作家に於ける回想(自然主義に就て。一)」(『文学者』3巻1号)
		「紀行」(『批評』1月号)
		「詩の生命力-高村光太郎詩集『道程』改訂版」(『文学界』8巻2号)
		「書評 草野心平詩集『絶景』-断片」(『蠟人形』12巻2号)
		「自然主義に就いて」連載8回①作家に於ける回想 ②時代と伝統 ③現実性の構造 ④『家』の観念 ⑤感覚の社会化 ⑥補論・写生文について ⑦人生論の性格 ⑧補論・龍士会の人々(『批評』2月号、3月号、5月号、6月号、9月号-12月号)
		「写生文の作家達」(『俳句研究』8巻3号)
		「書評『新選萩原朔太郎詩集』-伝統の生熟」(『むらさき』8巻3号)
		「郷愁の詩篇」(『蠟人形』12巻3号)
		「映画『小林一茶』の感想」(『俳句研究』8巻4号)
		「若山牧水論」(『日本短歌』4月号)
		「童詞と郷愁」(『新女苑』5巻5号)
		「私小説の途」(『新潮』38年5号)
		「詩人の運命」(『蠟人形』12巻6号)
		「五月」(『歷程』15号(昭和16年7月))
		「島木健作論」(『日本の風俗』4巻8号)
		「土の童言葉」(『むらさき』8巻9号)
		「詩集『冬篋』覚書」(『歷程』16号)
		「現代詩の位置」(『中央公論』56年10号)
		「戦野の人」(『若草』17巻10号)
		「良書推薦」(『中央公論』秋季特大号)
		「三人の作家-小説家としての伊藤左千夫・長塚節・高濱虚子」(『俳句研究』8巻11号)
		「回想の文学史-正宗白鳥著『作家論』」(『文学界』8巻11号)
		「書評 内田魯庵著『明治の作家』-精神史の傾斜」(『文学界』8巻12号)
		「書評 山雅房版『現代詩人全集 第六巻』」(『むらさき』12月号)
		「発想と創造」連載2回(『蠟人形』12巻11号、12号)
1942 (昭和17)	36	『昔話とわらべうた』伊藤信吉 著 (四元社 4月10日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		『作家論』伊藤信吉 著 (利根書房 6月17日)
		詩「秋」(『歷程』17号(昭和17年4月))
		詩「マニラ麻の思ひ出」(『中央公論』57年4号)
		詩「往きて歸らぬ」(『蠟人形』13巻5号)
		詩「マニラ麻の思ひ出」「往きて還らぬ」「星」(現代詩会編『現代詩』昭和17年秋季版)
		「若山牧水論」(岡山巖・岡野直七郎編『現代歌人論』)
		「歴史—『静』に就て」(『批評』4月号)
		「昔話の夜」(『歷程』17号(昭和17年4月))
		「話の故郷(民話に就て)」(『むらさき』9巻5号)
		「高村光太郎論」(『文芸』10巻5号)
		「献身と主体—文芸時評」(『批評』6月号)
		「二人の詩人—萩原朔太郎と佐藤惣之助を追悼す」(『新文化』12巻7号)
		「北方(萩原朔太郎論序説)」(『歷程』18号(昭和17年7月))
		「近代詩の精神—萩原朔太郎論」連載2回(『蠟人形』13巻7号、8号)
		「伝統と創造—芭蕉に於ける美の理念について」(『国語文化』2巻9号(昭和17年8月))
		「作品完成度の不足—最近の詩集に触れて」(『日本読書新聞』8月10日)
		「文学に於ける家—近代文学の性格とその社会性」(『文芸情報』9月号)
		「作家の精神」(『批評』11月号)
		「童謡抄」(『国語文化』2巻10号)
		「文学に於ける家—近代文学の性格とその社会性」(『文芸情報』8巻18号)
1943 (昭和18)	37	『近代文学の精神』伊藤信吉 著 (有光社 9月10日)
		『萩原朔太郎全集 全12巻』萩原朔太郎 [著] 室生犀星 [ほか] 編 伊藤信吉 [ほか] 編集委員 (小学館 3月~昭和19年10月) ②~⑤、⑦、⑨、⑩「解題」、別冊上「詩作品発表年譜」、別冊下「萩原朔太郎全集別冊下巻収録評論年譜」
		「家と文学」(『批評』1月号)
		「詩に就ての思ひ出」(『文芸情報』9巻1号)
		「近代の文学」連載3回①創造と成熟 ②近代の憂鬱 ③課題と回答(『批評』2月号-4月号)
		「現代詩の古典性」連載4回(『蠟人形』14巻2号、4号、7号、9号)
		「回顧と現実」(『日本読書新聞』4月3日)
		「島崎藤村」(『詩研究』9月号)
		「現代詩の構造」(『歷程』24号)
		「現代詩」(『むらさき』10巻7号(昭和18年10月))
		「新声の精神—島崎藤村小論」(『文芸』11巻10号)
		「伝統の形成」「後書」(『歷程』25号)
1944 (昭和19)	38	詩「マニラ麻の思ひ出」(青磁社版『歷程詩集』)
		「現代詩の古典性」(青磁社版『歷程詩集』)
1945 (昭和20)	39	編集(『陸運新報』)
1946 (昭和21)	40	『伝承の世界』伊藤信吉 著 (三鳩社 6月10日)
		「読書論」連載3回①地方の女性 ②社会的倫理の回復 ③文学作品の社会化(『女性展望』1巻1号-3号)
		「新しき欲情を求め ダダイズムの文学革命」(『文化新聞』29号(昭和21年10月))
1947 (昭和22)	41	『島崎藤村』伊藤信吉 著 (和田堀書店 1月10日)
		「『東方の門・巡礼』と『縮図』の作家」(『読書倶楽部』1月号)
		「書評 柳田国男『日本農民史』『昔話覚書』『毎日の言葉』、結城袁草果『田園四季』、森田たま『ゆく道』、吉田紘二郎『民俗学と随筆』」(『読書倶楽部』2月号)
		「勤労詩の途」(『交通新聞』4月号)
		「生活と文学」連載2回(『鉄道情報』4月号、5月号)
		「言葉」(『シグナル』5月号)
		「労働文化の方向」(『文化新聞』5月19日)
		「日本現代詩読本」連載4回①現代詩の夜明け ②新体詩から象徴詩へ ③詩の言葉 ④自由詩と散文詩(『少女の友』40巻6号-9号)
		「近代詩の内質」(『歷程』復刊2号(昭和22年9月))
		「現代詩ノオト音律とその構造的性質について」(『日本未来派』10月号)
		「書評 平野謙著『島崎藤村』」(『日本読書新聞』10月15日)
		「詩集をひもとく」連載3回①白秋大学の詩 ②冬二犀星朔太郎の詩 ③実篤光太郎の詩(『少女の友』40巻10号-12号)
1948 (昭和23)	42	『近代文学論 藤村その他』伊藤信吉 著 (和田堀書店 11月10日)
		「詩集『愛とくしみの中で』について」(『コスモス』1月号)
		「近代詩の形成」(『歷程』3号)
		「ウルトラマリンの詩人—逸見道吉断片」(『日本未来派』2月号)
		「『聖三稜玻璃』に就いて」(『歷程』4号)
		「武郎・龍之介・太宰治—作家と死」(『暖流』9月号)
		「池田克己の詩集」(『日本未来派』10月号)
		「現代詩の史的構造」(『現代日本代表作詩集』)10月
		「現代詩の位置」(『国鉄情報』8号(昭和23年12月))

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「座談会 現代詩の核心をめぐって」 (『歷程』12月号)
1949 (昭和24)	43	「現代詩の概観」 (『文芸』6巻7号)
		「アメリカの現代詩」 (『女性線』8月号)
		「近代詩における〈美〉の意識」 (『短歌研究』6巻9号)
		「郷土の詩人たち」 (『上毛新聞』11月6日)
		「あとがき」 (『新日本詩集 一九四九年版』12月) 無署名
		「歷程の回想」 (『詩学』4巻8号)
1950 (昭和25)	44	『高村光太郎詩集』高村光太郎 著 伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫11月20日)
		「回想の萩原朔太郎」 (『日本未来派』1月号)
		「読書論」連載3回 (『女性展望』4月号、5月号、6月号)
		「抒情詩—現代詩における抒情の意味」 (創元社版『現代詩講座』2巻)
		「二つの詩集とその挿話」 (『新日本詩人』2巻2号)
		「書評 壺井繁治・遠地輝武共著『日本解放詩集』—全人民解放の前夜の歌」 (『詩学』5巻5号)
		「現代詩の意味」連載3回 (『交通ペン』6月号、7月号、8月号) 雑誌廃刊により中断
		「現代詩の歴史」 (創元社版『現代詩講座』3巻)
		「解説」 (創元選書 萩原朔太郎著『詩の原理』)
		「省吾の『耕地を失ふ日』」「一つの発言」 (『新日本詩人』2巻3号)
		「解説」 (新潮文庫『高村光太郎詩集』)
		「書評 河出書房版『日本現代詩大系第一巻』—出発点を探る」 (『東京新聞』11月2日)
		「『桃の雫』その他」 (新潮社版『島崎藤村全集』15巻月報)
		「読者文芸 (詩部門選評)」 (『新女性』1950年10月創刊) 1951年~53年の切り抜きあり
1951 (昭和26)	45	『萩原朔太郎全集 全8巻』萩原朔太郎 [著] 伊藤信吉[ほか]編 (創元社 3月15日) ④~⑧「解説」、⑧「萩原朔太郎著作目録」
		『近代詩入門講座』村野四郎・北川冬彦・金子光晴・伊藤信吉共編 (新興出版社 10月15日)
		『世界現代詩辞典』伊藤信吉[ほか]共著 (創元社 11月30日)
		「二人の詩人」 (『新日本詩人』6号 (昭和26年1月))
		「歴史と回想」 (河出書房版『日本現代詩大系』8巻月報5)
		「覚書『詩の作り方』について」 (『歷程』35号)
		「批評的精神—『草野心平詩集』」 (掲載誌不詳)
		「編集者のノート」 (創元社版『萩原朔太郎全集』8巻月報)
		「萩原朔太郎について—抒情の近代的成熟」 (『日本読書新聞』4月4日)
		「島崎藤村篇」 (『現代詩鑑賞』1巻)
		「大正篇—詩書による日本詩史2」 (『現代詩新講』宝文館)
		「現代の文学者 高村光太郎」 (筑摩書房版『文学講座』Ⅲ文学のジャンル)
		「『民衆派』と詩壇の十年」 (河出書房版『日本現代詩大系』4巻月報9)
		「昭和詩史」 (『近代詩入門講座』1巻 新興出版)
		「現代詩の動向」 (『現代日本への考察』慶文社)
		「解説」 (創元社文庫 萩原朔太郎著『宿命』)
		「解説」 (新潮文庫 萩原朔太郎著『郷愁の詩人と謝蕪村』)
1952 (昭和27)	46	『銀行員の詩集 1952年版』全銀連文化部 編 野間宏 伊藤信吉 選 (全国銀行従業員組合連合会文化部)
		『現代詩の鑑賞 上』伊藤信吉 著 (新潮社 新潮文庫 6月28日)
		『日本詩人全集6 昭和篇1』小野十三郎 伊藤信吉 大江満雄 [ほか]編 (創元社 創元文庫 8月5日)
		「現代詩の概観」 (『文芸』4月号)
		「書評 三好達治著『駱駝の瘤にまたがって』—抒情の生命」 (『日本読書新聞』4月23日)
		「選をめぐって」 (野間宏との共編『銀行員の詩集 一九五二年版』)
		「近代詩と市民精神—あるいは都会情調と市民精神の片影」 (『至上律』11集)
		「詩壇時評」連載4回①心ひかれた白鳥の散文詩 ②詩書に看取される二つの潮流 ③目立つ“国民詩”という言葉 ④来年はもっと内面的な追求を (『東京新聞』7月3日、10月9日、11月9日、12月21日)
		「日本現代詩」 (『日本読書新聞』7月23日)
		「選後に (詩部門)」 (『国鉄文化』6巻4号『第一回文芸年度賞作品集』国鉄労働組合)
		「『家』についての回想・その他」 (河出書房版『現代日本小説大系』10巻月報59)
		「島崎藤村の生涯と作品」 (『国文学解釈と鑑賞』17巻9号)
		「書評『深尾須磨子詩集』」 (『読売新聞』12月12日)
		「解説」 (創元社文庫 萩原朔太郎著『新しき欲情』)
		「達治」 (新興出版版『近代詩入門講座』3巻)
1953 (昭和28)	47	『高村光太郎詩集』高村光太郎 著 伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 6月25日)
		『銀行員の詩集 1953年版』全銀連文化部 編 野間宏 伊藤信吉 選 (全国銀行従業員組合連合会文化部 7月25日)
		『現代日本詩人全集11巻 三好達治 丸山薫 田中冬二 立原道造 伊東静雄 津村信夫』金子光晴 西脇順三郎 三好達治 北川冬彦 中野重治 草野心平 村野四郎 伊藤信吉 責任編集 (創元社 11月20日)
		「新しき生命の胎動」 (『交通新聞』1月1日)
		「『アカシア』によせる」 (全銀連機関誌『ひろば』1月15日)
		「青春の郷愁—白秋・藤村」 (『婦人倶楽部』1月号)
		「叙情詩」連載6回①藤村・白秋 ②光太郎 ③春夫・朔太郎 ④元麿・大学 ⑤賢治・喜八 ⑥達治・中也 (『婦人倶楽部』1月号-6月号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「日本恋愛名詩選」(『新女苑』2月号)
		「解説」(創元社文庫 萩原朔太郎著『港にて』)
		「現代詩壇の動向」連載3回①社会的感覚の欠乏 ②無風帯からの脱出 ③生活意識の表現(『東京新聞』4月19日-21日)
		「選をめぐって」(『銀行員の詩集』2集)
		「近代詩」(三省堂版教科書『新国語』)
		「書評 呉羽紡績労働組合文教部編『機械のなかの青春』」(『新読書』6月号)
		「解説」(創元社文庫 萩原朔太郎著『絶望の逃走』)
		「解説」(新潮文庫『高村光太郎詩集』)
		「解説」(創元社文庫 萩原朔太郎著『恋愛名歌集』)
		「選者のことば」(『国鉄文化』7月号)
		「詩の鑑賞」連載7回①石川啄木「激論」②宮沢賢治「広原淑女」③千家元麿「自分は見た」④中野重治「雨の降る品川駅」⑤白鳥省吾「殺戮の殿堂」⑥金子光晴「富士」(『新女性』7月号-12月号)
		「詩壇時評 論争回復の前提条件が未解決」(『東京新聞』8月11日)
		「山岳詩集」(『国鉄文化』9月号)
		「書評『日本民謡集』」(『日本読書新聞』9月7日)
		「近ごろの詩集から—アンソロジーの流行」(『朝日新聞』9月25日)
		「短歌評」(『新日本歌人』9月号)
		「ヒューマンズ詩人の系譜—尾崎喜八の詩をめぐって」「編集後記・旅途」「座談会 伝統と創造について」連載2回①(『亜細亜詩人』1巻1号)9月
		「職場詩人の進出」(『図書新聞』9月12日)
		「解説」「年譜」(角川書店版『昭和文学全集』22巻 高村光太郎・萩原朔太郎集)
		「『破戒』初版本について」(『日本読書新聞』10月12日)
		「全国サークル誌めぐり—京都のサークル」(『新読書』10月10日)
		「一九五二年の詩壇を回顧して」(『現代詩代表選集4 一九五三年版』)
		「詩壇の輪郭を示す—三冊の詩集を読んで」(『図書新聞』11月)
		「詩における遺産継承について 明治・大正・昭和の詩(第二回詩研究会より)」(『詩運動』2号(昭和28年4月))
		「プロレタリア詩運動回顧」(『列島』9号(昭和28年7月))
		「座談会 現代詩について」高村光太郎・金子光晴ほか(『群像』8巻12号)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』11巻)
		「詩壇この一年」連載2回①平均化と普及化 ②持越される課題(『東京新聞』12月26日、27日)
		「詩はどうしてつくる」(『新読書』12月26日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』4巻)
1954 (昭和29)	48	『現代詩の鑑賞 下』伊藤信吉 著 (新潮社 新潮文庫 4月30日)
		「詩の鑑賞」連載7回⑦室生犀星「氷を愛する歌」(『新女性』1月号)
		「勤労詩の展望」(『群像』9巻1号)
		「奇才の文学」連載2回(『新夕刊』1月11日、18日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』8巻)
		「日本の近代詩」(『岩波講座文学 5巻 国民の文学2近代篇』)
		「同人雑誌評」(『図書新聞』2月20日)
		「詩壇時評」連載7回①批評の欠乏と狭い詩的意識 ②拡大される現代詩の基盤 ③国際会議と『死の灰詩集』 ④最近の詩集から ⑤現代詩壇の新人たち ⑥国際詩人会議と『死の灰詩集』 ⑦一時代層を形成した詩人たち(『東京新聞』3月1日、7月19日、8月18日、9月10日、10月18日、12月9日、12月27日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』7巻)
		「書評 村野四郎著『現代詩読本』」(『日本読書新聞』4月5日)
		「高村光太郎論—その社会的側面について」(『明治大正文学研究』12号 東京堂)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』12巻)
		「サークル詩に期待—『年刊現代詩集』を中心に」(『読売新聞』4月18日)
		「講座 詩作の第一段」(『詩運動』5月号)
		「二十人の詩と真実」(『松川詩集』宝文館)
		「現代詩の動向」(『北海道新聞』5月11日)(『西日本新聞』6月16日)
		「書評 山宮允著『近代詩の詩的展望』」(『図書新聞』5月15日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』5巻)
		「松永延造のこと(奇才の文学)」「座談会 伝統と創造について」連載2回②(『亜細亜詩人』2巻1号)6月
		「最近の詩雑誌から」(『日本読書新聞』6月14日)
		「選をめぐって」(『銀行員の詩集』3集 一九五四年版)
		「現代詩の到達点」(『現代詩』1巻1号)
		「詩壇の動向」(『文芸年鑑』一九五四年版)
		「現代詩の未来性」(『鉄路のうたごえ—国鉄詩集』三—書房)
		「解説」(筑摩書房版『現代日本文学全集』24巻 高村光太郎・萩原朔太郎・宮沢賢治集)
		「プロレタリア詩運動回顧」(『列島』9号(昭和29年7月))
		「プロレタリア詩運動回顧Ⅲ」(『列島』11号(昭和29年11月))
		「書評 金子光晴著『現代詩の鑑賞』」(『日本読書新聞』8月7日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』1巻)
		「残暑」(『北国新聞』8月24日)
		「八月某日」(『詩学』8月号)
		「今日の詩壇地図」(『図書新聞』9月25日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「書評 高桑純夫著『現代イデオロギー』」(『出版ニュース』9月号)
		「座談会 現代詩の焦点」(『詩学』9月号)
		「座談会 詩における近代主義の諸問題」(『現代詩』1巻3号)
		「現代の古典」連載3回①『どんでん歌』②『死刑宣告』③日本社会詩人詩集(『現代詩』1巻4号、1巻5号、2巻1号(昭和29年10月-30年1月))
		「書評 書肆コリイカ版『戦後詩人全集』」(『日本読書新聞』10月18日)
		「解説」(新潮文庫 萩原朔太郎著『詩の原理』)
		「日記」(『詩学』9巻10号)
		「現代詩とは何か」(『国文学解釈と鑑賞』19巻11号)
		「書評『死の灰詩集』」(『中部日本新聞』11月9日)
		「座談会 絢爛と孤独・白秋の現代的意義」(『短歌』1巻11号)
		「現代詩の概観」(河出書房版『文章講座』5巻 創作の方法(2))
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』序巻)
		「解説」(創元社版『現代詩人全集』10巻)
		「『鏗詩集』の印象」(『現代詩』1巻5号(昭和29年12月))
		「現代詩の問題」(『日本文学講座』2巻 日本の詩歌 東京大学出版会)
		「現代詩の概観」(河出書房版『文章講座』5巻)
		「一九五四年度の収穫・詩」(『国文学解釈と鑑賞』19巻12号)
		「解説」(角川文庫 萩原朔太郎著『恋愛名歌集』)
1955 (昭和30)	49	「学校の詩サークルの詩」伊藤信吉 著者代表 (東京創元社 10月5日)
		「現代詩史の見方・学び方」(『文章倶楽部』7巻1号)
		「雪の町金沢」(『東京新聞』1月15日)
		「現代詩の主題『松川詩集』『死の灰詩集』をめぐって」(『現代詩』1月号)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』13巻)
		「解説」(新潮文庫 萩原朔太郎著『新しき欲情』)
		「詩」(『世界文化年鑑』平凡社)
		「教科書にあらわれた文学教材 詩歌一」(『文学の創造と鑑賞』岩波書店)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』2巻)
		「解説」『小伝』(創元社版『現代日本詩人全集』6巻)
		「春の水」(『東京タイムズ』4月7日)
		「書評 国分一太郎著『教師の詩集』」(『日本読書新聞』4月11日)
		「現代詩の到達点」(『現代詩集 一九五五年版』)
		「詩における社会性と芸術性」連載2回①スペンダーの論旨 ②主題の成熟の方式(『東京新聞』5月8日、9日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』14巻)
		「新鮮に指標」(『ポエムライブラリー 内容見本』創元社)
		「『銀行員の詩集』にみる銀行員の像」(全銀連機関誌『ひろば』6月号)
		「私の読書遍歴一(生活性)中心の雑誌」(『日本読書新聞』6月13日)
		「文芸批評サークル詩をめぐって」(『知性』6月号)
		「解説」『小伝』(創元社版『現代日本詩人全集』9巻)
		「座談会 サークル詩とはどういうものか」(『現代詩』2巻6号)
		「座談会 現代詩・現代短歌・現代俳句」(『短歌』2巻7号)
		「現代詩をどう読むか」(『文学界』9巻7号)
		「人物案内 村野四郎」(『群像』7月号)
		「座談会 短歌は滅亡するか」(『短歌』2巻8号)
		「詩は難解か?への解答」(『産経新聞』8月8日)
		「詩壇時評」連載3回①戦後の十年をふり返って ②詩劇の可能性はどこにあるか ③詩的世界の拡大を中心に(『東京新聞』8月6日、9月17日、12月28日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』3巻)
		「詩人全集刊行にかかわる三度目の秋に」(創元社版『現代日本詩人全集』3巻月報15)
		「別編(1) 詩」(『文学五十年』時事通信社)
		「朔太郎の前橋詩碑」(『BOOKS』77号)
		「現代文学に於ける詩の位置」(『現代詩入門』11月号)
		「書評『朝鮮詩集・許南驥詩集』」(『日本読書新聞』10月3日)
		「解説」(創元社版『現代日本詩人全集』15巻)
		「生活の岸辺に—学校の詩サークルの詩」(『創元社ポエムライブラリー』10月5日)
		「現代詩の鮮度感覚」(『現代詩』2巻10号)
		「言葉・ことば」(『出版新報』10月10日)
		「現代詩の一視点」(『馬酔木』10月号)
		「東北の詩人たち」(『東京新聞』10月22日) ※1958年にも同じスクラップあり
		「古さと新しさ」(『詩学』10巻11号)
		「詩論の周辺」(河出書房版『現代文学論大系』7巻月報)
		「詩作の態度」(『三田文学』11月号)
		「生活を明るくする四つの詩」(『オール生活』11月号)
		「日本社会詩人詩集」(『日本プロレタリア文学大系』月報 『現代詩』昭和30年1月号からの転載)
		「選後の感想(詩部門)」(『国鉄文化』昭和30年1月号附録『第2回文芸年賞作品集』)

西暦 (和暦)	年齢	著作
1956 (昭和31)	50	「講座『初心者のための「現代詩教室」』」(〔東京都教育委員会〕11月27日から12月5日までの講義のテキスト)
		『日本文学アルバム17 萩原朔太郎』伊藤信吉 構成解説 大竹新助 撮影 (筑摩書房 2月20日)
		『現代作詩講座1 詩作の手がかり』壺井繁治 村野四郎 伊藤信吉 編 (酒井書店 11月25日)
		『現代作詩講座2 名作にまなぶ』壺井繁治 村野四郎 伊藤信吉 編 (酒井書店 11月25日)
		『現代作詩講座3 詩の作りかた』壺井繁治 村野四郎 伊藤信吉 編 (酒井書店 12月15日)
		「金沢の旅をめぐって」(『北国新聞』1月19日)
		「未来派の詩の導入」(『詩学』11巻1号)
		「書評 菊地重三郎著『鸚鵡の唇』」(『日本読書新聞』1月30日)
		「内灘周辺の旅」(『現代詩』3巻2号)
		「『白樺』の詩人たち」(『明治大正文学研究』18号(昭和31年1月))
		「書評 高杉一郎著『盲目の詩人エロシェンコ』」(『日本読書新聞』2月27日)
		「萩原朔太郎」「解説」(筑摩書房版『日本文学アルバム』17 萩原朔太郎)
		「対談・鮎川信夫『現代詩教室』」連続8回①詩人の自己完成 ②現代詩と伝統詩との関係 ③生活詩の書き方 ④詩を書く心得 ⑤比喩の限界 ⑥繰返しの効果 ⑦非常識な表現 ⑧期待できる農民詩的傾向(『文章倶楽部』8巻2号-9巻3号)
		「書評 藤島宇内著『もしも美しいまつ毛の下に』」(『東京新聞』4月30日)
		「詩人高村光太郎 詩的道程について」(『芸芸臨時増刊高村光太郎読本』)
		「私の原稿用紙」(『図書新聞』6月9日)
		「現代の表情 国鉄被服工場-ミシンの中の青春」(『東京新聞』6月17日)
		「現代詩の主題『松川詩集』『死の灰詩集』を中心に」(『年刊現代詩集 3集 一九五六年版』宝文社)
		「解説」(角川文庫『萩原朔太郎詩集』)
		「解説」(『野菊の墓・隣の嫁』現代社)
		「詩の選の感想」(『四鉄思想』8月号)
		「『北見の海岸』によせて」(『全通文化』8月号)
		「詩壇時評」連載2回①『死の灰詩集』論争につづく問題 ②時評誌の刊行と現代詩の動向(『東京新聞』8月23日、10月15日)
		「解説」(角川文庫 中勸助著『母の死』)
		「書評 佐藤春夫著『小説高村光太郎 一追憶のもつ実感』」(『日本読書新聞』10月15日)
		「現代詩小史一『殉情詩集』のころ」(河出書房版『佐藤春夫全集』1巻月報)
		「現代詩小史二一逆事件と詩人の反応」(河出書房版『佐藤春夫全集』2巻月報)
		「現代詩の側からの望見」(『短歌を作る人に』創元社)
		「稲垣定徳という詩人」『編集室にて』(『季節』1巻1号創刊号)
		「一つの感想」(筑摩書房版『宮澤賢治全集』5巻月報8)
		「書評 室生犀星著『誰が屋根の下』」(『図書新聞』11月10日)
		「松本千鶴とその詩のこと」(『歷程』56号)
		「花の輪-全電通詩人連盟結成大会から」(『現代詩』3巻11号(昭和31年12月))
「藤村の詩・解説」(筑摩書房版『藤村全集』1巻月報)		
「二つの世界の平行-今年の詩壇を回顧して」(『東京新聞』12月25日)		
「生命力に充ちた詩的世界(高村光太郎)」(『日本読書新聞』843号(昭和31年4月))		
「編集ノート」(『季節』1巻2号(昭和31年12月))		
1957 (昭和32)	51	「現代詩」連載17回 ②現代詩の形態 ④詩におけるデフォルマション ⑥現代の定型詩について(『国文学解釈と鑑賞』22巻1号-23巻7号)
		「『非凡なる人』の手」(『歷程』57号(昭和32年1月))
		「期待する新人」(『産経新聞』1月6日)
		「小説に描かれた詩人の生涯」(『日本読書新聞』1月28日)
		「昭和期の詩人II 序論及び展望 光晴・新吉・心平・猿-アナーキズムの詩人・マルキシズムの詩人・ヒューマニズムの詩人」(『現代詩講座』3巻 酒井書店)
		「書評 鮎川信夫・疋田寛吉著『抒情詩のためのノート』」(『東京新聞』3月13日)
		「現代詩の回想-『学校』の詩人たち①」(『歷程』60号(昭和32年4月))
		「高村光太郎の周辺-現代詩の回想」(『季節』2巻1号)
		「『国鉄詩集』一九五七年版について(1)「あとがき」の中の問題」(『国鉄詩人』40号)
		「書評 今宮一著『詩人福士幸次郎 一詩人の生涯』」(『図書新聞』5月25日)
		「座談会 現代詩の難解性」(『季節』2巻2号)
		「座談会 現代詩を中心とする伝統性の問題」(『季節』2巻3号)
		「人柄の一面」(筑摩書房版『高村光太郎全集』4巻月報3)
		「東京の蜚」(『芸芸広場』7月号)
		「生活を語りはじめた全電通の詩」(『全電通文化』17号)
		「詩壇時評 難解な詩と分かりやすい詩」(『東京新聞』7月15日)
		「生活性の問題を中心に-全電通詩集について」(『詩のつどい』5号)
		「書評 室生犀星著『哈爾詩集』」(『日本読書新聞』9月1日)
		「宮澤賢治の世界」連載2回(『東京新聞』9月19日、20日)
		「萩原朔太郎詩碑をめぐって」(『桑弓』15号前橋高校芸芸部)
		「現代詩と新人たち」(『産経新聞』10月24日)
		「座談会 高村光太郎と萩原朔太郎」(『婦人公論』43巻12号)
		「伝統詩と現代詩との接点(1)」(『短歌研究』14巻1号)
		「伝統詩と現代詩との接点(2)」(『短歌研究』14巻2号)
		「伝統詩と現代詩・断章」(『短歌研究』14巻3号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「伝統詩と現代詩との接点(3)-第三の詩のために-」(『短歌研究』14巻4号)
		「『愛誦』についての回想」(『短歌研究』14巻11号)
		「編集ノート」(『季節』2巻1号(昭和32年2月))
		「編集ノート」(『季節』2巻2号(昭和32年5月))
		「編集ノート」(『季節』2巻3号(昭和32年7月))
		「編集ノート」(『季節』2巻4号(昭和32年11月))
		「選評」(『国鉄文化』昭和32年7月 別冊『第4回文芸年度賞作品集』)
1958 (昭和33)	52	『高村光太郎 その詩と生涯』伊藤信吉 著 (新潮社 3月20日)
		『室生犀星作品集』室生犀星 著 伊藤信吉 編集・解説 (新潮社)
		詩「故郷 第三」「冢系」「陸橋」「手紙に代えて」「光について」「夜警」「並木の下にて」「七月」「永日」「蚕」(筑摩書房版『現代日本文学全集』89巻)再録
		「現代詩の回想一『学校』の詩人たち②-⑨」(『歷程』61号-68号)
		「無村と朔太郎」(『国文学解釈と教材の研究』3巻3号)
		「島崎藤村・作家論と作品論一詩から散文へ」(『国文学解釈と鑑賞』3月号)
		「中野鈴子さんのこと」(『新日本文学』13巻3号)一田アキ
		「編集ノート」(『季節』3巻1号(昭和33年1月))
		「座談会 詩と小説について」(『季節』3巻2号(昭和33年3月))
		「編集ノート」(『季節』3巻3号(昭和33年5月))
		「教科書にあらわれた文学教材詩歌」(岩波講座『文学の創造と鑑賞』5巻 文学の学習と教育)
		「地味な詩の世界」(『朝日新聞』4月4日)
		「『日本の詩』の広場 日本詩の領域を探ろう」(『短歌研究』15巻4号)
		「詩人と洋酒-新しい情緒の夜明け」(『オーシャン』4月号)
		「詩壇時評 現代詩はおもしろくないか」(『東京新聞』4月20日)
		「大正期の詩と詩人」(『国文学解釈と教材の研究』3巻6号)
		「書評 井上靖著『北国』と『神西清詩集』」(『日本読書新聞』5月5日)
		「断片的な回想から」(筑摩書房版『世界文学大系』5巻月報)
		「座談会 現代詩における外国詩の影響」連載2回(『季節』3巻4号、5号)
		「座談会 詩壇に新風」(『法制』7月号 法政大学)
		「座談会 芭蕉を語る」(『近代文学』8月号)
		「解説 近代の詩人たち・現代の詩人たち」(河出書房新社版『日本国民文学全集』34巻 現代詩集)
		「詩壇時評 現代と小説のつながり」(『東京新聞』10月20日)
		「東北の詩人たち」(『東京新聞』10月22日)※1955年にも同じスクラップあり
		「書評 横田正知著『宮澤賢治』」(『日本読書新聞』11月3日)
		「死後二七年の文学碑-石川善助詩碑によせて」(『歷程』11月号)
		「座談会 国民詩集」(角川書店版『現代国民文学全集』36巻月報36)
		「詩人という貧乏族」(掲載誌不詳、12月末)
		「書評 室生犀星著『我が愛する詩人の伝記』」(『産経新聞』12月22日)
		「詩のことに触れて」(新潮社版『堀辰雄全集』6巻月報6)
		「推薦の言葉」(『尾崎喜八詩文集』内容見本)
		「感動の原点」(『尾崎喜八詩文集』月報)
		「『浪漫的亡命者たち』と『都市』」(掲載誌不詳)
		「詩運動の問題点」(『全電通文化』22号(昭和33年7月))
1959 (昭和34)	53	『萩原朔太郎全集 全5巻』萩原朔太郎 [著] 室生犀星 三好達治 伊藤信吉 編 (新潮社 4月~)
		「旅情の発想 詩人としての島崎藤村について」(『古典の窓』創刊号)
		「書評 堀内敏三・井上武士編『日本唱歌集』」(『日本読書新聞』1月26日)
		「対談・安藤一郎『室生犀星著『我が愛する詩人の伝記』について』」(NHKラジオ2月1日)
		「白樺派と詩」(『国文学解釈と教材の研究』4巻3号)
		「詩壇時評 延びてきた詩雑誌の年齢」(『東京新聞』2月25日)
		「現代詩の回想一『学校』の詩人たち⑩-⑫」(『歷程』71号-73号)
		「書評 坪井繁治著『現代詩の流域』」(『週刊読書人』3月31日)
		「詩の作り方」連載6回(『みどり』3月号-8月号)
		「作品年譜」(新潮社版『萩原朔太郎全集』1巻)
		「詩・生活・朔太郎」(新潮社版『萩原朔太郎全集』1巻月報)
		「近代の恋愛詩について」(『みどり』4月号)
		「書評 尾崎喜八詩文集『空と樹木』一人道的詩人の道標」(『東京新聞』4月6日)
		「現代の眼・萩原朔太郎」(『東京新聞』5月11日)
		「書評『国鉄詩人連盟十年史』」(『日本読書新聞』6月8日)
		「書評 中村稔編『中原中也研究』」(『日本読書新聞』6月22日)
		「ある記憶」(筑摩書房版『佐多稲子作品集』2巻月報11)
		「高村光太郎の人と作品」「作品鑑賞」「宮澤賢治の人と作品」「作品鑑賞」(角川書店版 伊藤信吉編『近代文学鑑賞講座』16巻)
		「花巻紀行一二つの詩碑のほとろ」(角川書店版『近代文学鑑賞講座』16巻月報10)
		「書評 中野重治著『梨の花』」(『東京新聞』6月8日)
		「私設『歷程賞』のこと」(『歷程』75号(昭和34年6月))

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「後書」「作品年譜」(新潮社『萩原朔太郎全集』2巻)
		「若き日の交友」(新潮社『萩原朔太郎全集』2巻月報)
		「人道派・人生派(現代詩・三代詩史と鑑賞)」(『国文学解釈と鑑賞』24巻8号)
		「近代作家の照明—萩原朔太郎」連載2回(『日本読書新聞』8月17日、31日)
		「宮澤賢治—表現意識と生活性」(『東京新聞』9月21日)
		「西洋の抒情詩について」(『みどり』11月号)
		「イマジズムの詩人たち」(近代文芸復刻叢刊5巻「卓上噴水」別冊解説 冬至書房)
		「作品年譜」(新潮社『萩原朔太郎全集』3巻)
		「著書について」(新潮社『萩原朔太郎全集』3巻月報)
1960 (昭和35)	54	「ロバでめぐる旅」(『群像』15巻2号)
		「書評 村野四郎著『亡羊記』・西脇順三郎著『失われた時』」(『産経新聞』2月8日)
		「小説氾濫時代の詩」(『産経新聞』2月11日)
		「季節感と李太郎と伊東印象記」(『伊豆』4巻2号)
		「高村光太郎」(『文学碑めぐり』弥生書房)
		「風土病と年齢」(『人間専科』3月号)
		「最近の女流作品から—小川恵似子著『海の影』・由起しげ子著『契約結婚』・渡辺喜恵子著『地藏流し』・有吉佐和子著『祈祷』」(『東京新聞』4月6日)
		「拓次の顔」(『秩序』4月号)
		「石川啄木・清貧と苦悩の文学」(『マドモアゼル』5月号)
		「『感情』グループについて」(近代文芸復刻叢刊『感情』別冊解説 冬至書房)
		「書評 『感情』復刻版」(『週刊読書人』5月16日)
		「後書」「覚書」「作品年譜」(新潮社『萩原朔太郎全集』4巻)
		「詩碑をめぐって」(新潮社『萩原朔太郎全集』4巻月報)
		「近代詩の本質と方法」(角川書店『近代文学鑑賞講座』25巻)
		「木村好子とその詩集に寄せて」(『新日本詩人』6月号)
		「書評 大谷藤子著『断崖』・円地文子著『高原抒情』『朱を奪ふもの』」(『東京新聞』6月29日)
		「近代詩人における世代と教養」(『国文学解釈と教材の研究』5巻7号)
		「詩碑のほとりで」連続4回①高村光太郎②立原道造③萩原朔太郎④宮沢賢治(NHKラジオ)
		「室生犀星の詩情」(『マドモアゼル』7月号)
		「『驢馬』の一族再会」(『新潮』57巻7号)
		「書評 室生犀星著『舌ぐるうた』」(『週刊読書人』8月1日)
		「室生犀星と中野重治」(『新潮』8月号)
		「年譜の中の横顔」(『東京新聞』8月25日)
		「最近の女流作品から—由起しげ子著『夢違い』・森本ヤス子著『悪童女』・池田みち子著『黒い手』」(『東京新聞』9月7日)
		「書評『光太郎智恵子』」(『共同通信』9月27日)
		「『見本』一部の詩集のこと」(『中野重治研究』筑摩書房版『中野重治全集』付録)
		「『国外文学の魅力』」(『マドモアゼル』9月号)
		「新聞と私」(『東京新聞』10月2日)
		「時間」(『老壮』10月号)
		「大逆事件の落穂」(『新潮』57巻11号)
		「文学的生い立ち」(新潮社『萩原朔太郎全集』5巻月報)
		「萩原朔太郎年譜」(角川書店版 伊藤整編『近代文学鑑賞講座』15巻)
		「萩原朔太郎像への照明—付・参考文献目録」(角川書店版『近代文学鑑賞講座』15巻月報)
		「音楽の中の詩人」(角川書店版『近代文学鑑賞講座』19巻月報)
		「解説」(角川文庫『現代詩人全集』5巻)
		「日本の詩碑」連載10回(創元社版『現代日本名詩集大成』月報)
		「高村光太郎(1)」(明治書院版『現代文学講座』5集大正編Ⅰ)
1961 (昭和36)	55	『萩原朔太郎年譜』伊藤信吉 編 (新潮社『萩原朔太郎全集』5巻 抜刷製本)
		『山村暮鳥全詩集』山村暮鳥 [著] 伊藤信吉 壺井繁治 藤原定 山室静 編 (弥生書房 2月15日)
		角川文庫『愛の詩集』室生犀星 著 伊藤信吉 解説 (角川書店 8月10日)
		『山村暮鳥全集』山村暮鳥 [著] 伊藤信吉 草野心平 土田ふじ子 壺井繁治 花岡謙二 人見丹吉 藤原定 室生犀星 山室静 編 (弥生書房 12月5日)
		詩「故郷 第三」(角川文庫『現代詩人全集』6巻)
		詩「天の手紙」(『山梨時事新聞』『信濃毎日新聞』12月1日ほか 共同通信配信)
		「誘惑された地点で」(筑摩書房版『新鋭文学叢書』3巻月報8)
		「『亡羊記』への途」(新潮文庫『村野四郎詩集』)
		「女性詩人の場—『室生犀星詩人賞』をめぐって」(『新潮』58巻2号)
		「書評 郷正文著『蛇行』」(『マドモアゼル』2月号)
		「大逆事件の落穂 萩原朔太郎をめぐって」(『自由思想』4号)
		「ホイットマンとクローデル」(筑摩書房版『外国人の見た日本』4巻付録)
		「書評 『伊東静雄全集 第一巻』」(『週刊読書人』3月20日)
		「版画と詩との交流—田中恭吉の遺作と『月と吠える』のこと」(『美術ジャーナル』4月号)
		「宿命論の一点 朔太郎覚え書」(『自由思想』5号)
		「高村光太郎(2)」「室生犀星(1)」「萩原朔太郎」「宮澤賢治(2)」(明治書院版『現代文学講座』7集 大正編Ⅲ)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「野口米次郎」(明治書院版『現代文学講座』4集 明治編IV)
		「暮鳥偶感」(弥生書房版『山村暮鳥全集』内容見本)
		「萩原朔太郎の抛った雑誌のこと」(『本の手帖』3号)
		「見えない人の眼」(『寶石』6月号)
		「書評 内海信之著『詩集硝煙』—明治の反戦詩」(『日本読書新聞』6月19日)
		「年譜製作者の悲しみ—萩原朔太郎年譜」をめぐって」(『詩学』16巻8号)
		「年輪の中の青春『プロレタリア詩研究会』のこと」(『新潮』58巻8号)
		「詩人における人間研究の意味」(『国文学解釈と教材の研究』6巻10号)
		「近代象徴詩の展開」(『文学』29巻9号)
		「散歩の途上で」(『杉並の会』12号)
		「手紙に代えて—解説」(『遠地輝武詩集』新日本詩人社)
		「虚妄の詩人たち—辻潤と萩原朔太郎のこと」萩原朔太郎『日本反戦詩集』全11集」(『自由思想』7号)
		「解説」(角川文庫『現代詩人全集』6巻)
		「解説」(角川文庫『現代詩人全集』4巻)
		「河井醉茗氏について(ハガキ回答)」(『詩界』64号(昭和36年5月))
1962 (昭和37)	56	<b>『鑑賞現代詩 II 大正篇』伊藤信吉 著 (筑摩書房 1月25日)</b>
		『近代詩』三好達治 伊藤信吉 編 (角川書店 4月5日)
		『光太郎のうた』高村光太郎 [著] 伊藤信吉 編 (社会思想社 現代教養文庫 10月15日)
		『高橋元吉詩集』高橋元吉 著 伊藤信吉編(河出書房新社 12月20日)
		「魅惑性の文学—現代詩の可能性ということ」(『短歌研究』19巻1号)
		「続『感情』グループについて」(近代文芸復刻叢刊「感情」別冊解説 冬至書房)
		「結晶しない宝石短歌における萩原朔太郎」(『短歌』9巻3号)
		「五十五年の詩的道程」(『東京新聞』3月14日)
		「抒情詩の二つの結晶」(『週刊読書人』4月23日)
		「アンソロジーの変遷」(角川書店版『近代文学鑑賞講座』23巻月報21)
		「近代詩の図譜—象徴詩を中心に」『作品鑑賞』「近代詩の歴史的概観—近代詩から現代詩への推移」(角川書店版 三好達治・伊藤信吉編『近代文学鑑賞講座』23巻) 4月5日
		「書評 室生犀星著『われはうたへどもやぶれかぶれ』」(『図書新聞』5月26日)
		「近代詩の終焉—時代の詩人たちの往来とその死」(『文芸』1巻4号)
		「詩碑のほとりて(文学の窓)」(『文学』30巻6号)
		「虚無の一地带で—辻潤と萩原朔太郎」連続4回(『本の手帖』2巻5号—8号)
		「空の仕事場」(『電信電話』7月号)
		「大衆的な詩と純粋な詩」(『東京新聞』7月31日)
		「“新しき村”跡を訪ねて」(『東京新聞』8月13日)
		「三好達治詩集の集まり(文壇)」(『新潮』59巻8号)
		「賢治・その詩の世界」(『高校コース』9月号)
		「現代詩」(吉田精一編『現代日本文学・現代世界文学研究叢書』3巻 有信堂)
		「座談会 <散文>でないもの」(『国語通信』53号)
		「『年譜』というもの」(『新潮』59巻10号)
		「高踏派の詩について—近代象徴詩とのかかわりにおける試論」(『文学』30巻10号)
		「詩と版画の交流—田中恭吉・愚地幸四郎と萩原朔太郎の往来」連続2回(『本の手帖』2巻9号、10号)
		「思考と認識の貧しさ—現代詩停滞の欠陥」(『神戸新聞』11月10日)
		「近代詩における風土」『北原白秋』(『国文学解釈と教材の研究』7巻14号)
		「生の一つの場で—高橋元吉の世界」(『高橋元吉詩集』)
		「『浄罪詩篇』の周辺」座談会 萩原朔太郎の世界」(『無限』12号)
		「解説」(角川文庫『現代詩人全集』2巻)
		「暮鳥の随想について」(筑摩書房版『山村暮鳥全集』2巻月報2)
		「室生さんの詩の一側面」(『風』4号(昭和37年7月))
1963 (昭和38)	57	<b>『逆流の中の歌 詩的アナキズムの回想』伊藤信吉 著 (七曜社 11月20日)</b>
		詩「故郷 第三」「蚕」(『類別日本詩集』文芸新聞社)
		詩「河」(『詩学』18巻4号)
		「人間としての詩人」(角川書店版『現代詩人全集』6巻 中野重治集』月報)
		「続・虚無の一地带で—生田春月と萩原朔太郎の往来」(『本の手帖』3巻1号)
		「『日本詩人』(雑誌と私)」(『文芸』2巻2号)
		「書評 新保千代子著『室生犀星 ききがき抄』」(『東京新聞』2月6日)
		「書評 佐多稲子著『女の宿』」(『週刊読書人』2月18日)
		「詩壇時評『雨二モマクス』論争」(『愛媛新聞』2月24日 共同通信)
		「生の一つの場で」(『高橋元吉の世界』再録)
		「高村光太郎入門」「宮澤賢治入門」(講談社版『日本現代文学全集』40巻)
		「座談会 高村光太郎・宮澤賢治」(講談社版『日本現代文学全集』40巻月報29)
		「座談会 <近代修身>のゆくえ—特集・村野四郎の詩と論理」(『現代詩手帖』6巻3号)
		「小引」(近代文芸復刻叢刊 萩原朔太郎著『水島』詩稿別冊 冬至書房)
		「室生犀星の詩業のこと」(『本の手帖』3巻2号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「音楽の中の詩人-萩原朔太郎」連載4回（『本の手帖』3巻4号-7号）
		「高村光太郎賞のこと」（『文芸新聞』4月1日）
		「室生犀星の詩業のこと」（『帖面』12号）
		「三好さんの二十年」（筑摩叢書 三好達治著『萩原朔太郎』跋文）
		「詩賞の季節—二つに別れた左翼詩人」（『富山新聞』5月17日）
		「三十年前のこと」（講談社版『日本現代文学全集 島崎藤村集』下巻月報）
		「一つの系譜その一点」（『本の手帖』3巻6号）
		「世代と世代の接点で」（『北海道新聞』6月11日）
		「座談会 世代の対話」連載2回①変容する現代詩 ②ことばに距離（『北海道新聞』6月8日、11日）司会
		「書評 松井好夫著『萩原朔太郎』」（『週刊読書人』6月10日）
		「詩の方程式は同じ司会者の意見」（『北海道新聞』6月11日）
		「解説」（角川文庫 萩原朔太郎著『月に吠える』）
		「飢えの中の音楽」（筑摩書房版『世界音楽全集』35月報）
		「青春の花ひらくとき—現代恋愛詩鑑賞」（『高一コース』7月号）
		「書評 大笠勇次詩集『幽樓美学』について」（『詩文学』7月号）
		「『赤と黒』の運動とその周辺」（近代文芸復刻叢刊『赤と黒』別冊解説 冬至書房）
		「蟬・奇縁の新発見—萩原朔太郎の音楽」（『東京新聞』7月16日）
		「堀辰雄と萩原朔太郎」（『国文学解釈と教材の研究』8巻9号）
		「室生さんの詩の一側面」（『風』7月号）
		「『感情』の詩人たち-萩原朔太郎」連載2回（『本の手帖』3巻8号、9号）
		「解説」（弥生書房版『世界の詩4 石川啄木詩歌集』）
		「堀辰雄の手紙」（『俳句』9月号）
		「低音部からの発声」（『文芸』2巻9号）
		「山之口獺の詩 一枚の干物（宮崎山之口獺）」（『現代詩手帖』6巻9号）
		「抒情の系譜」連載8回①抒情詩の運命（『国文学解釈と教材の研究』8巻11号（昭和38年9月））
		「座談会 宮澤賢治と小林多喜二をめぐって」（『国文学解釈と教材の研究』8巻11号（昭和38年9月））
		「『月に吠える』の出版をめぐって」連載4回①-④（『本の手帖』3巻10号-4巻1号）
		「同じ土地の詩人の思い出」（大島養平著『黒の詩人』跋文）
		「千家さんの詩の精神」（弥生書房版『千家元麿全集』推薦文）
		「座談会 白秋・露風・秋之介」（講談社版『日本現代文学全集』14巻月報38）
		「柔らかなショック」（『音楽の友』12月号）
		「解説」（弥生書房版『世界の詩』8 萩原朔太郎詩集）
		「書評 山本太郎編『村山樵多全集』一奇才の生涯と全ぼうの収約」（『東京新聞』12月24日）
		「“詩的デカダン”について」（『文学』31巻12号）
		「座談会 佐藤惣之助について」（『無限』14号）
		「『ギリシャ的叙情詩』の鑑賞」（筑摩書房版『現代国語二』）
		「詩のふるさと」（NHKラジオ学校放送テキスト『ことばと文学』7月号-9月号）
		「ふるさとの山—上毛三山」（『旅情』主婦と生活社）
1964 (昭和39)	58	『現代日本の思想と文芸 1』伊藤信吉 [ほか]著 早稲田大学学生部 編（早稲田大学出版部）
		『高村光太郎 その詩と生涯』伊藤信吉 著（角川書店 角川文庫 3月20日）
		『朔太郎のうた』萩原朔太郎 [著] 伊藤信吉 編（社会思想社 現代教養文庫 7月30日）
		『室生犀星全集 全14巻』室生犀星 [著] 三好達治 福永武彦 奥野建男 窪川鶴次郎 伊藤信吉 編集委員（新潮社 3月25日~1968年1月30日）
		詩「花」（『文芸』6月号）
		詩「筑紫・都府楼趾にて」（『小説新潮』12月号）
		「応募作品の選と作歌のいきさつ」「全損保の歌 補作・試作」（『全損保』1月1日）
		「妄想の一点から」（『人間の科学』2巻1号）
		「抒情の系譜」連載8回 ②抒情詩の世界（『国文学解釈と教材の研究』9巻1号（昭和39年1月））
		「抒情の系譜」連載8回 ③- ⑧抒情詩の形成1-6（『国文学解釈と教材の研究』9巻4号、5号、7号、14号、15号、10巻1号（昭和39年3月-昭和40年1月））
		「解説」（萩原朔太郎編『生理』復刻版別冊）
		「奇才の生涯と全ぼうの収約」（『魔法の会』再録）
		「停滞感する詩の世界」（『北国新聞』2月13日）
		「石川啄木入門」（講談社版『日本現代文学全集』39巻）
		「宮澤賢治の生き方」（NHKラジオ学校放送テキスト『ことばと文学』3月号）
		「犀星文学碑」（新潮社版『室生犀星全集』内容見本）
		「現代詩に古典的生命—故三好達治の業績」（共同通信 4月）
		「詩の人・三好達治の二重像」（『図書新聞』4月11日）
		「藤村の人と文学」（『高一コース』4月号）
		「距離のある本」（『東京新聞』5月20日）
		「詩壇時評」（共同通信 5月）
		「作家研究のポイント」連載2回（『週刊読書人』5月4日、11日）
		「回想の二点から」（『本の手帖』5月号）
		「三好達治・詩人と私」（『本』5月号）

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「詩壇時評 安定した山崎英治・新鮮な印象与える石原吉郎」(『東京タイムス』5月13日)
		「叙情詩の運命—三好達治・佐藤春夫を失って」連載2回(『東京新聞』6月1日、2日)
		「三好達治の抒情について」(『本の手帖』4巻5号)
		「詩『花』」(『文芸』6月号)
		「高村光太郎」(明治書院版『人と作品 現代文学講座』昭和篇Ⅲ)
		「『萩原朔太郎書誌』によせて」(群馬県立図書館編『萩原朔太郎書誌』)
		「三好達治Ⅱ 詩人と私」(『本』1巻5号(昭和39年6月))
		「書評 近藤芳美著『青春の碑—詩と愛のとき』」(『短歌』11巻7号)
		「詩は永遠に—抒情詩の歴史を飾る二詩人の死」(『高二時代』7月号)
		「『梵のうへ』三好達治」(NHKラジオ学校放送テキスト『ことばと文学』7月号)
		「対談・白鳥省吾『民衆詩派をめぐる』」(『文学』32巻7号)
		「近代詩鑑賞(2) 人と作品 高村光太郎を例に」(NHKラジオ学校放送テキスト)
		「朔太郎の人と文学」(『高一コース』9月号)
		「書評 小野十三郎著『奇妙な本棚』—内容世界の足跡として」(『週刊読書人』9月7日)
		「浪漫的交友の輪 北原白秋と萩原朔太郎の往来」連載3回(『本の手帖』9月、11月、翌年1・2月合併号)
		「書簡—蔵原氏への」(『陽炎』10月号)
		「落ち葉の詩のこゝろなど」(筑摩書房版『三好達治全集』1巻月報1)
		「前橋—文学とところどころ」(『東京新聞』10月27日)
		「青春名詩鑑賞」連載3回(『高一コース』10月-12月号)
		「書評『三好達治全集第一巻—抒情詩の道の“壮烈さ”』」(共同通信 11月)
		「講演記録 高村光太郎の芸術とその思想」(『現代日本の思想と文芸』1号)
		「近代詩研究に警告する」連載2回①女子大生の質問で感じたこと ②むなしさを味わう実証的な研究(『東京新聞』11月30日、12月1日)
		「鳥啼き魚の目は涙」(角川書店版『芭蕉全集』4巻月報6)
		「『萩原朔太郎全集』覚書1」(『萩原朔太郎研究会会報』2号)
		「島崎藤村」「尾崎喜八」「村野四郎」(現代教養文庫501 草野心平編『現代詩の鑑賞』)
		「座談会 三好達治の抒情について」(『地球』40号)
		「朔太郎未発表遺稿附記」(『無限』17号(昭和39年12月))
1965 (昭和40)	59	『藤村のうた』島崎藤村〔著〕 伊藤信吉 編 (社会思想社 現代教養文庫 2月15日)
		『人生案内 詩と随想』『歷程』同人 編 伊藤信吉 草野心平 [ほか]執筆 (社会思想社 12月15日)
		詩「石の翳」(『本』2巻1号)
		詩「故郷 三」(現代教養文庫503『日本詩歌風土記(上)』再録)
		「詩のふるさと」連載 ③3回①旅たちに ②高村光太郎と安達太良山 ③高村光太郎と裏磐梯 ④高村光太郎と十和田湖 ⑤高村光太郎と山小屋 ⑥尾崎喜八と美ヶ原 ⑦尾崎喜八と秋の流域 ⑧島崎藤村と木曾馬込 ⑨島崎藤村と信州小諸 ⑩島崎藤村と二つの記念館 ⑪立原道造と清間山ろくの村 ⑫立原道造と追分の秋 ⑬中野重治と親知らず ⑭中野重治と波ばかりの海 ⑮北原白秋と九州柳川 ⑯北原白秋と懐郷の廃市 ⑰北原白秋と城ヶ島 ⑱北原白秋と落葉松の林 ⑲国木田独步と空知川の岸辺 ⑳石川啄木と洪民村 ㉑石川啄木と函館 ㉒石川啄木と北海道の雪原 ㉓石川啄木と釧路 ㉔草野心平と上小川村 ㉕草野心平と利根のアカシア ㉖山村暮鳥と榛名山ろく ㉗山村暮鳥と大洗海岸 ㉘佐藤春夫と紀州新宮 ㉙佐藤春夫と望郷の南国 ㉚佐藤春夫と新宮南谷墓地 ㉛佐藤春夫と犬伏崎 ㉜金子光晴と山中湖 ㉝金子光晴と富士山(『東京新聞』9月27日-11月20日)
		「作家研究のポイント24 三好達治」(『週刊読書人』1月1日)
		「地方文学」(NHKラジオ学校放送テキスト1月23日放送)
		「読書相談室—詩を勉強するには」(『東京新聞』1月28日)
		「書評 ルネ・カマック著佐々木孝次訳『ネチャーエフ』」(『出版ニュース』2月上旬号)
		「三好達治の抒情について」(『地球』40号 三好達治特集号)
		「座談会 三好達治」(『地球』40号別冊)
		「近代詩から現代詩へ—一つの見取り図として」(『国文学解釈と教材の研究』10巻3号)
		「『萩原朔太郎全集』覚書2」(『萩原朔太郎研究会会報』3号)
		「対談・伊藤整『三人の詩人』」(中央公論社『日本の文学』17巻付録15)
		投稿詩の選・評(『小説新潮』1月~昭和46年11月頃)
		「『光太郎のうた』の味わい方」(『高一コース』4月号)
		「狩太紀行」(『東京新聞』4月24日)
		「孤独の老詩人の死」(『文芸』4巻4号)
		「座談会 現代詩とは何か」 「『歷程賞』のこと」(『歷程詩集』)
		「オフェリヤの歌—浪漫的情操について」(筑摩書房版『現代文学大系』9巻月報26)
		「山之口貌の思い出」(『あいなめ』6号)
		「書評 小高根二郎著『詩人・その生涯と運命』」(『東京新聞』6月23日)
		「犀星句の世界」(『俳句』14巻6号(昭和40年6月))
		「萩原朔太郎入門」「年譜」「参考文献」(講談社版『日本現代文学全集』60巻)
		「『萩原朔太郎全集』覚書3」「朔太郎忌主催者の感想」(『萩原朔太郎研究会会報』4号)
		「犀星・魚眠洞の句」(『俳句』7月号)
		「年譜」(筑摩書房版『現代文学大系』33巻萩原朔太郎・三好達治・西脇順三郎)
		「『月に吠える』初版について」(復刻版『月に吠える』別冊解説)
		「書評 高橋新吉著『ダガバジジンギヤ物語』」(『東京新聞』8月11日)
		「マッカリヌブリの麓で—『カインの末裔』の地・有島農場を訪ねて」(『旅人』8月号)
		「生涯の愛の歌—『智恵子抄』の鑑賞として」(現代教養文庫528『紙絵と詩 智恵子抄』)
		「昭和の詩と詩人」(『国文学解釈と教材の研究』10巻11号『昭和40年9月』)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「書評 草野心平著『わが青春の記』」(『週刊読書人』9月6日)
		「秋をうたう一詩」(NHKラジオ学校放送テキスト『ことばと文学』)
		「解釈と鑑賞—そして享受」『座談会 〈散文〉でないもの』(『国語通信』10月号)
		「解説」(弥生書房版『世界の詩28 大手拓次詩集』)
		「書評 秋吉久紀夫訳『ベトナム解放詩集』」(『赤旗』11月4日)
		「詩のふるさと覚え書き」(『東京新聞』11月30日)
		「ハガキ便り」(『読書新聞』12月13日)
		「抒情詩の系譜」(三省堂版『現代国語三』)
		「激励の言葉」(『兆』11号)
1966 (昭和41)	60	『島崎藤村』伊藤信吉 編 (至文堂 1月25日)
		『萩原朔太郎研究』伊藤信吉 編 (思潮社 7月1日)
		『高村光太郎研究』伊藤信吉 著 (思潮社 8月1日)
		『石川啄木詩集』石川啄木 [著] 伊藤信吉 編 (角川書店 角川文庫 9月15日)
		『新版 鑑賞現代詩2大正』伊藤信吉著 (筑摩書房 10月20日)
		『詩のふるさと』伊藤信吉 著 (新潮社 12月10日)
		「詩のふるさと」続編連載 36回①室生犀星 金沢の冬 ②室生犀星 金沢の春 ③室生犀星 州崎の海 ④中原中也 冬の長門峡 ⑤中原中也 湯田 ⑥原民喜 広島 ⑦大江滿雄 長崎 ⑧木下幸太郎 天草 ⑨三好達治 大阿蘇 ⑩三好達治 草千里浜 ⑪伊東静雄 有明海 ⑫伊東静雄 諫早 ⑬落合直文 阿蘇の山里 ⑭土井晩翠 仙台 ⑮宮沢賢治 花巻 ⑯宮沢賢治 東北の風土 ⑰伊藤整 小樽 ⑱伊藤整 塩谷・忍路 ⑲福士幸次郎 津軽 ⑳西脇順三郎 相模川 ㉑与謝野鉄幹 上野不忍池 ㉒萩原恭次郎 東京郊外 ㉓高橋元吉 三国連山 ㉔萩原朔太郎 波宜亭 ㉕萩原朔太郎 小出正道 ㉖萩原朔太郎 山科 ㉗村上槐多 京都 ㉘西条八十 奈良 ㉙与謝野晶子 堺 ㉚坂本遼 播磨 ㉛小野十三郎 葦の地方 ㉜小野十三郎 大阪 ㉝井上靖 内灘 ㉞井上靖 富山 ㉟田中冬二 生地 ㊱終章と覚書 (『東京新聞』4月14日-6月27日)
		「対談・中野重治『萩原朔太郎について』」(NHKラジオ第一) 1月
		「詩人における自伝の意味」(『東京新聞』1月1日)
		「近代散文詩の先導・河井醉茗追悼」(『塔影』155号)
		「『若菜集』・島崎藤村」(『国文学解釈と鑑賞』31巻1号)
		「情緒の世界を展開—最近の女性の詩集から」(『東京新聞』1月26日)
		「日本反戦詩抄」連載3回①金子光晴「富士」②武島羽衣「戦死卒」③北川冬彦「壊滅の鉄道」(『存在』1号-3号)
		「書評 菊地康雄著『青い階段をのぼる詩人たち』—詩壇史のこころみ」(『朝日ジャーナル』2月13日)
		「一途の人」(『高村光太郎全詩集』付録)
		「詩人室生犀星」(『いつみ』2月号)
		「座談会 現代詩および現代俳句」(『俳句』3月号)
		「書評 大岡信著『超現実と抒情』—現代詩の実質を追求」(『週刊読書人』3月7日)
		「詩人高村光太郎」(『読書新聞』3月14日)
		「書評 室生犀星著『愛の詩集』初版復刻本—大正期詩壇へのなつかしさ」(『東京新聞』3月30日)
		「講演記録 風土と詩人」(群馬県高校教育研究会図書館部会『紀要』2号)
		「書評 『定本・逸見道吉詩集』」(『現代詩手帖』9巻4号)
		「詩の選・選評」(『国鉄文化』4月号)
		「自由詩のリズム」(『国文学解釈と鑑賞』31巻5号)
		「大森谷中の二夏」(新潮社版『室生犀星全集』別巻1月報9)
		「菊地康雄の仕事の周辺」(『夏』28号)
		「講演『風土と詩人』」全国48校(集英社高等学校文芸講演)5月~年間2回
		「近代詩の抒情—韻文意識をめぐって」(『短歌』13巻5号)
		「島崎藤村—私の中の一人の作家」(『現代のエスプリ』19号)
		「変革期の詩人たち」連載3回(『文学』34巻5号-7号)
		「三好達治逝って三年 『測量船』の新しさ 現詩壇との距離思う」(『図書新聞』862号(昭和41年6月11日))
		「春夫の詩的嗜好について」(『講談社版『佐藤春夫全集』10巻月報3)
		「常識と良心にたいする爆撃」(『赤旗』7月1日)
		「詩心風光」連載46回①柳川 ②浅間に行く夏 ③阿蘇草千里 ④北上川に秋立ちぬ ⑤湖水の秋 松江 ⑥甲斐路の秋 ⑦武蔵野曇る日 ⑧金沢落日 ⑨利根川に水光る ⑩北の海・函館 ⑪砂浜に遊ぶ千鳥 ⑫野分ふく ⑬大洗海岸 ⑭河口湖畔夕景 ⑮葦と工業地帯と ⑯木曾路残照 ⑰海港冬日 神戸 ⑱山峡飛雪 長門 ⑲冬の不忍池 上野 (『週刊新潮』8月27日、9月3日、10日、17日、24日、10月1日、8日、15日、22日、29日、11月5日、12日、19日、26日、12月3日、10日、17日、24日、31日)
		「萩原朔太郎研究—出生と家庭の環境、生地のことなど」連載3回(『国文学解釈と鑑賞』31巻9号-11号)
		「座談会 回想の三好達治」(『秋』6巻6号)
		「解説」(新潮文庫 室生犀星著『我が愛する詩人の伝記』)
		「関東・文学の旅」(小学館版『日本の旅』関東篇)
		「藤村の文学地誌」(『藤村全集』内容見本)
		「解説」「三好達治」「萩原朔太郎」(社会思想社『近代作家入門』)
		「千家元麿・山村暮鳥・佐藤惣之助・福士幸次郎・堀口大学入門」(講談社版『日本現代文学全集』54巻)
		「座談会 ヒューマンニズムの詩と詩人—“白樺”以後・大正期を中心に」(『文学』34巻8号)
		「暗い夏」(朔太郎研究)連載3回(『本の手帖』6巻6号、7号、9号)
		「座談会 詩と文学に描かれた城下町」(『旅』9月号)
		「紋章・雪の花」(『歷程』9月号)
		「解説」(角川文庫『石川啄木詩集』)
		「近代精神の詩的形成」(『春秋』10月号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「講演記録抜粋 上州文化伝統を記念する博物館と文学館の建設の要望」(『萩原朔太郎研究会会報』9号付録) 萩原朔太郎生誕八十年記念祭
		「最初の魅惑の文学」(筑摩書房版『藤村全集』1巻月報3)
		「古墳と詩人の土地」(『新刊ニュース』11月15日)
		「詩のふるさと-山村暮鳥と榛名山ろく」(『ひぐらし』11月号)
		「溜息」(『文芸春秋』12月号)
		「私の中の詩人」(『南北』1巻6号(昭和41年12月))
		「萩原朔太郎年譜」(新潮社版『日本詩人全集』14巻)
		「“郷土望景詩”のあとを追って」(新潮社版『日本詩人全集』14巻月報2)
		「奇妙な学校生活-萩原朔太郎の倦怠の芽」(『三田文学』12号)
		「選評」(『国鉄文化』通巻171号(昭和41年8月)伊藤信吉選※頁欠)
1967 (昭和42)	61	『日本詩人全集 第1巻 島崎藤村』島崎藤村 [著] 伊藤整 伊藤信吉 編 (新潮社 3月10日)
		『詩の世界 その享受と鑑賞』伊藤信吉 著 (社会思想社 8月30日)
		『日本の詩歌 第1巻 島崎藤村』島崎藤村 [著] (中央公論社 9月18日)
		『日本の詩歌 第10巻 高村光太郎』高村光太郎 [著] (中央公論社 11月15日)
		詩「陸橋」「光について」(丸山薫編『日本の名詩』集英社)
		詩「故郷」(三笠書房版『日本の旅 名詩集』3巻)
		詩「故郷 第三」「永日」(大木惇夫編『愛唱詩集 日本篇』東都書房)
		「詩心風光」連載 (4)6回②新春當岳②小樽は雪②長崎冬雨②豪雪の戸②朝風の裏日本②夕凧の潮来②雪の中の村 山形②奥武蔵の山々②祇園春雨②みちのくの早春 仙台②山陽道ふるさと 竜野②馬酔木の花の小径②春浅い山上湖②鎌倉煙雨②離島春日②荒城花宴會津若松②肩絡清砂②南紀望郷②六月の海的光②啄木の故郷②城ヶ島の磯②朔太郎のうたう海水浴場②船と外人墓地と②泥海の詩情 有明海の干潟②漁港郷愁 戸田②夏草の岬 日御碕②十和田湖と光太郎 (『週刊新潮』1月7日、21日、28日、2月4日、11日、18日、25日、3月4日、11日、18日、25日、4月15日、22日、29日、5月6日、13日、20日、27日、6月3日、10日、17日、24日、7月1日、8日、15日、22日、29日)
		「年賀の添え書」(『国鉄文化』1月号)
		「講演記録 上州の文化伝統を記念する博物館と文学館の建設の要望」(『萩原朔太郎研究会会報』9号)再録
		「萩原朔太郎の詩」(『いつみ』2月号)
		「戦慄的な感動-『エヴェレスト登山記』と私」(共同通信 2月)
		「藤村における詩と散文」(『島崎藤村必携』国文学社)
		「生命のあわれを懐しむ」(『光太郎詩稿』内容見本)
		「岬にて」(『レジャーガイド』春号)
		「古都の春奈良」(『女性セブン』3月15日)
		「書評 島本久恵著『江口さちの生涯』-無声の慟哭」(『朝日ジャーナル』9巻12号)3月19日
		「詩の風光」連載10回①ふるさとのうた 石川啄木 ②子守歌 室生犀星 (『計画学習』昭和42年3月-昭和43年1月)
		「神戸の詩人たち」(『神戸っ子』4月号)
		「現代詩の二つの流れ」(『国文学解釈と教材の研究』12巻5号)
		「金子光晴・西脇順三郎・三好達治・草野心平・中原中也入門」(講談社版『日本現代文学全集』77巻)
		「花はふるさと-詩歌にみる草花の情感」(『野の花山の花』集英社)
		「現代詩人文庫」連載3回①北原白秋 ②島崎藤村 ③与謝野晶子 (『美しい十代』4月号-6月号)
		「死に誘うものは分らない」(『解説新聞』5月1日)
		「書評 畑山崇一詩集『歴史』のこと」(『岩手中央新報』5月14日)
		「詩の鑑賞①高村光太郎作「樹下の二人」②萩原朔太郎作「青樹の梢をあふびて」(NHKラジオ学校放送テキスト)
		「詩はブームだというのが……」連載2回(『東京新聞』6月5日、6日)
		「日本の女-そして一人の愛人」(『本の手帖』7巻4号)
		「詩碑を訪ねて」(『旅』6月号)
		「軽井沢の詩人たち-辰雄・犀星・道造」(『いつみ』7、8月号)
		「詩人の日記抄」(『日本詩人』60号(昭和42年8月))
		「作家と作品-北原白秋・高村光太郎・萩原朔太郎」(集英社版『日本文学全集』19巻)
		「山頂での感想」(河出書房版『日本文学全集 現代詩歌集』葉8)
		「解説」「編集覚書」(河出書房版『日本文学全集』別巻2現代詩歌集)
		「遠地輝武のこと」(『文化評論』8月号)
		「『生』の詩人たち」(『社会思想研究』9月号)
		「日本近代詩の父と母-高村光太郎・萩原朔太郎」(『高三コース』9月号)
		「浪漫的交友の輪 萩原朔太郎と室生犀星との往来」(『本の手帖』7巻7号)
		「詩歌の季節」(『毎日新聞』10月2日)
		「秋冷 虫の歌のかけに」(『時事通信』10月4日)
		「対談・関高健『詩ブーム、萩原朔太郎もびっくり』」(『週刊朝日』10月6日)
		「詩について」(『なにわ書房通信社』11月1日)
		「私の郷土望景詩」(『旅の宿』11月号)
		「奥信濃と一茶・木曾馬籠と藤村」(『文豪のふるさと・信州と飛騨』)
		「解説」(復刻版「四季」別冊 日本近代文学館)
		「詩人たちの土地」(筑摩書房版『現代文学大系』67巻月報60)
		「書評 松永伍一著『日本農民詩史・上巻』-粗型から近代詩へ」(『朝日ジャーナル』9巻52号)12月17日
		「講演記録 中野重治とプロレタリア詩」(日本近代文学館編『日本の近代詩』読売新聞社)
		「伝説のノート」(角川書店版『中原中也全集』3巻月報3)
		「萩原朔太郎詩における思想の体験」(筑摩書房版『詩の本』3巻 詩の鑑賞)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「心うつ光太郎と智恵子との“対話”」（日本ビクターレコード『智恵子抄』推薦文）
		「魅惑の文学」（中央公論社版『日本の詩歌』広告文）
1968 (昭和43)	62	『日本の詩歌 第14巻 萩原朔太郎』萩原朔太郎 [著] (中央公論社 1月13日)
		『日本の詩歌 第15巻 室生犀星』室生犀星 [著] (中央公論社 4月15日)
		『萩原次郎詩集』壺井繁治 [ほか]編 (思潮社 7月1日)「編集後記」(秋山清・川浦三四郎との共著)※奥付の書名「萩原次郎全詩集」
		『萩原次郎の世界』伊藤信吉 編集責任 (萩原次郎全詩集編集委員会 7月1日)思潮社版『萩原次郎詩集』別冊
		『日本の詩歌 第21巻 金子光晴・吉田一穂・村野四郎・草野心平』金子光晴 [ほか]著 (中央公論社 9月15日)
		『詩のふるさと』伊藤信吉 著 (新潮社 新潮文庫 10月30日)
		『現代詩鑑賞講座 全12冊』伊藤信吉 井上靖 野田宇太郎 村野四郎 吉田精一 編 (角川書店 11月30日)
		『鑑賞 智恵子抄』高村光太郎 [著] 伊藤信吉 著 (角川書店 12月30日)
		「冬の花」(『ガーデンライフ』冬号)
		「七周忌間近に」(新潮社版『室生犀星全集』別巻2月報14)
		「通る道・走る道」(『潮』1月号)
		「日本詩壇史」連載3回①狂える妻へ捧げた光太郎の愛と炎 ②室生犀星の愛の詩 ③漂泊と恋愛と叛逆の詩人石川啄木 (『マドモアゼル』1月号-3月号)
		「天窓」連載12回①『まじめフーテン』の春 ②ネズミの愛 ③はる三月は桃の花4月にむら雲花に嵐 ⑤記録映画に流れる涙 ⑥死はいたるところに ⑦いつはれる“日本の梅雨” ⑧夏の日の思い ⑨秋風のたより・虫の声 ⑩秋の睡 ⑪きえたか「哀れ」の美 ⑫「だが」という言葉で (『朝日新聞日曜版』1月12日、2月11日、3月10日、4月7日、5月5日、6月2日、6月30日、7月28日、8月25日、9月22日、10月20日、11月16日)
		「解説」(新潮文庫『藤村詩集』)
		「詩歌のふるさと」①前橋-風つよき朔太郎の故郷 (『HIKER』148号 (昭和43年2月))
		「抒情詩に求める心の安らぎ」(『NOMAプレスサービス』112号)
		「文豪のふるさと」(『信州と飛騨』)
		「奈良の散歩道」(『女性セブン』3月20日)
		「河井醉茗『明治代表詩人』(名著発掘)」(『文芸』7巻3号)
		「抒情の消滅—抒情小曲について」(『本の手帖』8巻2号)
		「高村光太郎」(平凡社『国民百科辞典』追補)
		「花の風土記4月—花のわらべ唄・そして……」(『新婦人』4月号)
		「対談・石原八束『北陸の詩郷・詩人の風土』」(『旅』4月号)
		「雑誌「ナップ」その他」(『文化評論』80号)
		「詩と小説との間に」(『中央公論』83年5号)
		「初夏……五月中旬の旅—信濃追分・小諸」(『女性セブン』5月15日)
		「北海道の詩人たち」(『北方文芸』1巻6号)
		「もうろくづきん」その他」「萩原次郎全詩集」解説および校訂・覚書 (『萩原次郎の世界』萩原次郎全詩集編集委員会 7月1日)
		「抒情の来歴」(『本の手帖』8巻5号)
		「座談会 詩の歌」(『無限』24号 (昭和43年7月))
		「書評 秋山清著『ニヒルとテロル』」(『東京新聞』7月25日)
		「駿台日記」(『詩と批評』3巻8号)
		「萩原次郎論—農的なものと都会的なもの」(『本の手帖』8巻6号)
		「挿話を越えるもの」(新潮社版『世界詩人全集』24巻付録11)
		「対談・壺井繁治『プロレタリア詩運動をかえりみて』」(『詩人会議』6巻8号)
		「作品解説—漢詩篇・詩篇」(講談社版『日本現代文学全集108現代詩歌集』)
		「評伝」(角川書店版『日本の詩集9巻 三好達治詩集』)
		「わが秋のうた」(『読売新聞』9月29日)
		「詩人の日記抄」(『日本詩人』9月30日)
		「俚謡・俚言の背景」(『潮』別冊)11号)
		「詩の世界—秋をつたう(1)(2)」(NHKラジオ学校放送テキスト)
		「抒情の変質—抒情小曲について」(『本の手帖』8巻7号 (昭和43年10月))
		「詩人の横顔」(新潮社版『日本詩人全集』19巻月報11)
		「跋文 同じ土地の詩人の思い出」(大島養平著『黒の詩人』兆社)
		「萩原朔太郎の短歌—初期未発表作品等の資料と解説」(『短歌』15巻2号)佐藤房儀編 伊藤信吉補
		「一、曾遊の地の思ひ出 二、たへ物の思ひ出」(『詩と批評』3巻12号 '69現代詩年鑑)
1969 (昭和44)	63	『日本詩人全集32巻 明治・大正詩集』森鷗外 [ほか] [著] 清岡卓行 伊藤信吉 編 (新潮社 3月25日)
		『土の詩・ふるさとの詩』伊藤信吉 編・解説 (家の光協会 6月3日)
		『天極をさす 高村光太郎賞記念作品集』会田綱雄 草野心平 伊藤信吉 [ほか]著 高村光太郎記念会 編 (求龍堂 6月15日)
		『日本反戦詩集』秋山清 伊藤信吉 岡本潤 編 (大平出版社 6月25日)
		『現代名詩選 上』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 8月25日)
		『現代名詩選 中』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 9月25日)
		『現代名詩選 下』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 8月25日)
		『抒情小曲論』伊藤信吉 著 (青娥書房 11月30日)
		詩「旅」(『朝日新聞PR版』10月4日)
		「五十周年の夜に」(河出書房版『日本文学全集』12巻月報)
		「書評 中野重治著『室生犀星』—作家の骨と肉」(『群像』24巻1号)
		「『ふるさとの味』はない—私の味覚は当世向きでない」(『食生活』1月号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「詩をたづねて 詩人のふるさと」連載（『小説女性』1月-10月）
		「北原白秋・三木露風・日夏秋之介入門」（講談社版『日本現代文学全集』14巻）
		「石川啄木入門」（講談社版『日本現代文学全集』15巻）
		「高村光太郎・宮澤賢治入門」（講談社版『日本現代文学全集』16巻）
		「講演記録 抒情の周辺」（『俳句研究』36巻2号）
		「『自然』の人生的意味」（畑山崇一詩集『自然』付録）
		「講演 詩のふるさと」（『歴史・詩のセミナー』2月14日）
		「私の読書」（『赤旗』2月24日）
		「名作文庫・室生犀星『杏っ子』」（『毎日新聞』3月2日）
		「一つの接点-民衆詩派からプロレタリア詩へ」（角川書店版『現代詩鑑賞講座』7巻月報5）
		「鑑賞智恵子抄」（『読書グループ』3月15日）
		「むなしかった旅」（『日旅』3月号）
		「詩的邂逅の地誌」（新潮社版『詩人全集』33巻月報）
		「『見本』一部の詩集」（角川書店版『現代詩鑑賞講座』7巻 現代詩篇Ⅰ）
		「国語研究-詩の味わい方」（NHKラジオ学校放送テキスト 4月10日、12日放送）
		「現代詩に抒情を求めて」（『法政大学新聞』5月25日）
		「流動的『一つ』の生」（共同通信『東京タイムズ』6月18日）
		「室生犀星の愛の詩」（角川書店版『現代詩鑑賞講座』4巻 生と生命のうた 近代詩篇Ⅲ）
		「私の文章修業-情緒の歌」（『週刊言論』7月16日）
		「抒情詩の周辺」（『歴史・詩のセミナー』7月26日-28日）
		「詩の朗読の魅力」（『詩人の朗読による現代詩-LP盤シート』・筑摩書房版『現代国語』教材資料）
		「山之口猥の詩」「『思弁の苑』」「山之口猥詩集」鑑賞「私設“歴程賞”のこと」（角川書店版『現代詩鑑賞講座』8巻 歴程派の人びと 現代詩篇Ⅱ）
		「高校生にすすめる本」（『いつみ』夏号）
		「作品解説-漢詩篇・詩篇」（講談社版『日本現代文学全集108巻 現代詩歌集』）
		「プロレタリア詩」（『詩人会議』7巻8号）
		「白鳥省吾の詩」「『大地の愛』『楽園の途上』『共生の旗』『野茨の道』鑑賞」（角川書店版『現代詩鑑賞講座』6巻 人道主義の周辺 近代詩篇Ⅳ）
		「高村光太郎の回想」（筑摩書房版『現代日本文学大系』27巻）
		「阪本越郎の葬儀」（『日本詩人』9月号）
		「緑のときの永訣に-阪本越郎追悼」（『文芸広場』17巻9号）
		「講演記録 風土と文学 二つの墓碑銘」（『群馬芸術文化協会報』71号（昭和44年9月））8月10日開催創立記念夏季講座
		「光太郎と朔太郎」（三省堂版『講座日本文学』11 近代編Ⅲ）
		「朔太郎忌記念集会講演記録」（『萩原朔太郎研究会会報』18号）
		「坂のある自伝」（『芸術新潮』9月号）
		「跋文 飢え郷愁について」（大島養平著『北の空』兆社）
		「『上州文学紀行』によせて」（『上州文学紀行』煥平堂書店）
		「妙義行」（『日本詩人』11月号）
		「近代における『戦争と詩人』」（『日本反戦詩集』大平出版）
		「萩原朔太郎入門」（講談社版『日本現代文学全集』26巻）
		「『感想』始めて雑誌をもらった時・・・」（『二十五年』6巻5号通巻61集（昭和44年5月）5周年記念特集）
1970 (昭和45)	64	『日本の詩歌 第27巻 現代詩集』大江満雄 田村隆一 福永武彦 高田敏子 [ほか]著（中央公論社 3月15日）
		『日本の詩歌 第26巻 近代詩集』高橋元吉 野口雨情 大手拓次 萩原恭次郎 岡本潤 岡崎清一郎 逸見猶吉 岡田刀水士 [ほか]著（中央公論社 4月15日）
		『虹を追うひと』萩原朔太郎著 伊藤信吉 編（青娥書房 9月1日）
		『抒情小曲論』特装本 伊藤信吉 著（青娥書房 1月15日）
		『詩をめぐる旅』伊藤信吉 著（新潮社 12月15日）
		詩「壺」（『シルクファッション』9月20日）再掲
		詩「波の歌」（『海の世界』12月号）
		「感傷紀行・日本の廃墟」連載①選の朝廷 ②能登の冬 廃滅の揚浜塩田 ③上野国府 平将門反乱の地 ④碓氷峠アプト式列車の軌跡 ⑤⑥原の城 切支丹一揆殉教の跡 ⑦赤レンガ帝国陸軍の残遺 ⑧昔語りの石油… ⑨函館・佐久 薄命の様式城郭 ⑩相川金山 狸堀りと現代の二重廃墟 ⑪積丹半島 今は昔幻のニシン漁 ⑫ユートピア 人生的情熱の跡（『芸術生活』昭和45年1月-12月）
		「安乗の海女」（『歴史』2月号）写真も
		「手紙一通において」（『民主文学』2月号）
		「私の『大学』-ほんとうの教育者はと問われて」（『朝日新聞』2月24日）
		「旅の手帖」連載5回①十三の少女 ②「カインの末裔」の海 ③「椰子の実」の海 ④博徒忠治の墓 ⑤積乱雲の赤城（『ピエロタ』2月号、4月号-6月号、8月号）
		「詩的情熱の天折（渋谷国忠追悼）」（『萩原朔太郎研究会会報』19号）
		「私の処女作『島崎藤村の文学』」（『週刊言論』3月6日）
		「萩原朔太郎研究の集大成を急ぐ」（『朝日新聞』3月25日）
		「味散歩」連載4回①まんじゅう ②ヒレカツ ③トルコ風ピラフ ④水沢うどん（『朝日新聞』4月3日、10日、17日、24日）
		「文学のひろば-詩ブームという事と詩の高揚という事」（『文学』38巻4号）
		「座談会 日帰り・一泊 私の推薦コース」（『朝日新聞』4月22日）
		「横川礼子の人と作品」（『ピエロタ』4月号）
		「『鑑集』の主題」（室生犀星著『鑑集』復刻版別冊）
		「解説 人生的情熱の跋渉」（わが人生観シリーズ『島崎藤村』大和書房）
		「露地の細道」（『本の手帖』5月別冊・森谷均追悼号）写真も

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「冬の妙義山」(『歷程』5月号)写真も
		「解説」(『辻潤著作集』4巻)
		「五十年の断続」(国文社版『壺井繁治全詩集』付録)
		「上・信・甲州を結ぶ文学碑コース」(『旅』6月号)
		「二度の処女作」(新潮日本文学2『島崎藤村』月報22)
		「講演『旅と詩』」(「歷程・詩のセミナー」6月25日)
		「文学のふるさと」連載4回①ここらにつながるふるさと-島崎藤村 ②柳川の情趣-北原白秋 ③小岩井農場と岩手山-宮沢賢治 ④立待岬と釧路市郊外-石川啄木(『ブッククラブ』6月号、9月号、12月号、昭和46年1月号)
		「大正の詩-時代思潮との関連において」(現代教養文庫『詩をどう読むか』)
		「阿武隈の詩人-三野混沌」(『歷程』8月号)
		「西条八十氏をいたむ」(『東京新聞』8月13日)
		「夏の終わり」(『読売新聞』8月29日)
		「旅の手帖5 横乱雲の赤城」(『ピエロタ』2巻6号(昭和45年8月))写真と文
		「思い出は生前から・・・」(『歷程』9月坂本遼追悼号)
		「座談会 村野四郎を語る」(『無限』27号)
		「『虹を追うひと』の成立」(萩原朔太郎著『虹を追うひと』青娥書房)
		「みちのく-詩人の風土」(『旅』10月号)
		「みちのくの墓」(『滋交』11月号)
		「廃墟のほとり」(『望星』12月号)
		「上州の近代詩の流れ・・・」(『歷程』147号(昭和45年12月))
		「出演『女性手帳 わか詩人たち・中野重治』(NHKテレビ 12月17日放送)
		「自作詩一篇のこと」(発表誌不詳)
		「萩原朔太郎年譜」(筑摩書房版『現代日本文学大系』34巻)
1971 (昭和46)	65	『日本文学全集別巻2 現代詩歌集』伊藤信吉 編 (河出書房 2月20日)
		『茗たる弾くひと 萩原朔太郎の音楽生活』伊藤信吉 [著] (麦書房 11月30日)
		「『詩をめぐる旅』を終えて」(『新刊ニュース』2月1日)
		「私のファンレター 青江三奈」(『読売新聞』2月19日)
		「書評 秋山清著『郷愁論・竹久夢二』-郷愁論の形成」(『芸術生活』2月号)
		「二月・節分の日」(『新日本詩人』2月号)
		「広瀬川畔・萩原朔太郎詩碑除幕式祝辞」(『萩原朔太郎研究会会報』20号)
		「在りし日の声」(角川書店版『立原道造全集』内容見本)
		「ミカゲ石の門柱」(角川書店版『日本近代文学大系』37巻月報19)
		「やや北よりに-五月遊行」(『アルプ』159号(昭和46年5月))
		「序文」(『まえばし』前橋市観光課)
		「座談会 成因によって異なる湖の魅力」(『旅』5月号)
		「私の〈大学〉」(『ほんとうの教育者はと問われて』朝日新聞社 5月30日)
		「島崎春樹からの書簡」(筑摩書房版『島崎藤村全集』別巻月報)
		「室生犀星『杏っ子』」(毎日新聞社編『入門名作の世界』)
		「解説」(角川書店版『日本近代文学大系 36巻 高村光太郎・宮沢賢治集』6月10日)
		「廃墟の旅情」(『赤旗』7月8日)写真も
		「講演『感傷論』」(「歷程詩のセミナー」7月23日)
		「連続講義『詩における人生と新しい表現』」(「歷程夏のセミナー」8月10日-12日)
		「好きです」(『金子光晴と駒井哲郎展』リーフレット)
		「書評 渋谷国忠著『萩原朔太郎論』-詩人と風土のかかわり」(『朝日ジャーナル』13巻33号)9月3日
		「対談・秋山清『啄木文学の軌跡を探る』」(『ピエロタ』9月号)
		「詩・音楽・自転車」(学習研究社版『現代日本の文学』17巻月報)
		「旅の意味」(『わいる』9月号)写真も
		「藤村生誕百年に」(『潮』10月号)
		「近況-年内いっぱい旅」(『朝日新聞』10月11日)
		「おそ秋のうた」(『名古屋タイムズ』)10月15日)
		「廃墟のほとり」(『亀井勝一郎全集』17巻月報7)写真も
		「断崖の水仙花」(『三國近代文学館』三國町役場)
		「あいさつ(『朔太郎忌』記念集会記録)」(『萩原朔太郎研究会会報』21号)
		「跋に代えて」(佐藤房儀詩集『沈黙の背後』母岩社)
		「年譜」(わが人生観シリーズ25『永遠の退屈・萩原朔太郎』大和書房)
		「冬の工場の青草」(オンワード広告誌)
		「推薦文」(長谷川敏詩集『花泥棒のような』)
		「砂絵・砂文字」(掲載誌不詳)
1972 (昭和47)	66	『文学の旅 第4巻 関東 I』伊藤信吉 佐藤房儀 著 (千趣会 3月1日)
		『詩の旅』伊藤信吉 写真・文 (弥生書房 3月20日)
		『日本文学全集19 豪華版 北原白秋 高村光太郎 萩原朔太郎』北原白秋 高村光太郎 萩原朔太郎 [著] 伊藤信吉 解説 (集英社 5月8日)「作家と作品」
		『萩原朔太郎研究 増補新版』伊藤信吉 編 (思潮社 9月1日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		『文学の旅 第8巻 北陸・能登』伊藤信吉 新保千代子 著 (千趣会 12月1日)
		『現代名詩選 中』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 12月25日)
		詩「年輪」(『小説新潮』1月号)
		詩「征きて還らぬ」(『現代詩手帖』15巻11号(昭和47年9月)再録)
		「近代詩雑感」(『日本近代文学館』5号(昭和47年1月))
		「詩碑めぐり」連載12回①前橋・萩原朔太郎「帰郷」②柳川・北原白秋「帰去来」③東尋坊・三好達治「春の岬」④仙台・土井晩翠「荒城の月」⑤九十九里・高村光太郎「千鳥と遊ぶ智恵子」⑥軽井沢・室生犀星「我は張りつめた氷を愛す」⑦倉敷・薄田泣菫「ああ大和にしあらましかば」⑧伊豆・木下杢太郎「むかしの仲間」⑨長崎・肥前路・伊東静雄「手にふるる野花」⑩紀伊路・佐藤春夫「秋刀魚の歌」⑪防長路・原中中也「これが私の古里だ」⑫道央の道・伊藤整「私は波の音を守唄にして眠る」(『太陽』10巻1号-12号)
		「二重の版画風景」(『飯野農夫也版画展』パンフレット現代画廊)
		「足利の詩人の一端」(『岡崎清一郎詩集』別冊 落合書店)
		「萩原朔太郎の思想的交友」(『ユリイカ』4巻5号)写真も
		「詩のある風景」(『産経新聞』4月10日)写真も
		「書評 北川太一著『高村光太郎資料 第一集』」(『日本読書新聞』5月22日)
		「水上温泉郷で」(『温泉』6月号)
		「旅の歌二つ」(『交通新聞』6月4日)
		「座談会 放浪人の空間 西脇順三郎を語る」(『無限』29号)
		「三点の秋風-九月の旅から」(『アルプ』175号(昭和47年9月))
		「座談会 革命の芸術と芸術の革命」連続4回(『図書新聞』9月23日、10月21日、11月25日、12月)
		「緑」(『文化評論』135号(昭和47年10月))
		「リリシズムの享受-萩原朔太郎と俳句」(『銀花』秋季号)
		「白秋没後三十年に想う」(『熊本新聞』11月3日 他10紙)
		「書評 高山亮二著『有島武郎研究』」(『図書新聞』11月18日)
		「陸奥の花散る日に」(『フロリア』11月号)
		「添え書き」(吉田一穂著『桃花村』弥生書房)
		「対談-西脇順三郎『散文でないもの』」(『西脇順三郎対談集』薔薇十字社)
		「旅の詩」連載4回①中国地方の旅で②九州の子守唄③山陰・瀬戸内④北の旅(大和運輸社内報)
		「『白樺』の詩人たち」(筑摩書房版『現代日本文学大系』41巻)
		「座談会 上州の風土と文化」(12月20日)
1973 (昭和48)	67	『現代名詩選 下』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 1月15日)
		『ユートピア紀行』伊藤信吉 著 (講談社 8月8日)
		『世界の詩 萩原恭次郎詩集』萩原恭次郎 [著] 伊藤信吉 編 (弥生書房 9月25日)
		『私の詩的地帯』伊藤信吉 著 (弥生書房 10月30日)
		詩「一夜」「豆木」(『歷程大冊』6月)
		詩「途上の歌」(『小説新潮』7月号)
		「チナイ馬鹿第一章(随想)」(『赤旗』1月8日)
		「座談会 現代詩の源流-モダニズム詩をめぐる」(『詩と思想』2巻1号)
		「北国の冬の旅」(『ポスト』1月号)
		「風のふるさと」(『赤旗』2月5日)
		「書評 復刻版『北緯五十度詩集』-寒冷地を象徴するプロレタリア詩」(『図書新聞』2月3日)
		「解説」「年譜」(『新潮日本文学』13巻 室生犀星集』2月12日)
		「詩人 平井晩村のこと」(平井芳夫編『平井晩村の作品と生涯』煥平堂)
		「フィーリング」(『赤旗』3月5日)
		「『孤猿隨筆』」(神島二郎編『柳田國男研究』筑摩書房)
		「木の芽どきの思い出」(『赤旗』5月2日)
		「出演『上州再発見 内なる詩人・高橋元吉』」(群馬テレビ 4月10日収録)
		「書評 村野四郎著『詩的断想』-随筆にないものを暗示」(『新潟日報』4月23日)
		「将門の夢」(『中央公論 歴史と人物』3年5号)
		「風に吹かれる葦」(『赤旗』5月28日)
		「今週の訪問」(『赤旗日曜版』6月10日)
		「昔と今と二重に」(『赤旗』6月25日)
		「室生犀星集解説」(角川書店版『日本近代文学大系』39巻 佐藤春夫・室生犀星集』6月20日)
		「萩原恭次郎」(筑摩書房版『現代日本文学大系』67巻)
		「近代詩歌鑑賞」連載10回①-⑤高村光太郎『智恵子抄』(『公明新聞』8月7日-27日)
		「近代詩歌鑑賞」連載10回⑥-⑩萩原朔太郎『郷土望景詩』(『公明新聞』10月6日-26日)
		「往來の断片から」(坂本波之句集『麦秋』現代書房新社)
		「室生家の方言」(集英社版『日本文学全集』45巻月報)
		「『問題』は変わっていない-わたしにとって農民文学とは」(『地上』9月号)
		「終の住家の地」(『神奈川新聞』9月7日)
		「作者にふれて-思い出の故郷をうたった詩人」(ジュニア版日本の文学6『雲は天才である 石川啄木』金の星社)
		「解説」(弥生書房版『世界の詩68 萩原恭次郎』)
		「東歌から近代詩へ」(『朝日新聞』10月7日)
		「信州・佐久高原の五稜郭・龍岡」(『旅』47巻10号)
		「壺系群馬の先覚 中居屋重兵衛物語り」連載3回(『壺系情報』570号-572号(10月1日、11日、21日)筆名・崎山茂吉)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「書評『三木露風全集 第二巻』-美に於る美意識と方法論」（発表紙不詳）
		「晩翠賞の選考を終って」（発表誌不詳）
		「高村光太郎論」（『高村光太郎・宮沢賢治』有精堂）
		「金釘流の母が」（『幼児開発』11月号）
		「『天上総死』後・前」（『結城昌治作品集』月報3）
		「多血質タイプの詩人として-わが賢治像」（『国文学解釈と鑑賞』38巻15号（昭和48年12月））
		「解説」（角川書店版『近代文学注釈大系 室生犀星』）
		「わが著書を語る-『ユートピア紀行』」（発表誌不詳）
		「嶺梅忌に 尾崎喜八をかたる 自然と人の対話を詩う」（『かまくら春秋』143号（昭和57年3月））
		「ユートピア紀行」連載19回⑨埼玉県毛呂の東の村（『地上』27巻7号）頁欠
1974 (昭和49)	68	『萩原朔太郎全書簡集』萩原朔太郎 [著] 伊藤信吉 佐藤房儀 編（人文書院 1月30日）
		詩「終の住家」（『新潮』3月号）
		詩「略歴」（『小説新潮』10月号）
		詩「燕（特集・メーデーの詩）」（『詩人会議』12巻5号）再録
		「思い出一断片二・三（天野純一追悼）」（『ヘガサス』創刊号（昭和49年1月）天馬社）
		「跋文 贈るひとこと」（永田陽子詩集『吾亦紅』）
		「貝拾いの渚」（新潮社版『福永武彦全小説集』3巻月報4）
		「編集後記」（『萩原朔太郎全書簡集』人文書院）
		「情熱の人 萩原朔太郎-『全書簡集』にみるその詩的生涯」（『週刊読書人』2月11日）
		「一月七日」（『日本詩人』3月号）
		「金三円の手紙 萩原朔太郎脱落書簡のこと」連載2回（『図書新聞』3月16日、23日）
		「雑草の歌」連載10回①終の住家 ②消えぬ雪 ③音痴の音楽 ④わらべ唄 ⑤方言の周辺 ⑥風俗の谷間 ⑦上野のモナリザ ⑧悲しみにおいて ⑨生の岸辺で ⑩至る所の別れ（『神奈川新聞』3月18日、25日、4月1日、8日、15日、22日、29日、5月6日、13日、19日）
		「上州烈風ライン」連載3回（『歷程』3月号、6月号、8月号）
		「書簡（西川満宛一部）」（『アンドロメダ』3月23日）
		「朗読と鑑賞 草野心平」（NHKラジオ学校放送5月2日、4日）
		「私の交友録-こころ通う人々」（『公明新聞』4月8日）
		「尾崎喜八・千日谷会堂で」（『新潮』71巻4号）
		「尾崎喜八追悼 “音楽的回想” から」（『歷程』187号（昭和49年4月））
		「評釈この一首『船に酔ひてやさしくなれる……』（石川啄木）」（『国文学解釈と鑑賞』5月号）
		「書評 岡本潤著『詩人の運命』」（『現代の目』5月号）
		「書評 森田拾史著『石の小仏たち』-自給自足の仏」（『芸術生活』27巻5号）
		「街の緑」（日版社内報5月号）
		「追憶六十余年前のこと」（昭和女子大学『学苑』413号（昭和49年5月））
		「終止符のように」（『蝶』4号（昭和49年5月））
		「聞く・考える・そして……」（『赤旗』6月21日）
		「萩原朔太郎の思想的交友」（那珂太郎編『萩原朔太郎研究』青土社）
		「平林たい子文学賞発表・受賞のことば」（『新潮』71巻7号）
		「受賞挨拶・後記」（『文芸』13巻8号）
		「歴史の毒を飲むな」（『文学新聞』8月15日）
		「回想の上州」連載28回（1）-（16）（『鼎』1巻3号-2巻12号）
		「座談会 戦後詩人と民主主義のゆくえ」（『詩人会議』12巻8号）
		「詩人の日記抄」（『日本詩人』9月号）
		「出演『上州再発見 萩原朔太郎-その詩と郷土-』」伊藤信吉 野口武久（群馬テレビ 9月11日収録）
		「呼吸音の波」（『海』6巻9号）
		「亡命者たち」（『群像』29巻9号）
		「“赤蜻蛉”と“宵待草” 紀行-露風と夢二の故郷」（『旅』48巻11号）
		「明治一五年八月・新体詩という名のショック」（『文芸春秋デラックス』10月号）
		「布勢の海のほとり-大伴家持」（『俳句とエッセイ』2巻10号）
		「二重の版画風景」（飯野農夫也版画集付録『飯野農夫也の世界』）
		「俳句の周辺」連載3回（『みそざい』26巻10号、12号、27巻1号）
		「“旅馴れ”ぬ旅」（『週刊読書人』11月14日）
		「悪を身につけた人間の芸当」（『赤旗』11月14日）
		「『アナキスト詩集』を読む」（『海燕通信』4号）
		「『歷程賞』小史並びに私記」（『歷程』11月号）
		「古い歳時記」（『俳句』23巻12号）
		「私の魚津」（『火の子』12月号）
		「講演記録 大手招次の世界」（『群馬詩人クラブ会報』97号（昭和49年1月））
		「青嵐の追慕」（『萩原朔太郎研究会会報』24号）
1975 (昭和50)	69	『萩原朔太郎全集 全15巻』萩原朔太郎 [著] 伊藤信吉[ほか]編（筑摩書房 5月～）
		詩「鹿島灘の秋」（『民主文学』10月号）
		詩「忘れ唄」（『小説新潮』11月号）
		詩「故郷」（河出書房新社版『日本現代詩大系』8巻・再録）

西暦 (和暦)	年齢	著作
		詩「家系」(西郷竹彦著『詩のなかの母と子と父と』みすずみ書房)
		「私の『郷土望景詩』」連載4回(『図書新聞』1月1日、11日、18日、25日)
		「随筆」連載12回①年の瀬・六十八歳 ②一月・メヌエル氏病 ③二月・津軽の少女の幻想 ④三月・新潟の雪の中で ⑤四月・隣りの座席の大柄の人 ⑥五月・広瀬川のほとり ⑦六月・ツユの二日二夜 ⑧七月・羽田空港の由佳子 ⑨八月・豪雨の湯ヶ島温泉 ⑩九月・亡き母のふるさと(『歷程』1月号、3月号、5月号-12月号)
		「近況-俳句三句」(『火の子』2月号)
		「明け暮れ風寒し(近況)」(『朝日新聞』2月3日)
		「座談会 上州の風土と文学」(みやま文庫57『雷とからっ風』)
		「風さむし」(『横浜詩人会通信』3月号)
		「手紙-吉川道子へ」(『火の子』3月号)
		「タダ体験の抒情-中原中也の詩的遍歴」(『国文学解釈と鑑賞』40巻4号)
		「春の道」連載12回①悲歌 ②ウグイスの美学 ③漂白 ④土俗の伝統 ⑤ふるさと ⑥木の芽立ち ⑦馬酔木 ⑧都会 ⑨花の旅 ⑩思郷 ⑪北へ ⑫別離(『東京新聞』3月16日-18日、23日-27日、31日-4月3日)
		「原城の旅で」(『歴史と旅』4月号)
		「家庭崩壊の日の萩原朔太郎 我まさに年老いて家郷なく妻子離散して孤独なり」(『新潮』72巻4号)
		「高村光太郎」(NHKカセット『文学の心』パンフレット)
		「河原稚児は紫の花」(『文芸春秋デラックス』2巻5号)
		「書評 吉行理恵著『男嫌い』-金釘流によせて」(『波』5月号)
		「新前橋駅・年代誌」(『運輸と経済』5月9日)
		「旅のひとつこと」(『宮崎日日新聞』5月15日)
		「叙情性こそ詩の生命」(『南日本新聞』5月18日)
		「『北国』の花々」(『四季』5月号 終刊号)
		「萩原朔太郎の俳句」(『俳句とエッセイ』3巻6号)
		「有島武郎忌に寄せて」(『北海道新聞』6月7日)
		「クリーンはいずこ-政治の空は暗し」(『赤旗』6月8日)
		「六月三十日 金子光晴死去・談話」(『毎日新聞』7月1日)
		「情感の地誌」(『日本近代文学館』26号)
		「佐藤春夫」(NHKカセット『文学の心』)
		「月に吠える」(NHKラジオ学校放送テキスト)
		「朔太郎の魅力」(『産経新聞』9月4日)
		「追悼文・壺井繁治の生涯」(共同通信「信濃毎日新聞」9月8日ほか数紙)
		「一筋の道詩人・壺井繁治のこと」(『東京新聞』9月9日)
		「追慕の詩人たち」連載7回①千日谷の坂道-白鳥省吾・尾崎喜八 ②兎の尻の産声-金子光晴 ③借金と鶯の歌-壺井繁治 ④原子香水の歌-丸山薫 ⑤あんこう無残-村野四郎 ⑥半眼微笑の人-吉田一穂(『東京新聞』10月14日-18日、10月20日)
		「『生理』遺文-源氏物語大原御幸禁圧をめぐる」(『本の手帖』15号)
		「鼎談・小野十三郎・浅尾忠男『壺井繁治を語る』」(『詩人会議』13巻11号)
		「強さ弱さの脈絡」(中央公論社『金子光晴全集』2巻月報1)
		「朔太郎と装丁」(『銀花』24号)
		「思いさわく思い出」(『詩誌あいなめ』12月号 金子光晴追悼号)
		「村野四郎追悼文」(『地球』61号)
		「座談会 森澄雄秀句合評・石原八東秀句合評」(『俳句とエッセイ』3巻10号)
		「解説-三好達治・伊東静雄・吉田一穂・立原道造・中原中也」(『別冊太陽』11号)
		「高村光太郎論」(北川太一編『高村光太郎資料』5集)
		「歴史と回想」(河出書房新社版『日本現代史大系』8巻月報)
		「年譜」(現代詩文庫『萩原朔太郎』)
		「詩の旅-愛踊抒情詩による(選・文)」(『太陽』149号(昭和50年10月))
		「座談会 詩的体験の史的意味」(『文芸』14巻10号)
1976 (昭和51)	70	『朝日カルチャーセンター講座 放浪の詩人たち』伊藤信吉 [ほか]著 (朝日ソノラマ 6月30日)
		『萩原朔太郎 I 浪漫的に』伊藤信吉 著 (北洋社 7月10日)
		『萩原朔太郎 II 虚無的に』伊藤信吉 著 (北洋社 8月30日)
		『詩集 上州』伊藤信吉 著 (麦書房 11月30日)
		詩「象徴の象徴-年号考」(『民主文学』1月号)
		詩「新年」「新年寒し」(『文芸春秋』54巻1号)
		詩「風唄」(『新潮』2月号)
		詩「郷土望景詩-将門考」(『民主文学』2月号)
		詩「のどかな歌-歌会始考」(『民主文学』3月号)
		詩「葉ざくらの風-靖国考」(『民主文学』4月号)
		詩「上州館林で」「秋ゼミ」「土用返信」「略歴」「年々」「寓話」「忘れ唄」(『歷程』4月号)
		詩「風雅」(『野火』5月号)
		詩「私の履歴書-身分考」(『民主文学』5月号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		詩「一見紳士ふう-末世者」(『民主文学』6月号)
		詩「そして今日」(『歷程』7月号)
		詩「東北の旅で-農政考」(『民主文学』7月号)
		詩「爆心地の碑-原爆考」(『民主文学』8月号)
		詩「演歌」(『新潮』73巻9号)
		詩「オランダの唄-距離考」(『民主文学』10月号)
		詩「日本の秋風-帝国考」(『民主文学』11月号)
		詩「天下末年-庶民考」(『民主文学』12月号)
		「回想の上州」連載28回(17)-(28)(『上州路』3巻1号-12号)
		「隨筆」連載12回 ⑪十月・暗い雨の夜のこと ⑫十一月・木枯らしに消える(『歷程』1月号、2月号)
		「プロレタリア詩について-一つの感想」(『詩人会議』14巻1号)
		「近況」(『文学新聞』1月号)
		「晩夏日録(昭和50年)」(『風雷』46号)
		「現代詩の社会的系譜(私のライフ・ワーク3)」(『国文学解釈と鑑賞』41巻3号)
		「亡命者の周辺」(『国文学解釈と鑑賞』41巻6号)
		「郷土望景詩」の地誌-萩原朔太郎生誕九十の年に-」連載2回(『文芸』15巻5号、6号)
		「跋文 伊丹公子のこと」(伊丹公子詩集『彩色空間』)
		「追憶の中から 壺井繁治の詩的方法のことなど」(『うむまあ』10号)
		「思い出の一点」(『歷程』5月号 辻まこと追悼特集)
		「小寿鶏の日」(『産経新聞』5月17日)
		「私のうどん地誌」(『食堂』5月号)
		「萩原朔太郎論」(『文芸読本 萩原朔太郎』6月号)
		「生の思い」(『高橋元吉詩集』内容見本)
		「跋文 昔の雪国の少女」(やまもとあきこ詩集『羊は一列に』ポエトリーセンター)
		「書簡一通のこと」(『日夏耿之介全集』4巻月報6)
		「旅のスケジュール」(『交通新聞』6月27日)
		「光太郎」(朝日カルチャーセンター講座『放浪の詩人たち』朝日ソノラマ)
		「講演記録 詩人の立場から」(『セブンゼロ』34号)
		「前橋の心の郷土史」(福田昭太郎著『前橋今昔』推薦文)
		「跋文 前橋回顧・交友回顧」(福田昭太郎著『前橋今昔』前橋市観光協会)
		「萩原朔太郎の魅力 近代詩の持つ課題をすべて内包」(『朝日新聞』8月11日)
		「お母さん」(『赤旗日曜版』8月15日)
		「永い年月の中から」(『ほるぶ図書新聞』10月15日)
		「読書随想『高橋元吉詩集』」(『図書新聞』10月16日)
		「村の俳句家系」(『俳句とエッセイ』4巻11号)
		「ただならぬ歴史の姿-小選挙区制のある政治風景」(『赤旗』11月18日)
		「枯野随想」(『文化評論』12月号)
		「四十三年目の詩集」(『東京新聞』12月21日)
		「揺れる伝統詩」(『読売新聞』12月28日)
		「詩人と版画家の交流」(『文芸春秋テラックス』3巻3号)
		「アンケート・天皇とは何か」(『潮流詩派』87号(昭和51年10月))
		詩「語り継ぐ八月-戦争考」(『民主文学』9月号)
1977 (昭和52)	71	『萩原朔太郎 伊藤信吉 著 (北洋社 4月25日)
		『紀行ふるさとの詩』伊藤信吉 著 (講談社 4月28日)
		『詩集 天下末年』伊藤信吉 著 (新日本出版社 4月30日)
		『詩的紀行 日本の虜墟』伊藤信吉 著 (講談社 7月25日)
		『回想の上州 その詩的風土に沿って』伊藤信吉 著 (あさを社 9月1日)
		『逆流の中の歌 詩的アナキズムの回想 増補改訂版』伊藤信吉 著 (楽流社 10月1日)
		詩「塩の道」(『歷程』1月号)
		詩「月蝕」(『風雷』50号)
		詩「日常」(『青玄』28巻7号)
		詩「桑」(『上州路』4巻5号)
		詩「桑-産業考」「街頭唄-勸旅考」「菊花反乱-紋章考」(『詩人会議』5月号)
		詩「ゴマメの唄」(『産経新聞』6月18日)
		詩「校額異聞」(『歷程』7月号)
		詩「驢馬の唄 物語五篇」5篇「無料」「族物語」「金枝篇The Golden Bough」「時刻表」「コンサイス辞典」(『民主文学』7月号)
		詩「古希の日に」(『大阪』7月号)
		詩「一眼記」(『馬』3号(昭和52年8月))
		詩「赤坂・弁慶橋」(『関野準一郎版画集』)
		詩「光に就いて」「粗林」「夜警」(富山房百科文庫 萩原朔太郎編『昭和詩鈔』再録)
		「日記帳の表書」(『赤旗』1月1日)
		「上毛新聞と三人の詩人」(『上毛新聞』1月1日)
		「関八州」(『東京新聞』関東版1月3日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「雑誌帰郷（風雷と共に）」（『風雷』50号）
		「旅の奥行き」（『俳句』26巻1号）
		「このごろ」（共同通信『京都新聞』1月25日）
		「古希の日・前後」（『新潮』2月号）
		「受賞者を訪ねて（インタビュー）」（『読売新聞』2月3日）読売文学賞
		「書評 山本健吉著『近代日本の詩人たち』」（『東京新聞』2月12日）
		「唄きいて・雑感」（『桃の夭天』3月号）
		「流れのほとりに」（『小原流挿花』3月号）
		「最後の上州近代詩人（インタビュー）」（『週刊読書人』3月14日）
		「『内灘周辺の旅』とある邂逅」（『文学新聞』3月15日）
		「跋文 谷元益男のこと」（谷元益男詩集『夢の器』山王ライブラリー）
		「大正産業美術の理想と挫折」連載2回①竹久夢二の〈夢の廃墟〉②山本鼎の〈農民美術〉（『芸術生活』4月号、5月号）
		「座談会 伊藤信吉の詩の世界—多喜二・百合子賞受賞をめぐって」（『詩人会議』15巻5号）
		「朔太郎・詩人の魂 乃木坂倶楽部アパート-回想と共に」（『国文学解釈と鑑賞』42巻7号）
		「湖のほとり」（恵泉女学園高校『水鏡』創刊号）
		「書評 小海永二著『現代詩の構図』」（『国文学解釈と教材の研究』22巻10号（昭和52年8月号））
		「私の体にしみつく上州（インタビュー）」（『上毛新聞』9月7日）
		「詩集に寄せて」（上野丈夫詩集『黒の時代』栄光出版社 10月15日）
		「序文」（野口武久著『詩のふるさと前橋』10月15日）
		「対談・秋山清『啄木の軌跡』」（たいまつ新書27 秋山清著『啄木と私』）
		「『詩への招待』添え書き」（新日本新書242 安西均著『詩への招待』）
		「上毛新聞の思い出」（『上毛新聞』11月1日）
		「住・食・衣・旅・思郷」（『あすあすあす』5巻11号）
		「『野火』の詩と曲」（『東京新聞』11月14日）
		「八月の夜の雨」（『歷程』12月号）
		「緑地変異」（『横浜詩人会通信』143号 12月10日）
		「未来からの郷愁」（『関野準一郎版画集』）
		「解説」（筑摩書房版『萩原朔太郎全集』13巻）
		「高原に歌う信濃路の抒情詩人たち」（『信濃路文学と風土への旅』学習研究社）
1978 (昭和53)	72	『現代名詩選 下』伊藤信吉 編（新潮社 新潮文庫 1月13日）
		『日本の詩5 高村光太郎集』高村光太郎 [著] 伊藤信吉 編（集英社 10月25日）
		『萩原朔太郎アルバム・年譜』伊藤信吉 佐藤房儀 編（筑摩書房版『萩原朔太郎全集 第15巻』抜刷）
		詩「向毛線年代誌」（『上州路』5巻1号）
		詩「日本橋界限」（『歷程』1月号）
		詩「公園界限」（『詩人会議』16巻2号）
		詩「おしゃれ町界限」（『文化評論』2月号）
		詩「向毛線年代誌」（『歷程』2月号）
		詩「元総社南小学校校歌」
		詩「日高遺跡にて」（『上州路』5巻4号）
		詩「上州方言詩集」9篇「風花」「望郷」「河」「さすらい」「おでん異聞」「逆さ」「遺言ふう」「燈火」「餓人伝」（『すばる』34号（昭和53年4月））
		詩「老言告知」「骨」「漂う」「斜め」「即物的」「言語論」「風や天」「幼年回帰」「唄」「厄」（『民主文学』150号（昭和53年5月））
		詩「上州名物」（『歷程』6月号）
		詩「野暮の花」（『婦人通信』6月号）
		詩「矢上貝塚で」「湖水駅」「桜の園私記」「風系」（『あるとき』3号（昭和53年7月））
		詩「一眼渡世」（『冊』2号）
		詩「女の一生」（『歷程』8号）
		詩「お悔み」（『歷程』9月号）
		詩「一眼渡世」（『解水期』10号）
		詩「海のほとり」（『文学界』12月号）
		「郷愁と望郷」（『上毛新聞』1月1日）
		「複数正月の記」（『神奈川新聞』1月6日）
		「評価と遺産継承のために」（『ナップ』復刻版内容見本）
		「犀星・その人と文学—思想性をめぐって」（『国文学解釈と鑑賞』43巻2号）
		「郷愁の詩人-萩原朔太郎」（『別冊 一億人の昭和史 昭和詩歌俳句史』毎日新聞社）
		「筆者から」（『文化評論』2月号）
		「芭蕉における『思ひ』」（『波』2月号）
		「『ナップ』をめぐる思い出-私の回想の場」（復刻版「ナップ」別巻 戦旗復刻版刊行会）
		「解説-次代からの回想」（復刻版「銅鑼」別冊 日本近代文学館）
		「萩原朔太郎全集と私」（『図書新聞』4月15日）
		「私の塩の道」（『交通新聞』4月16日）
		「哀歌-桃の花」（『文化評論』5月号）
		「歌集『空いろの花』の発見-萩原朔太郎の遺稿をめぐって-」（『新潮』75巻5号）

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「編集を終わって」(『筑摩書房版『萩原朔太郎全集』15巻月報)
		「哀歌」(『歷程』5月号)
		「専ら〇点の詩人」(『草野心平全集』1巻月報1)
		「詩史的に書詩的に」(『日本社会主義文化運動資料4 プロレタリア詩雑誌集成』内容見本 戦旗復刻版刊行会)
		「鄙味礼賛-わらべ唄と唄べもの」(『味のふるさと17 群馬の味』角川書店)
		「幻の本二巻」連載2回(『図書新聞』5月27日、6月3日)
		「プロレタリア詩・改題」(『日本社会主義文化運動資料4 プロレタリア詩雑誌集成 上』)
		「心ゆれる六月」(『読売新聞』6月1日)
		「方言考」連載4回①ほろびのテンポ ②廃墟の物語のごとく ③母のこぼれ ④イントネーション(『東京新聞』6月5日、12日、19日、26日)
		「芭蕉とわたし-白の感覚」(『俳句とエッセイ』6巻6号)
		「詩に添えて」(『婦人通信』6月号)
		「対談・近野十志夫『社会性・意味性・表現』」(『詩人会議』6月号)
		「花のわらべ唄」(『文化評論』6月号)
		「啄木-抒情の純一性について」(『ほるぶ図書新聞』6月15日)
		「対談・秋山清『プロレタリア詩運動の軌跡-プロレタリア詩雑誌集成の刊行をめぐって』」(『図書新聞』6月17日)
		「花に非ざる花」(『文化評論』7月号)
		「競馬周辺」(『あすあすあす』8月号)
		「座談会 日本の詩を再発見しよう!」(『青春と読書』8月号)
		「対談・高島順吾『詩への情熱』」(『北日本新聞』9月23日)
		「序文 懐郷の情感とその地誌」(刊行会編『新版 上毛文学散歩』煥平堂)
		「生涯の抒情歌」(『室生犀星全集』内容見本 冬樹社)
		「座談会 プロレタリア詩とその周辺」(『詩人会議』10月号)
		「流れのほとりに」(小原豊雲編『花に関する五十章』講談社)
		「高村光太郎-生命感の詩人」(集英社版『日本の詩』5巻)
		「その落穂・第二」(『新潮』75巻11号)
		「日本の美-冷たい花々」(『産経新聞』11月10日)
		「跋文『青春の回廊』に寄せて」(大島養平著『青春の回廊』あさを社)
		「一つの詩史」(『プロレタリア詩雑誌集成 中』別冊)
		「年輪ある碑文-詩人東宮七男をたたえて」(『東宮七男詩碑記念誌』)
		「亡命者の周辺-その生の場所で」(『現代詩読本5 高村光太郎』)
		「『批評』に触れて」(『吉田健一著作集』5巻月報)
1979 (昭和54)	73	『現代名詩選 上』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 2月15日)
		『日本の詩18 安西冬衛 高橋新吉 北川冬彦集』安西冬衛 高橋新吉 北川冬彦 [著] 小海永二 清水康雄 伊藤信吉 編 (集英社 5月25日)
		<b>『詩集 望郷望歌 風や天』伊藤信吉 著 (集英社 5月30日)</b>
		『現代名詩選 中』伊藤信吉 編 (新潮社 新潮文庫 6月10日)
		『日本の詩24 近代詩集3』壺井繁治 岡本潤 [ほか][著] 伊藤信吉 編 (集英社 8月25日)
		『日本の詩23 近代詩集2』平戸廉吉 岡田刀水士 岡崎清一郎 [ほか][著] 伊藤信吉 編 (集英社 10月25日)
		『日本の詩22 近代詩集1』北村透谷 釈道空 野口雨情 [ほか][著] 伊藤信吉 編 (集英社 12月25日)
		詩「地図」(『文化評論』1月号)
		詩「類輪地方で」3篇「俗言」「訳語」「能登七尾港」(『すばる』1巻2号(昭和54年6月))
		詩「モンマルトルの蜂」(『読売新聞』7月20日)
		詩「秋虫」(『小説新潮』11月号)
		詩「波止場で」「引越しの日」「信号」(近代詩誌復刻叢刊『詩・現実』冬至書房新社)
		「詩と私信-島崎藤村との往復書簡」(『記念館だより』1月1日)
		「週言」連載10回①七草がゆの朝 ②遺跡と郷土史 ③私の死に欲 ④買物メモ ⑤幕や板の彼方6月面踏査と水虫 ⑦八月という月 ⑧『お晩です』など ⑨幻の掛掛け屋 ⑩二つの風俗画(『神奈川新聞』1月8日、2月12日、3月29日、4月23日、5月28日、7月2日、8月7日、9月10日、10月15日、12月24日)
		「講演記録 萩原朔太郎について」(『文芸早稲田』2号(昭和54年1月) 昭和53年10月8日開催)
		「日本海-詩情と風土」(『旅』1月号)
		「書評 大岡信著『日本詩歌紀行』」(『東京新聞』1月13日)
		「一眼渡世ゴマメ唄」(『山陽新聞』1月22日ほか 共同通信配信)
		「生地村のこぼれを織りこんだ詩」(『赤旗』1月20日)
		「出演『NHK文化シリーズ・文学への招待 郷土望景・朔太郎 詩人と風土』」(NHK ETV 2月11日収録)
		「書評 川崎洋著『方言の思ひかい』」(『ポスト』2月23日)
		「古本の思い出少々」(『わかば書店古書目録』)
		「出演『文学と風土 三木露風 ふるさと』」(NHK ETV 3月9日収録)
		「講演『高村光太郎-人と作品』」(調布市立図書館 3月)
		「『愛の詩集』の縁辺」(『詩人会議』17巻3号、4号、6号)
		「書評 飯田龍太著『思い浮ぶこと』-日本の風土鑑賞」(『俳句』28巻4号)
		「詩碑のほとりの回想」(『明治村通信』10巻4号)
		「上州の詩人たち-萩原恭次郎と萩原朔太郎の交友」(『ユリイカ』5月号)
		「書評 読売新聞前橋支局編『駅・上州の鉄道』」(『週刊読書人』5月14日)
		「詩集の備み」(『日本近代文学館』49号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「解説」(復刻版『銅鑼』)
		「討議『幻視から直視へ-近代詩法の確立と詩意識の変革』」(『現代詩読本8 萩原朔太郎』)
		「(土音)という方言」(『青春と読書』6月号)
		「上州大逆事件の歌人」連載8回①上州・一九一〇年秋 ②『明星』系の歌人たち ③生涯の一点に焚く炎 ④放浪と社会主義往来 ⑤『おち栗』をめぐる ⑥恋と再放浪-廃刊後遺症 ⑦新井辺羊-作品とその死 ⑧大阪より送る最後の書簡(『短歌』26巻6号-12号、27巻-1号)
		「講演『第5回日本近代文学の夕べ『文学と愛』 『智恵子抄』-愛の祈り』」(多治見 8月25日)
		「解題 イマジズムの詩人たち」(近代文芸復刻叢刊『卓上噴水』別冊 冬至書房新社)
		「解題 『生理』」(近代文芸復刻叢刊『生理』別冊)
		「(桑の実)方言誌」連載3回(『俳句とエッセイ』7巻6号-8号)
		「詩と人生」(『わが青春わが文学』集英社) 高校生のための文化講演会講演に加筆
		「いらっしゃい-昔の姿消え寂しい」(『山陰中央新報』6月13日)
		「年齢順の姿」(『あすあすあす』6月号)
		「庶民界隈の回想」(末繁博一詩集『家その前後』付録 駒込書房)
		「解題『感情』グループについて」(近代文芸復刻叢刊『感情』別冊)
		「詩的生命の普遍的拡大を」(『詩人会議』17巻8号)
		「厳しかった中野さん」(『読売新聞』8月27日)
		「詩人たちの葬儀」(『産経新聞』8月13日)
		「現実性・思想性の詩的世界」(集英社版『日本の詩』24巻)
		「書評 石垣りん詩集『略歴』-組織・機構を詩人の目で批判」(『サンデー毎日』8月26日)
		「歌三首の傍えに-福永武彦追悼」(『新潮』76巻10号)
		「モダニズム・抒情詩の世界」(集英社版『日本の詩』23巻)
		「対談・秋山清『詩史のなかの中野重治』」(『コスモス』65号)
		「遠く近く五十年-追悼・中野重治」(『新潮』76巻11号)
		「心の中で雷が鳴り風が吹く」(『上毛新聞』10月23日広告欄)
		「『道程』について」(『文芸読本 高村光太郎』)
		「年譜」(筑摩書房版『萩原朔太郎全集』)
		「セルゲイ・エセーニンに関する断片」(『解題』(近代詩誌復刻叢刊『詩・現実』)
		「近代詩の流れに沿って」(集英社版『日本の詩』22巻)
		「にんげん訪問 上州派詩人における叙情と政治の間(インタビュー)」(『朝日ジャーナル』21巻29号(昭和54年7月))
		「討議『日本語の可能性としての抒情』」(『現代詩読本6 室生犀星』)
		「(木内進)詩集『幼年歳時』に寄せる」(『情緒』79号(昭和54年4月))
		「伊藤信吉先生訪問記(インタビュー)」(『野火』83号(昭和54年9月))
		「故郷の方言による詩作に情熱を燃やす(インタビュー)」(『東京新聞夕刊』10月22日)
1980 (昭和55)	74	『萩原恭次郎全集 全3巻』萩原恭次郎 〔著〕 秋山清 伊藤信吉 川浦三四郎 編 (静地社 2月5日)
		「空想オランダ紀行」(『現代』1月号)
		「対談・城角『歴史・現実・リアリズム』」(『詩人会議』1月号)
		「『椰子の実』の歌-伊良湖岬」(『人生読本 旅』河出書房新社)
		「胃ぶくろの革命」(『東京新聞』4月1日)
		「新しい『雑草精神を』」(インタビュー)」(『上毛新聞』4月30日)
		「昨日今日」(『信濃毎日新聞』5月23日)
		「風信」(『山形新聞』5月23日)
		「旅の終りの鷓鴣」(『俳句とエッセイ』8巻6号)
		「『望郷愛歌』続篇談」(『すばる』6月号)
		「胃ぶくろの思考」(『赤旗』6月20日)
		「ひっそりと結城信一氏」(『新潮』77巻7号)
		「プロレタリア詩・三冊の詩集」(『図書新聞』7月5日)
		「座談会 光太郎の芸術と人」(『産経新聞』7月22日)
		「高崎線の雑森」(『グリーン・パワー』8月号)
		「私の中の詩人たち」(『新潮』77巻9号)
		「本棚作り・本作り」(『本と批評』71号(昭和55年9月))
		「出演『群馬に生きる 伊藤信吉』」(群馬テレビ 9月16日収録)
		「胃ぶくろのあいさつ」(『横浜詩人会通信』9月25日)
		「編集後記」(静地社版『萩原恭次郎全集』2巻)
		「萩原恭次郎ノート2 石倉の家とその近辺」(静地社版『萩原恭次郎全集』2巻付録)
		「講演記録 生活文化と詩」(『西毛文学』106号)
		「黒い煙草の下で 非戦・大逆事件に見る朔太郎像」連載3回①少年詩人の異声②観念論者の奇妙な位置③慣り(『朝日ジャーナル』22巻48号-50号(昭和55年11月-12月))
		「(プロレタリア詩雑誌図書館)として」(『プロレタリア詩雑誌総覧』)
		「萩原朔太郎忌 記念集会あいさつ」(『萩原朔太郎研究会会報』32号)
1981 (昭和56)	75	『烈風の中に立ちて 萩原朔太郎と萩原恭次郎』伊藤信吉 著 (静地社 7月25日)
		『萩原朔太郎と詩的風土』伊藤信吉 編 (上毛新聞社 8月30日)
		『学校詩集 1929年版』翻刻増補版 伊藤信吉 編 (麦書房 12月20日)
		「講演 大逆事件(上州の余波)」(大逆事件処刑七十周年追悼集会)
		「鶏鳴の歌-十二支の酉にちなんで」(『赤旗』1月1日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「胃ぶくろ昨年・今年」(『神奈川新聞』1月24日)
		「佐藤緑葉について」連載3回(『風雷』66号、68号、69号)
		「流れのない川」(『とうよこ浴線』3月号)
		「お巡りさんをカンクさん」(『読売新聞』4月24日)
		「座談会 前衛詩人・プロレタリア詩のころ」(『文芸広場』29巻5号)
		「中野重治論」(『中野重治・宮本百合子』有精堂、再録)
		「私の一冊・島崎藤村『破戒』」(『東京新聞』7月13日)
		「まえがき」『交友二十年の素描-萩原朔太郎と萩原恭次郎』(『萩原朔太郎と詩的風土』上毛新聞社)
		「三分の一胃ぶくろ」(『潮』8月号)
		「詩においてく割り切れないものの可能性」(『詩人会議』9月号)
		インタビュー記事(『東京新聞』11月7日)
		「編者のことば」(学習研究社版『カラーグラフィック 明治の古典』内容見本)
1982 (昭和57)	76	『明治の古典6 若菜集 春』島崎藤村 [著] 伊藤信吉 編 (学研 2月25日)
		『黒い鐘楼の下で 萩原朔太郎・その文化的自由主義』伊藤信吉 著 (麦書房 3月25日)
		『伊藤信吉詩集 世界の詩75』伊藤信吉 著 山室静 編 (弥生書房 5月31日)
		『顕彰先達詩人作品集 1982年度』伊藤信吉 永瀬清子 著 (日本現代詩人会 日本文芸研究13巻1号抜刷)
		『プロレタリア詩雑誌集成 別巻 プロレタリア詩雑誌総覧』伊藤信吉 秋山清 編 (戦旗復刻版刊行会 7月30日)
		詩「ギター唄」(『文化評論』3月号)
		詩「小鳥」(『文芸春秋』10月号)
		詩「風や天 テンカゼ」、写真「群馬町園分寺跡(上州路秀景)」(『上州路』11月号)『風や天』より
		詩「上州」(『詩と資料 詩人会議の二〇年』)
		詩「故郷 三」「風花」「演歌」「石の驕」「オランダの唄」「天下末年」(小海永二編『精選 日本近代詩全集』ぎょうせい)再録
		「出演『女性手帳 風よ ふるさと上州 老年、夢多し』(NHK 1月20日収録)
		「命宿した小さな木彫り」(『読売新聞』大阪版)
		「老年望郷-上州・大逆事件のこと」(『東京新聞』2月3日)
		「老年早春譜」(『赤旗』2月22日)
		「『安全弁』の意味」(『月刊国語教育』2月号)
		「『思想的思索』再見-一九二九年版『学校詩集』の復刊」(『新潮』3月号)
		「蠟梅忌に尾崎喜八をかたる」(『かまくら春秋』3月号)
		「喋らずにしゃべっていた年月」(小島千加子詩集『虹のかけ橋』沖積舎)
		「赤い靴」(『東京新聞日曜版』 3月28日)
		「出稼ぎの別れ」(みやま文庫85『みやま随筆Ⅱ』)
		「結城にて(高村光太郎・結城ガーデン)」(『歷程』282号(昭和57年4月))
		「対談・尾崎輝彦『大正時代の思い出』」(中央公論社『二十世紀』7巻付録)
		「“四無”の嘆き」(『東京新聞』4月1日)
		「金釘流」(『詩学』37巻6号)
		「詩人たちの面影」(『神奈川近代文学館極意書』)
		「野火の唄」(『野火』100号)
		「佐藤緑葉・補遺1-『トルストイの思想と文学』のこと-」(『風雷』72号)
		「佐藤緑葉・補遺2-生地にかかわる作品を中心に-」(『風雷』73号)
		「対談・河村望『分析・ロングセラー 島崎藤村『夜明け前』』」(『赤旗日曜版』8月29日)
		「一〇〇号拍手」(『上州路』9月号)
		「詩の中の関東地方大震災」連載2回(『赤旗』9月1日、2日)
		「書評 川名登著『河岸に生きる人びと-利根川水運の社会史』」(『東京新聞』10月29日)
		「水上温泉」(『水上館案内』)
		「野火100号祝賀会レポート(あいさつ)」(『野火』101号(昭和57年9月))8月1日開催
1983 (昭和58)	77	『島崎藤村の文学 復刻版』伊藤信吉 著 (近代文学研究叢書5 日本図書センター 8月25日)
		「風色の望郷歌」連載13回①(1月)風々ふく西の山が燃えるぞ②(2月)弁当は何だい焼餅かい③(3月)粟三升貸した、粟三升貸した④(4月)憂きことあるとき共に憂い……⑤(5月)上州は桑原十里桑の実の赤きを……⑥(6月)帰命頂礼……蚕影さま 蚕の由来を……⑦(7月)土用半ばに秋風が吹く⑧(8月)ちよいと出ました三角野郎が⑨(9月)電燈が呼吸をつく⑩(10月)死なば十月、中十日⑪(11月)顔で胡麻を炒るような日だ⑫(12月)おらあ椀棧 ずーるする⑬(13月)唐土の鳥が渡らぬ先に(『朝日ジャーナル』25巻1号、5号、10号、15号、19号、25号、29号、33号、36号、42号、47号、50号、26巻3号)
		「島崎藤村-私の中の一人の作家」(筑摩全集類聚『島崎藤村全集』別巻)
		「胃ぶくろを切って」(『アルク』2月号)
		「金沢の詩人-私の中田忠太郎・黒田秀雄」連載8回①翁行燈②金沢と前橋③「かひつぶり」の卵④『学校』と『城』の詩⑤亀から鶴への変身⑥左翼的立場へ⑦『城』の終刊⑧青春の悔恨(『北陸中日新聞』2月28日-4月25日)
		「“四無”の嘆き-高村光太郎生誕百年に」(『東京新聞夕刊』4月1日)※「昭和59年にもっと的確な『六無の系譜』を書いたのでこれは不要」とのメモあり
		「ケチの意識で」(『女性のひろば』4月号)
		「五月の思い-聞く・考える詩人の会十周年に」(『赤旗』5月10日)
		「二人の革命家像-佐藤緑葉・純篤」(『風雷』75号)
		「上州画家の戦場歌」(『運河』1巻1号創刊号)
		「出版をめぐる回想」(復刻版『島崎藤村の文学』)
		「火の子界限」(『火の子の宇宙』冬樹社)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「跋」(三方克詩集『白の地図』視点社)
		「解説」(前橋市立図書館編『萩原朔太郎郷土詩集』)
		「図書館と憩意に」(『図書館ぐんま』30号(昭和58年10月))
		「風景が枯れる秋に」(『東京新聞』11月1日)
		「佐藤緑葉補遺一件」(『風雷』77号)
		「講演記録 追憶朔太郎」(『グラフ北関東』11月号) 萩原朔太郎研究会
		「昔、ハマのうた」(『横浜詩人会通信』11月)
		「講演記録 私の詩的風土」(『上州路』10巻11号) 9月31日開催文化講演会
		「新設賞の周辺(現代詩人賞選考のことば)」(『詩学』38巻6号)
		「書簡による感想(藤田三郎著『佐藤惣之助 詩とその展開』)」(『詩の家』156号(昭和58年8月))
		「出演『ふるさとの方言詩を中心に』」(NHKラジオ11月)
		「出演『室生犀星の詩』」(NHKラジオ11月)
1984 (昭和59)	78	『松永延造全集 全3巻』松永延造 [著] 伊藤信吉 [ほか]編 (国書刊行会)
		『風色の望郷歌』伊藤信吉 著 (朝日新聞社 5月20日)
		『社会派アンソロジー集成 別巻』伊藤信吉 秋山清 著 (戦旗復刻版刊行会 5月31日)
		詩「風花 ハアテ・フッコシ」(『上州路』11巻2号)
		詩「日高遺跡で」(『群馬厚年の友』5月号)
		詩「枯葉シャンソン」(『民主文学』225号(昭和59年8月))
		詩「秋夜オタクラ」(『本の手帖』37号)
		「真壁仁氏を悼む」(『河北新聞』1月16日)
		「囁・もがり笛」(『すばる』6巻2号)
		「あれこれ五十五年」(講談社版『山本健吉全集』9巻月報9)
		「対談・藤原定『ファシズムの中の文化』」(『詩人会議』22巻3号)
		「文学館設立の声に」(『群馬近代文学館設立期成会議 会報』1号創刊号)
		「時雨の歌一首」(『角田蒼穂歌集』付録 現代書房新社)
		「おわれたコジケイ一家」(『自然保護』263号(昭和59年4月))
		「現代詩の社会的系譜の成果-解説として」(『社会派アンソロジー集成』別巻)
		「新しい伝統性『測量船』の特質」(『学校図書館ニュース』6月15日)
		「序文 三國の青春図布-『詩人三好達治』に寄せて」(畠中哲夫著『詩人三好達治』花押社)
		「詩的戦慄への誘い」(『松永延造全集』内容見本 国書刊行会)
		「解説」(『松永延造全集』3巻)
		「馬場裏旧屋の落ち葉」(『花曜』創刊号)
		「『六無』の系譜-私の高村光太郎」(『国文学解釈と鑑賞』49巻9号(昭和59年7月))
		「近代詩人と雑誌『児童文学』」(『児童文学』復刻版 別冊)
		「講演要旨 犀星と虫」(『犀星の会会報』7号(昭和59年8月)) 第6回犀星忌の集い
		「ラブコール・桃山晴衣さんへ」(『週刊朝日』8月24日)
		「講師」靖国神社文学散歩(『聞く・考える詩人の会』30回記念伊藤信吉特集)
		「座談会 生活詩の評価と克服」(『詩人会議』22巻9号)
		「一つのこと」(壺井繁治詩碑「石」除幕式記念冊子 内海町役場)
		「バッチの記憶」(『東京新聞』10月5日)
		「田舎のお茶と菓子」(『別冊婦人公論』10月号)
		「緑葉・北下浦の家」(『風雷』81号)
		「久里浜に遊いた歌人」(『神奈川新聞』12月1日)
		「灯の便り」(『手紙』2号)
		「私の愛蔵本」連載2回①トラウマ詩集『燕の書』②『世界プロレタリア年表』(『赤旗』12月10日、17日)
		「室生犀星論」(日本文学研究資料叢書『近代詩』有精堂出版)
		「出演『国語Ⅰ ふるさとの詩 萩原朔太郎と室生犀星』」(NHK教育テレビ 11月5日収録)
1985 (昭和60)	79	詩「三宅島で」(『朝日新聞』1月1日)
		詩「私のファッション」(『詩人会議』1月号)
		詩「夜の燕」(『民主文学』237号(昭和60年8月))
		詩「雷電神社で」(『上州路』12巻8号)
		詩「年齢の嗜好」(『こうねんのひろば』3号(昭和60年1月)) 厚年の広場
		詩「葉ざくらの風-靖国考」(『存在』創刊号(昭和60年1月)) 再録
		「核のない時代を」(『上毛新聞』1月1日)
		「うつくしい町-正月断章」(『赤旗』1月7日)
		「三宅島のタンボガ」(『赤旗』1月21日)
		「白鳥省吾の世界-民衆派のプロレタリア詩的先駆性-」連載3回①(『文学』53巻1号-54巻6号)
		「対談・大岡信『プロレタリア詩とその周辺』」(『文学』53巻1号)
		「雪国と抒情の変遷」(『木々の姿』丸山葉詩碑保存会)
		「歌人・田中辰雄小論」連載3回(『風雷』82号-84号)
		「書評 木内宏著『礼文島、北深く』-“北端感覚”いっぱい」(『東京新聞』3月1日)
		「『氷島』解説-フィクションと詩的真実」(日本近代文学館・名著初版本復刻珠玉選 萩原朔太郎著『氷島』別冊 解説)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「佐藤緑葉論」連載3回①時代閉塞の谷間で②反戦小説の翻訳③二人の革命家像（『早稲田文学』106号、108号、109号（昭和60年3月-6月））
		「風-私の上州季語」（『糸瓜』43巻3号）
		「序文」（みやま文庫『上州うたごよみ』）
		「二月十三日」（『日本詩人』4月号）
		「道 76年周期の星に寄せて」（『保団連』5月号）
		「磐戸村紀行-工藤六太郎についての断片」（『かぶらはん』36巻5号）
		「五月三十日」（『日本詩人』4月号）
		「断章」と石川啄木」（『短歌』32巻7号）
		「えび、ツグミのうた」（『群狼』25号）
		「浜民村感傷紀行-啄木断想-」（『詩人会議』23巻7号）
		「ツヨの合間に ひとり合点のあいさつ」（『赤旗』7月7日）
		「わが青春の愛読書-『抒情小曲集』の魅惑」（『短歌』32巻8号）
		「対談・堀多恵子『堀辰雄の思い出-堀多恵子著『来し方の記・辰雄の思い出』をめぐって』（『新刊ニュース』No.421）
		「戦前『歴程』の回想」（『東京新聞夕刊』9月5日）
		「座談会 野口雨情と今日の民謡・童謡-〈定本・野口雨情〉刊行をめぐって」（『未来』228号（昭和60年9月））
		いつも鬼をお送りいただき恐縮に存じます。（『鬼』9月1日）
		「解説 全二十六冊の年月」（戦前版「歴程」復刻版別冊 日本近代文学館）
		「座談会 歴程五十年の歩み」（『歴程』10月号）
		「討議『詩人犀星の本質』」（『現代詩読本 室生犀星』）
		「都市ノスタルジア」（『小松健一写真展』案内）
		「風々吹くな西の山が燃えるぞ」（日本の名隨筆37 山口誓子編『風』作品社）
		「『思ひ出』の縁辺」（『コスモス』33巻11号）
		「講演記録 高村光太郎 思い出の太田村山口」（『花巻病院新聞』87号）11月15日開催高村祭
		「解説 詩人の身の処し方」（未来社版『定本野口雨情』1巻）
		「七〇年も埋もれていた歌集-萩原朔太郎著『ソライロノハナ』復刻版」（『上毛新聞』12月20日）
		「講演記録 思い出や 作品論や」（『藤村記念館だより』45号（昭和60年1月））11月15日開催落成記念日記念講演
		「講演記録（続）思い出や 作品論や」（『藤村記念館だより』46号（昭和60年5月））11月15日開催落成記念日記念講演
		「苛立ちの声」（『俳句四季』2巻3号）
		「木々の姿の小包がとどきました・・・」（『会報』4号（昭和60年6月）丸山薫詩碑保存会）
1986 (昭和61)	80	『萩原朔太郎全集 全16巻』萩原朔太郎〔著〕補訂版 伊藤信吉[ほか]編（筑摩書房 10月〜）
		詩「信号の黄」（『別冊婦人公論』6月号）
		詩「私のファッション」（『群馬年刊詩集』10）
		「『ソライロノハナ』復刻版に寄せて」（『ほるぶ図書新聞』1月1日）
		「傘寿の年の春に」（『こうねんのひろば』7号（昭和61年1月））厚年の広場
		「私の幼年方言誌」連載18回①方言の町体験②あれこれの思い出③眼・マナク自伝④村の動物誌Ⅰ⑤近代的方言など⑥「負」に傾いて⑦遠い日の食事⑧村ことば散策Ⅰ⑨詩人たちの方言⑩寝起き・動き・働き⑪冬の夕食など⑫一家・オヤコ・家屋⑬心の姿・女ことば⑭村の動物誌Ⅱ⑮村ことば散策Ⅱ⑯時間・量・度合い⑰料理用語の周辺⑱花草・木竹・前載（『上州路』13巻1号-3号、5号-8号、10号-12号、4巻1号-7号、9号）
		「十月二十四日」（『日本詩人』1月号）
		「石原八束の人と作品 風の匂に寄せて（特集石原八束の世界）」（『俳句研究』53巻2号）
		「岡田刀水さんの思い出」（『軌道』63号（昭和61年冬））
		「冬至十日前」（『風雷』86号（昭和61年冬季））
		「解説・細目」（『四季』復刻版第二刷）
		「民謡詩人・野口雨情」（『赤旗日曜版』2月16日）
		「お祝い（寺田弘詩集『勲章について』感想集）」（『独楽通信』66号（昭和61年3月））
		「萩原朔太郎と短歌」（『毎日新聞夕刊』3月3日）
		「上州の精神的風土」連載2回（『東京新聞夕刊』3月6日、7日）
		「早春菜日」（『日本詩人』3月号か）
		「理想に生きた農民詩人『猪狩満直全集』刊行によせて」（『ほるぶ図書新聞』5月1日）
		「郷土史の傍に」（『風雷』87号（昭和61年春季））
		「書評 谷川俊太郎著『「ん」まであるく』-生への活力が蘇るエッセイ集」（『週刊ポスト』5月23日）
		「童謡運動の波に」（『定本 野口雨情 詩と民謡Ⅰ』月報）
		「アシタナサ上州ヘイグ」（『民主文学』246号（昭和61年5月））
		「『朔太郎の日々』に寄せて」（野口武久著『朔太郎の日々』前橋市観光協会）
		「敗戦後、新出発の二誌」（『コスモス』4次53号（昭和61年6月））
		「講演記録 啄木と朔太郎-短歌と詩、その共通性の周辺」（『詩人会議』24巻7号）3月16日開催 横浜文団連
		「『新日本詩人』をめぐる回想的解説」（日本社会主義文化運動資料41『『コスモス』・『新日本詩人』別冊』久山社）
		「貴族論ノート-萩原朔太郎についての一断片-」（『風雷』88号（昭和61年夏季））
		「朔太郎の離郷前・上京時のこと」（『上州路』13巻8号）
		「六月三十日」（『日本詩人』8月号）
		「詩的感動の宝庫」（『日本プロレタリア文学全集』第二期 内容見本）
		「詩人論の相貌-『萩原朔太郎』に寄せて」（梁瀬和男著『萩原朔太郎』あさを社）
		「郷土作品に触れて」（『比刀祢』10号）
		「再考民衆詩派 百田宗治について 二章」（『詩人会議』24巻9号）
		「詩人の存在感-萩原朔太郎生誕百年を迎えて」（『東京新聞』10月7日）

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「老年の場」(『風雷』89号(昭和61年秋季))
		「全的存在の詩人」(『岡崎清一郎全詩集』内容見本)
		「幻の『萩原朔太郎詩集』-メモの中から」(『東京四季』37号(昭和61年11月))
		「座談会 方言と昔がたり 詩人たちの方言」(『上州路』13巻10号)
		「沿線住民態勢調査27日吉のひとびと・そのⅢ(アンケート)」(『どうよ沿線』32号(昭和61年2月))
		「野火二十周年祝賀会(あいさつ)」(『野火』121号(昭和61年1月))1985年11月24日開催
1987 (昭和62)	81	『萩原恭次郎の世界』伊藤信吉 川浦三四郎 編 (煥乎堂 6月30日)
		『郷土望景詩をめぐって』伊藤信吉 著 (煥乎堂 10月31日)
		『断章四十六 伊藤信吉句集』伊藤信吉 著 (緑の笹豆本の会 11月30日)
		詩「原宿・無人駅」(『民主文学』254号(昭和62年1月))
		詩「いのちの歴史」(『こうねんのひろば』11号(昭和62年1月))厚年の広場
		詩「萩町 一九七七・七・二五」(『風雷』90号(昭和62年冬季))
		詩「桑並木の街で」(『風雷』92号(昭和62年夏季))
		「原風景のことなど」(『司修ブックデザイン展』案内 煥乎堂ギャラリー)
		「冬至すこし前」(『風雷』90号(昭和62年冬季))
		「随筆」連載4回①初心の押花 ②老年の自覚 ③私のギター唄 ④物おもわせる所(『綜合看護』22巻1号-4号(昭和62年2月-11月))
		「金貨の漫画」(『女性のひろば』4月号)
		「『パンの会』をめぐって-萩原朔太郎メモの中から」(『東京四季』38号(昭和62年4月))
		「石倉の家の周辺-萩原恭次郎没後五十年に因んで-」(『風雷』91号(昭和62年夏季))
		「高村山荘を訪ねて」(高村祭三十回記念『おもいで-光太郎記念集』)
		「鮎つれづれ-鮎の詩的交友」(『酒』6月号)
		「はじめに」「農的メビウスの輪」(『萩原恭次郎の世界』煥乎堂)
		「貝拾いの渚」(新潮社版『福永武彦全集』3巻月報11)
		「梅雨のあいだに」(『風雷』93号(昭和62年秋季))
		「跋文『空の花』の詩人に」(東宮七男詩集『空の花』煥乎堂)
		「死の感覚のろまな私」(『新潮45』12月号)
		「眼鏡ファッション」(『経済往来』10月号)
		「写真(神奈川一区選挙事務所にて)」(『かたりべ』23号(昭和62年12月))
1988 (昭和63)	82	『金沢の詩人たち』伊藤信吉 著 (白楽 5月30日)
		詩「秋・秋・新年」3篇(『日本の秋』『秋の新聞紙』『新年』)(『民主文学』266号(昭和63年1月))
		詩「大太鼓」(『上毛新聞』8月25日)
		「出演「郷土前橋を語る」」(NHKテレビ 前年未収録)
		「対談・浅尾忠男『自己のなかに社会的自我を』」(『詩人会議』26巻1号)
		「冬至九日前」(『風雷』94号(昭和63年冬季))
		「対談・金子光晴『いい詩は飽きました』」(『こがね蟲』2号(昭和63年3月))
		「囚人墓地にて-監獄裏の林・その文学的拾遺-」(『風雷』95号(昭和63年春季))
		「遠い夏の遠い軽井沢」(『高原文庫』3号(昭和63年8月))
		「雪かなし-友みな絶えて」(『新刊ニュース』No.457(昭和63年8月))
		「弔辞 詩人東宮七男追悼」(『風雷』96号(昭和63年夏季))
		「眼中の句-七十年目の開眼」(『経済往来』40巻11号)
		「対談・平澤貞二郎『く前衛詩人』<プロレタリア詩>のころ」(畠中哲夫編著『対談-詩について』花押社)
		「蠍川直枝-上州方言詩の中の人-」(『風雷』97号(昭和63年秋季))
		「異色の版画家・鈴木賢二」(『とうび』12月号)
		「詩人の点鬼簿-その回想」連載3回①草野心平・吉川道子・木村次郎 ②近藤東・山本太郎 ③秋山清(『東京新聞』12月12日-14日)
		「萩原朔太郎生誕百年祭 萩原朔太郎研究会会長挨拶」(『萩原朔太郎研究会会報』40号)
1989 (平成元)	83	『伊藤信吉詩集』伊藤信吉 著 (思潮社 現代詩文庫 9月1日)
		『山村暮鳥全集』全3巻 山村暮鳥 [著] 伊藤信吉監修(筑摩書房 6月9日-9月30日)
		詩「高田敏子追悼」(『東京四季』45号(平成元年8月))
		詩「徒競走一景」(『赤旗』9月17日)
		詩「尾並びに頭」(『民主文学』288号(平成元年11月))
		「無為の前後」(『風雷』98号(平成元年冬季))
		「黒田三郎とわたし-病院日記から」(『詩人会議』27巻2号)
		「『風の時』の縁辺-私の旧刊案内-」(『ちくま』215号(平成元年2月))
		「犀皇日記のこと」(『文化評論』337号(平成元年3月))
		「勤労詩の周辺で」(『国鉄詩人』173号(平成元年2月))
		「『歷程』の回想」(『現代詩読本 草野心平』)
		「序文 裸桑に寄せる」(『伊藤秀久句集』)
		「聖職と貧困と生の情熱」(筑摩書房版『山村暮鳥全集』内容見本)
		「詩人の書冊-近藤東文庫の一瞥」(『神奈川近代文学館』24号(平成元年4月))
		「作品鑑賞として」(石垣りん文庫『詩集 表札など』花押社)
		「飯塚林朔-幸徳秋水手帳の近衛兵-」(『風雷』99号(平成元年春季))
		「詩碑のほとり」(筑摩書房版『山村暮鳥全集』1巻月報1)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「魅惑の文学」（石川近代文学館編『室生犀星生誕百年記念特別展』図録）
		「自分と出会う-マックラサンベ人生」（『朝日新聞』7月3日）
		「叙情的往來の断片」（『中央公論文芸特集』6巻3号秋季号）
		「『故郷』『上州』二冊の第一詩集」（『詩人会議』27巻10号）
		「もう居ない人」（『桃花扇』7号）
		「帯文 川浦三四郎著『群馬の歌びと』（煥乎堂）
		「職探しの詩と私の夢想」（『エンプロイ』11月号）
		「特集 伊藤信吉・ピクトーク」（『鳩よ!』7巻11号）
		「特集 伊藤信吉・ピクトーク」（『鳩よ!』7巻12号）
		「私の幻の書・佐藤緑葉の二著」（『日本古書通信』54巻12号）
		「加藤一夫の思想転換の跳躍台」（『労働文学』復刻版 内容見本）
		「遠い日の味覚を」（『日本の食生活全集 第10巻 群馬の食事』月報33 農山漁村文化協会）
		「諸家芳信抄 大井恵夫歌集『皇の家族』」（『地表』33巻5号（平成元年5月））
		「引用（『鑑賞現代詩Ⅱ』萩原朔太郎「蛙」）」（『NHK中学生の勉強室』28巻2号（平成元年5月））
1990 (平成2)	84	詩「今昔らーめん唄」4篇「上州らーめん」「空っ風らーめん」「支那そばらーめん」「鬼涙らーめん」「ハマのらーめん」（『新潮』87巻1号新年特大号）
		詩「花びら百一年目」（『上州路』2月号）
		詩「だめの花」（『風雷』102号（平成2年冬季））
		詩「渋谷でベルリン」（『読売新聞夕刊』7月7日）
		詩「生涯の花火」（『読売新聞夕刊』7月14日）
		詩「土曜秋かぜ」（『読売新聞夕刊』7月21日）
		詩「雷は誰がために」（『読売新聞夕刊』7月28日）
		詩「煉瓦色の風景画」（『AERA』3巻30号 7月31日）
		詩「鯉・サハリンから」（『民主文学』297号（平成2年8月））
		詩「桑」（『風雷』104号（平成2年夏季））
		詩「新劇の本拠の碑」（『鳩よ!』10月号）
		詩「盆」（『風雷』105号（平成2年秋季））
		詩「今昔らーめん唄」1篇「上州らーめん」（『現代詩手帖』33巻12号（平成2年12月）現代詩年鑑1991）再録
		「深沼火燭嵐・断片」（『風雷』102号）
		「監獄・前橋での一コマ」（『歷程』369号（平成2年2月））
		「赤煉瓦への私道」連載3回（『上州路』17巻2号-4号）
		「講演 高村光太郎について」（現代詩人会セミナー）4月
		「演歌俳句の春」（『読売新聞』4月21日）
		「深沼火燭嵐の来し方」（『風雷』103号）
		「講演 上方との由縁」（朔太郎忌）5月
		「煉瓦色の憂愁-上州時評」（『朝日新聞』群馬版5月20日）
		「解説-「赤い襟章」に添えて」（『文化評論』353号（平成2年7月））
		「壺井繁治の世界-『壺井繁治全集』を読む会議記録」（『詩人会議』28巻7号）
		「詩人の途・小野十三郎」（『ちくま』235号（平成2年10月））
		「11月1日の詩人-朔太郎」連載2回（『東京新聞』11月5日、7日）
		「書評 梁瀬和男詩集『死者の夏』 思考的生の世界の結実」（『詩人会議』28巻11号）
		「老年の秋点々」連載4回①木枯しの日に ②彼岸花の墓銘 ③長寿吹く秋風 ④古本市と『第九』（『赤旗』11月7日、14日、21日、28日）
		「講演 私の詩的遍歴と郷土」（群馬県立女子大学）12月
		「筑摩書房の一冊（アンケート）」（『ちくま』231号（平成2年6月））
1991 (平成3)	85	『郷土版 風色の望郷歌 上・下』伊藤信吉 著（煥乎堂 4月8日）
		『死ぬための生き方』新潮45 編 伊藤信吉 [ほか]著（新潮社 新潮文庫4645 4月25日）
		『赤い襟章 松山達枝作品集』松山達枝 [著] 伊藤信吉 編（青磁社 5月1日）
		詩「米 folklore」（『民主文学』302号（平成3年1月））
		詩「骨折して」（『風雷』107号（平成3年春季））
		詩「秋冷」（『風雷』108号（平成3年夏季））
		詩「私のイヤリング」（『詩学』46巻8号）
		詩「法的叙情の秋」（『赤旗』10月6日）
		詩「海のほとり」（『ネプチューン詩集』91』横浜詩人会議編）
		詩「満八十五歳の夜」4篇「師走しわしわ」「サハリンの釣り 夏A」「雷史」夏B「歳の瀬」（『詩学』46巻12号）
		詩「星」（『東京新聞夕刊』12月2日）
		詩「葉ざくらの風-晴国考」（『ほんりゅう』9巻3号（平成3年3月））再録
		「詩人交遊録」連載2回①上州の詩人たち ②プロレタリア詩人会まで（『詩人会議』29巻1号、2号）
		「私と赤城山」（『朝日新聞』群馬版1月20日）
		「火の花・火事花」（『風雷』106号（平成3年冬季））
		「タダという店」（『詩学』46巻2号）
		「老人の手に一、二冊」（『仿書月刊』7巻2号）
		「回想の片々」（『こがね蟲』5号（平成3年3月））
		「『マヴォ』の詩的変革」（『日本近代文学館』120号（平成3年3月））

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「『監獄裏の林』にて-萩原朔太郎作品による縁辺点描」(『中央公論文芸特集』8巻1号春季号)
		「昔と変わらぬ空っ風」(『読売新聞』群馬版4月1日)
		「幻の雑誌『マヴォ』」(『東京新聞』4月4日)
		「解説」(筑摩叢書 草野心平著『新編 私の中の流星群 死者への言葉』5月30日)
		「死の感覚のろまな私」(新潮文庫『死のための生き方』新潮45編集部編)
		「清流・四万十川に建つ詩碑-高地の詩人・大江滿雄の望郷歌」(『毎日新聞』4月30日)
		「作品に添える回想」「語註・年譜」「覚え書」(『松山達枝作品集 赤い襟章』青磁社)
		「さげばの詩人」(『酒』5月号)
		「講演記録 変革期の詩人たち」(『横浜詩人会通信』199号(6月30日))5月25日開催横浜詩人会・現代詩セミナー
		「明治大正昭和詩書人氣番附」行司(『日本古書通信』56巻6号)
		「『マヴォ』とその縁辺-大正期芸術革命回想の片々」連載3回(『日本古書通信』56巻6号-8号)
		「詩『並木の下で』のこと」(『葡萄』49号(平成3年7月))詩も
		「弔辞 藤原定追悼」(『オルフェ』93号(平成3年7月))
		「プロレタリア詩の回想」連載5回①<その一・私的に>「刑務所跡地の詩碑」②<その二・私的に>「バルチザンの歌と春」③<その三・史的に>「トラウ-詩集『燕の書』」④<その四・史的に>「詩集『死刑宣告』の衝撃」⑤<その五・史的に>3「頭の中の兵士」の方法」(『詩人会議』29巻8号-12号)
		「八尾の萩原本家-河内野の野辺に咲く名無草名無きを捨てず摘むは誰が子ぞ-萩原栄次」(『楽市詩のトボス』4号(平成3年10月))
		「『監獄裏の林』周辺-萩原朔太郎作品に因んで」連載3回(『風雷』109号-111号(平成3年秋季-平成4年春季))
		「『街の小民』の詩人 平沢貞二郎の事(追悼 平沢貞二郎)」(『詩学』46巻11号)
		「二つのアンソロロジー-アナキズム系とマルキシズム系」(『神奈川近代文学館編『日本の詩歌展-詩・短歌・俳句の一〇〇年』)
		「近代一〇〇年の抒情-神奈川近代文学館『日本の詩歌展』によせて」(『神奈川新聞』11月7日)
		「上州詩史のページに」(寺島珠雄編『吉本孝一詩集』)
		「書評 寺島珠雄編『吉本孝一詩集』-不運の詩人に光」(『上毛新聞』12月3日)
		「広瀬川のほとり」(近代詩人7『萩原朔太郎』潮出版)
		「はたちの頃に読んだ本 好詩集点々の時」(『彷彿月刊』8巻1号(平成3年12月))
1992 (平成4)	86	『上州おたくら 私の方言詩集』伊藤信吉【著】(思潮社 9月2日)
		詩「故郷 第三」「贈る」「旅」(『郷土前橋の詩歌』)再録
		詩「三河からっ風」(『中日新聞夕刊』2月13日)岩瀬正雄の文とともに
		詩「楽市 私のガレージ・セール」(『楽市詩のトボス』7号(平成4年7月))
		詩「空っ風らーめん」(『象』14号(平成4年冬))
		詩「蒔藝・こんにゃく」(『詩人会議』30巻12号)
		詩「空っ風らーめん」(『現代詩手帖』35巻12号(平成4年12月)現代詩年鑑1993)再録
		「高橋元吉文化賞前後」(『風雷』111号(平成4年春季))
		「現代の夕夕をたすねて」連載2回(『東京新聞』1月21日、22日)
		「作家的特色のある短歌-『室生犀星歌集』」(『短歌現代』2月号)
		「自分詩史の再生」(『日本近代文学館』126号(平成4年3月))
		「昔と変わらぬ空っ風」(『読売新聞』群馬版 4月1日)
		「跋文 年代と詩的モチーフ」(岩瀬正雄詩集『わが罪わが謝罪』須永書房)
		「萩原姓の二詩人-朔太郎から恭次郎への手紙」(『新潮』4月号)
		「ふるさとへの手紙-望郷句に添えて」(『上毛新聞』5月10日)
		「萩原朔太郎五十年忌の墓参」(『東京新聞夕刊』5月19日)
		「特集・土屋文明 上野国歌私注の人」(『短歌現代』16巻6号)
		「遺跡のほとり」(『文化評論』378号(平成4年7月))
		「朔太郎の日常-家庭崩壊の日に」萩原朔太郎の詩-解説(小学館版『群像 日本の作家』10巻)
		「囚人印刷の歌集『監獄裏の林』延長線上の点点」連載2回(『風雷』112号、113号(平成4年夏季、秋季))
		「九月はじめ二件」(『風雷』113号(平成4年秋季))
		「ボケへの恐怖-取り戻すことのできた妻」(『新潮45』9月号)
		「戦争中の詩人たち」(『戦争に反対する詩人の会会報』20号 9月20日)
		「書評 浅尾忠男詩集『秩父困民紀行』」(『赤旗』10月5日)
		「一句鑑賞伊丹公子句集『機内楽』」(『俳句とエッセイ』10月号)
		「風の土地の言葉の魅力(インタビュー)」(『赤旗』10月24日)
		「谷中、馬込での詩人たち」(大田区立郷土博物館編『室生犀星アルバム』)
		講演(大田区立郷土博物館「室生犀星展」)11月1日開催
		講演(前橋元総社公民館)11月8日開催
		講演『上州おたくら』(前橋煥乎堂)11月9日開催
		講演 群馬の文学風土をめぐって(群馬会館)11月10日開催群馬県文学賞30周年記念講演
		講演 朔太郎・犀星・光太郎をめぐって(富田碎花賞贈呈式)11月22日開催
		出演(5日連続、日本テレビ朝の番組で「上州おたくら」の詩を朗読)12月
		「大江滿雄追悼 別れに献げて」(『風嘯』13号(平成4年12月))
		「跋文 新詩集からの回想-旧友通信」(小野十三郎詩集『冥王星で』)
		「詩史的意義をもつ労作」(推薦文 西杉夫著『抵抗と表現-社会派の詩人たち』)
		講演 近代詩の典型として(共愛女学校)
		「書評 浅尾忠男詩集『秩父困民紀行』十八篇の歴史の悲歌」(『秩父事件研究顕彰協議会・会報』31号(平成4年11月))
		「Poem interview伊藤信吉」(『詩芸術』27巻5号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		『詩誌『季節』の小野十三郎さん』（『遅刻』14冊（平成4年9月））
		「ときめきインタビュー 詩人 伊藤信吉さん」（『ときめき群馬』1992年（平成4年12月）冬号）
		「今日の人（インタビュー）」（『朝日新聞』12月14日）方言詩集
1993 (平成5)	87	『藤村のうた』伊藤信吉 編著（社会思想社 現代教養文庫リバイバル・セレクション 1月15日）
		『詩人たちの年譜』伊藤信吉 著（日本古書通信社 こつう豆本 9月25日）
		『上州の空の下』伊藤信吉 著（煥乎堂 11月30日）
		『激動期の詩と詩人』伊藤信吉 編著（激動期の詩と詩人刊行会 11月30日）
		詩「夜の歌」（『楽市詩のトボス』9号（平成5年1月））
		詩「空っ風らーめん」（『東京四季』56号（平成5年4月））
		詩「岩鼻町で-年代誌ふう」（『風雷』115号（平成5年春季））
		詩「眼鏡」（『風雷』117号（平成5年秋季））
		詩「殺し文句」「亡線のアリア」（『詩学』48巻9号）
		詩「居ます」「眼歴」（『詩学』48巻11号）
		詩「殺し文句」（『現代詩手帖』36巻14号（平成5年12月））
		「随想 殺し文句」（『民主文学』326号通巻376号（平成5年1月））
		「星の町の旅」（小島千加子詩集『星の町』菜 思潮社）
		「望郷の系流」（『上州文化』53号）
		「大沢雅休をめぐって」（『風雷』114号（平成5年冬季））
		「生誕百年の詩人-高橋元吉」（『上毛新聞』3月1日）
		「詩集の中に幻の絵を見た-中川一政の『草枯れし監獄の横』（『読売新聞』3月18日）
		「マンドリン書簡・萩原朔太郎」（『新現実』5次6号春季号）
		「砂山・砂丘」（『扉』扉星の会会報 3月号）
		「郷愁・桑と稲作と」（『あすの農村』3月号）
		「詩の外側辺り-追悼三好豊一郎」（『Poetica』3巻1号通巻9号（平成5年3・4月））
		「方言詩集「上州おたくら」をめぐって（インタビュー）」（『横浜詩人通信』206号 3月30日）
		「上州の空の下の詩人-萩原恭次郎」（『鳩よ!』11巻4号（平成5年4月））
		「国境標石と詩碑」連載2回①東京に“樺太”の名残があった ②哀切の叙情……啄木、朔太郎の碑文（『東京新聞』4月14日、15日）（『北海道新聞』①5月7日）
		「食物考-思い出の味思い出の人」（『上毛新聞』4月19日）
		「講演 萩原朔太郎-都会意識について」（第18回銀座詩話会）4月29日
		「講演 寺島珠雄 三井葉子について」（煥乎堂文芸講座）5月27日
		「対談・暮尾淳『全電通詩人集団』結成のころ」（『全電通文芸』13号（平成5年6月））
		「思い出の片影-福田正夫生誕百年によせて」（『神奈川近代文学館』41号（平成5年7月））
		「春・久留米の旅」（『風雷』116号（平成5年夏季））
		「日本追放の詩人たち」連載11回・補1①エロシェンコの回想 ②金龍済・プロレタリア詩の邂逅 ③金龍済・政治的邂逅、そして投獄 ④金龍済・検挙の夏、起訴入獄の秋 ⑤金龍済・詩的邂逅と政治的邂逅 ⑥金龍済5 ⑦金龍済6 ⑧金龍済7 ⑨金龍済8 ⑩金龍済9 ⑪身の置き所「日本追放の詩人たち」の縁辺（補）身の置き所・残片（『詩』14号-16号（平成5年6月-12月）、17号-20号（平成6年3月-12月）、21号（平成7年3月）、27号-30号（平成8年9月-平成9年6月））
		「講演要旨」（『上毛新聞』9月6日）9月4日開催前橋文学館（朔太郎と扉星について）
		「詩のまち」掛け声倒れ（インタビュー）」（『毎日新聞群馬版』9月13日）
		「安中線を回めた靴」（『群馬の川と道 その姿にふれる』関東建設弘済会 10月8日）
		「新しい郷土望景詩-司修の『影について』の縁辺」（『波』27巻11号）
		「縁辺往來の断片」（郷土出版社版『山室静自選著作集』10巻月報 11月27日）
		「詩集の中に幻の絵を見た」（『夏墟冬扇-中川一政論集成』沖積舎 11月30日）
		「座談会 革命の芸術と芸術の革命・「赤と黒」「マヴォ」の時代」「対談・白鳥吾吾『〈民衆詩派〉をめぐって』」「座談会 詩的体験の史的意味」「対談・秋山清『プロレタリア詩運動の軌跡-〈プロレタリア詩雑誌集成〉の刊行をめぐって』」「編集後記」（『激動期の詩と詩人』刊行会 11月30日）
		「講演要旨 日本脱出」（『金子光請の会会報』17号（12月1日））4月3日開催
		「著者に聞く（インタビュー）」（『上毛新聞』12月8日）『上州の空の下』について
1994 (平成6)	88	『利根の砂山 上州詩集』室生扉星 [著] 伊藤信吉 編（煥乎堂 6月30日）
		『詩集 私のイヤリング』伊藤信吉 著（青娥書房 11月30日）
		俳句「安西均追悼・他 五句」（『秋』34巻4号（平成6年6月））
		「生涯の舞台の姿-藤森節子の『女優原泉子』の迫力」（『波』28巻1号）
		「内側カラ空き」（『風雷』118号（平成6年冬季））
		「上州一月・二月・三月-草野心平・高橋元吉・室生扉星追慕」連載2回（『東京新聞』2月3日、4日）
		「三十年かけての刊行-『激動期の詩と詩人』をめぐって-」（『日本古書通信』59巻2号）
		「弔辞 お別れに（安西均）」（不詳 2月16日付）
		「お別れに-安西均追悼」（『風』4月号）
		「思い出や作品論や」（『藤村記念館講演集』）
		「講演記録 丸山さんの思い出」（『丸山詩碑保存会会報』18号）
		「弔辞 別れに献げて-大江滿雄追悼」（『思想の科学』4月号）
		「句額の祭典」（『紅通信』31号 4月25日）
		「解説」（森本哲郎著『世界への旅5』新潮社）
		「瑞穂の國の米騒動」（『経済往來』46巻5号）
		「一つの解説として」（城角詩集『被爆一七〇〇〇の日々』青樹社）
		「付篇」「一明館回顧ほか・一明館のおもかげ」「『野火』の詩と曲」「抒情小曲の思い出」「作品年表」「作品解説」（『利根の砂山-室生扉星上州詩集』煥乎堂）

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「伝承のわくら葉」(『風雷』120号(平成6年夏季))
		「講演 島崎藤村追慕」(島崎藤村学会全国大会)9月25日開催
		「序文 篠木れい子著『群馬の方言-方言と方言研究の魅力』」(上毛新聞社 10月25日)
		「佐藤緑葉」連載4回①農村・郷土色作品のこと ②佐藤緑葉の死-ヒックブリヤや服毒自殺など ③農村・郷土作品のこと ④「月島二号地」都市生活と工場地帯(『風雷』121号-124号(平成6年冬季-平成7年夏季))
		「講演記録 立原道造のこと」(『風信子』8・9輯(平成6年11月))
		「著者に聞く(インタビュー)」(『上毛新聞』11月23日)『私のイヤリング』について
		「職探しの詩と私の夢想」(財団法人雇用センター編『Lopyy』エンプロイ創刊10周年記念)
		「山室静について(先達詩人の顕彰式・祝辞より)」(『木の花』36・37号(平成6年12月)合併号)
1995 (平成7)	89	『風色の望郷歌 愛蔵版』伊藤信吉 著 (煥乎堂 5月1日)
		「手造り詩誌『学校』-ガリ版文字・謄写印刷の思い出」(『日本古書通信』60巻1号(平成7年1月))
		「逃げた二千元」(『経済往来』2月号)
		「『聴東京』『災禍の上に』関東地方大震災詩集二冊と詩人たち」(『日本古書通信』60巻4号(平成7年4月))
		「鼎談・川崎洋 石垣りん」(煥乎堂「数え年九十歳記念伊藤信吉文学展」)5月11日開催
		「東毛の詩人の追憶」(『清水房之丞詩碑建設記念誌』清水房之丞詩碑建設の会 4月29日)
		「思いの深さにおいて-片信録に寄せる」(寺島珠雄詩集『片信録』エンプティ 4月25日)
		「前橋市京甫分甲三〇九-刑務所印刷・製作の詩歌誌・詩歌集」連載4回(『日本古書通信』60巻10号-12号、61巻1号)
		「解説 犀星の三詩集をめぐって」(講談社文芸文庫 室生犀星著『抒情小曲集・愛の詩集』11月10日)
		「出演『知的エンターテイメントショー ふるさと人物伝 '95 萩原朔太郎』」(NHK前橋放送局 10月29日収録)
		「再・石倉の家の周辺」(『風雷』125号(平成7年秋季))
		「対談・加賀美幸子「ふるさとの文学を語る」」(前橋文学館「伊藤信吉-近代詩・現代詩そして郷土詩への途」)12月13日開催
		「監獄の横の画家-中川一政の作品をめぐって」連載9回(『東京新聞』12月5日-12月27日)
1996 (平成8)	90	『監獄裏の詩人たち』伊藤信吉 著 (新潮社 10月25日)
		詩「広瀬川・石川橋で」(『風雷』127号(平成8年春季))
		詩「塩の道」(『みーつけた』10巻5号)再録
		「対談録『ふるさとの文学を語る 伊藤信吉・加賀美幸子トーク』」(『前橋文学館報』3号)3月
		「往来小感-跋文ふう解説」(土曜美術社版 現代詩文庫5『暮尾淳詩集』4月20日)
		「些細、些細でない」(筑摩書房版『中野重治全集』3巻月報3)6月
		「ごあいさつ」(群馬県立土屋文明記念文学館編『写生の歌人五人』図録 7月11日)
		「人と作品-天上天下、金縛りだった百年」(講談社文芸文庫 金子光晴著『絶望の精神史』7月10日)
		「石仏、苔庭など」(『軽井沢高原文庫通信』32号(平成8年7月))
		「草野心平の詩(伊藤信吉編『日本の詩歌』より抜粋)」(『中学校実力アップコース』1996年度(平成8年7月))
		「鋭角屋根や石段」(筑摩書房版『高村光太郎全集』20巻月報20)
		「赤錆び二句-散文詩-」(『風雷』128号(平成8年夏季))
		「献呈署名の古い自著」(『前橋文学館報』4号(平成8年8月))
		「四詩集の縁辺」(前橋文学館『誕生一一〇年記念 萩原朔太郎-抒情の光彩-展』図録 8月22日)
		「かお 働くことが私の原則(インタビュー)」(『グラフィックま』30巻9号通巻354号(平成8年9月))
		「私の中の詩人たち」(御案内ひとこと)(群馬県立土屋文明記念文学館編『山村暮鳥・大手拓次』図録 10月5日)
		「対談・可修『郷愁誘う煉瓦』」(『上毛新聞』11月26日)
		「校歌の作詞」(前橋市立元総社南小学校『創立二十周年記念誌』)
		「鈴木牧之の村で」(劇団「群れ・とまん」『北越雪譜・天からの手紙』公演プログラム)
		「浅田晃彦氏追悼 『乾坤独算民』の作家」(『風雷』129号(平成8年秋季))
		「萩原家で何冊か見た(幻の同人誌『野守』発見)」(『萩原朔太郎研究会会報』44号)
		「萩原家で何冊か見た」(復刻『野守』内容見本)『上毛新聞』1996年1月28日記事再録
1997 (平成9)	91	『ユートピア紀行』伊藤信吉 著 (講談社 講談社学芸文庫 5月10日)
		『安西均全詩集』安西均 [著] 伊藤信吉 大岡信 監修 (花神社 8月10日)
		『明日は天気だ 上州詩集』草野心平 [著] 伊藤信吉 編 (煥乎堂 10月1日)
		『利根川上流紀行』新井幸人 撮影 伊藤信吉 文 (時事通信社 11月20日)
		詩「同時代詠り」(『楽市』23号)
		詩「花びら百一年目」(『上州路』24巻4号)
		詩「四人」(伊藤信吉編『草野心平-明日は天気だ』煥乎堂)
		「日曜くらぶ・であいられあい(インタビュー)」(『毎日新聞』1月19日)
		「郷土上州への尽きせぬ思い(インタビュー)」(『赤旗』1月25日)
		「碑文の背面」(秩父事件研究顕彰協議会『秩父』56号(平成9年1月))
		「思い出に匂う-自作二首、三詩人(朔太郎犀星拓次)の作品-」(『高砂香料時報』復刊125号通巻182号(平成9年2月))
		「序として」(『阿部家資料』の傍らに 飯塚林朔・幸徳秋水手帳の近衛兵 工藤六太郎・資金調達依頼の調書)(群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』1号(平成9年3月))
		「神奈川の中の上州人」連載4回①詩人高橋元吉 ②作家佐藤緑葉 ③歌人田中辰雄 ④詩人大手拓次(『神奈川近代文学館』56号-58号(平成9年4月-10月)、59号(平成10年1月))
		「資料にみる上州の文学」連載22回のうち2回担当①萩原朔太郎原稿「暮鳥の詩集に寄す」②社会主義雑誌「東北評論」(『上毛新聞』4月12日、13日)
		「九十歳の後ろ前」(『中央公論』112年6号(平成9年5月))
		「本と出会う-批評と紹介・萩原朔太郎の本」(『毎日新聞』5月18日)
		「対談・萩原葉子『音楽の中の萩原朔太郎』」(世田谷文学館)5月25日開催

西暦 (和暦)	年齢	著作
		「老言・近頃あいまい」(『東西通信』5号(平成9年5月))
		「御案内ひとこと」(群馬県立土屋文明記念文学館『会津八一・吉野秀雄』図録 6月1日)
		「取り戻すことができた妻」(『ボクへの恐怖』弥生書房)
		「開館満一年の日に」(群馬県立土屋文明記念文学館『文学館通信』Vol.1(平成9年7月))
		「上州画家の戦場歌」(前橋文学館『福田昭太郎-画と書と文と』図録 7月5日)
		「講演 福田昭太郎-画と書と文と」(前橋文学館)8月10日開催
		「開館一周年 県立の役割(インタビュー)」(『上毛新聞』8月18日)
		「あるアナキズム詩人の遺書」(『毎日新聞』10月2日)
		「御案内ひとこと」「序論 風来者の詩的往来-室生犀星・草野心平の上州作品」(群馬県立土屋文明記念文学館『風来の二詩人-室生犀星・草野心平』図録 10月4日)
		「講演 草野心平」(群馬県立土屋文明記念文学館企画展「風来の二詩人」)10月25日開催
		「『学校詩集』をめぐる記」(伊藤信吉編『草野心平-明日は天気だ』煥乎堂)
		「九州・旅の手帳」連載3回(『風雷』133号(平成9年秋季)、134号(平成10年冬季)、135号(平成10年春季))
		「講演 体験的プロレタリア詩運動」(日本社会学会)11月8日開催
		「沼津 手許にある遠い日」(『驛』32号(平成9年12月))
		「解説『野守』再見まで」(復刻版『野守』別冊)1月
		「巻頭インタビュー『群馬の近代文学が体の中に住み着いているんです』」(『明るい行政』230号(平成9年3月))
1998 (平成10)	92	『亡命・高村光太郎』伊藤信吉 著 (日本古書通信社 こつう豆本 1月10日)
		詩「出番」(『詩学』2月号)
		詩「上州・桐生で ご案内に代えて」(群馬県立土屋文明記念文学館『桐生ルネッサンス-坂口安吾・南川潤・浅田晃彦』図録 10月4日)
		「図録のミスなど」(『日本近代文学館』161号(平成10年1月))
		「前橋・嵯峨青年の面影(追悼・嵯峨信之)」(『詩学』53巻2号)
		「室生朝子著『鯛の鯛』感-鯛の骨董品」(『紅通信』40号(平成10年2月))
		「百花の早い春」(群馬県立土屋文明記念文学館『現代百人一首』図録 2月11日)
		「唄や歌など」(『中原中也研究』3号(平成10年3月))
		「タマにはオタクラ 巻頭妄言」(群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』2号(平成10年3月))
		「上州地縁において御案内ひとこと」(群馬県立土屋文明記念文学館『戦後俳句の光彩-金子兜太・高柳重信』図録 5月30日)
		「『館長日記』(抄)」(群馬県立土屋文明記念文学館『文学館通信』Vol.2(平成10年6月))
		「講演記録 体験的プロレタリア詩運動」(『社会文学』12号(平成10年6月))
		「はじめに」(群馬県立土屋文明記念文学館編『群馬の作家たち』講書房 6月30日)
		「文人のおもかげ」(群馬県立土屋文明記念文学館『内生の詩人-高橋元吉の世界』図録 7月19日)
		「旅先の躰算」(『風雷』136号(平成10年夏季))
		「中古い書冊」連載6回①青猫-白秋と朔太郎 ②大逆事件のその時に ③未決囚 白秋と介吾 ④上州アヴァンギャルド ⑤柳河語・その美的方言(北原白秋) ⑥エエテル句 ⑦(『日本古書通信』63巻8号-12号(平成10年8月-12月)、64巻2号(平成11年2月))
		「炭焼き小屋のクロボトキ-久保田正彝のこと」(『驛』35号(平成10年9月))
		「本読みが選んだこの三冊-伊藤信吉選・萩原朔太郎」(『毎日新聞』10月30日)
		「対談・司修『上州近代の遺構』」(司修著『近代化遺産への旅』上毛新聞社)
		「『驛馬』の途の傍らで-追悼佐多稲子-」(『新潮』95巻12号)
		「講演 田端・犀星と朔太郎」(田端文土村記念館)11月
		「人 土屋文明記念文学館館長で詩人の伊藤信吉さんを訪ねて」(『らうんじ』27号(平成10年))
		「文学に触れる 土屋文明記念文学館館長にきく(インタビュー)」(『みーつけた』10巻4号)
		「ぐんまの顔 県立土屋文明記念文学館館長 詩人伊藤信吉さん(インタビュー)」(『みーつけた』10巻5号)
		「(追悼) 山田今次さんのこと」(『横浜詩人会通信』229号 12月30日)
1999 (平成11)	93	『群馬文学全集』全20巻 伊藤信吉 監修 (群馬県立土屋文明記念文学館 1月30日-平成15年3月26日)
		『佐藤緑葉の文学 上州近代の作家』伊藤信吉 著 (講書房 3月16日)
		詩「暑さ凌ぎに」(『詩学』54巻7号)
		詩「暑さ凌ぎに」(『現代詩手帖』42巻12号)
		「『群馬文学全集』のこと-最初四巻の送り出しに当たって」(群馬県立土屋文明記念文学館『文学館通信』Vol.3(平成11年1月))
		「満九十歳直後に」(『風雷』138号(平成11年冬季))
		「仕事山積 欲が深いんだ(インタビュー)」(『読売新聞夕刊』2月27日)
		「解説-添え書き(萩原朔太郎)」(『萩原朔太郎全集 覚え書』『萩原朔太郎年譜の形成』『萩原朔太郎年譜の完了』(那珂太郎編『群馬文学全集』5巻 3月8日))
		「紹介・天野桑古家集と版木」(群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』3号(平成11年3月))
		「次のもの土台に(インタビュー)」(『上毛新聞』4月11日)
		「御案内ひとこと」「前半生・後半生の生涯」(群馬県立土屋文明記念文学館『萩原恭次郎とその時代展』図録 6月5日)
		「対談・石垣りん『萩原恭次郎を語る』」「対談・司修、岡田芳保(群馬県立土屋文明記念文学館『萩原恭次郎とその時代』関連行事)6月27日開催
		「農的メビウスの輪(萩原恭次郎)」「私の『どん底で歌ふ』小史(根岸正吉)」(荒川洋治・小山和郎編『群馬文学全集』10巻 6月23日)
		「声はとどかねど。上州偏奇のことなど。(寺島珠雄)」(『楽市詩のトボス』34号(平成11年10月))
		「御案内ひとこと」(群馬県立土屋文明記念文学館『土屋文明と斎藤喜博』図録 10月3日)
		「講演 中野重治詩集について」(世田谷文学館)11月
		「波宜亭・かの待たれびと」(『上州風』1号創刊号)
		「古い話、東京駅屋根のドームのこと」(『つち』23巻10号)
2000 (平成12)	94	『マックラサンベ 私の方言村ことば』伊藤信吉 著 (川島書店 11月30日)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		『群馬文学全集 16巻 群馬ゆかりの詩歌小説』伊藤信吉 編 (群馬県立土屋文明記念文学館 3月15日)
		『群馬文学全集 7巻 佐藤緑葉 白石実三 田中辰雄』伊藤信吉 渡邊正彦 編 (群馬県立土屋文明記念文学館 6月11日)
		詩「桑並木の街で」(群馬県立土屋文明記念文学館『佐藤緑葉と伴に-若山牧水・白石実三・田中辰雄』図録 6月3日)
		詩「耳・老世紀界隈で」10篇「秋夜 算数」「劇場の座席」「次世紀の座席」「居ます。すこしツンポ。」「耳ヴォキャブラリー」「補聴器の要らない町」「ケータイ通りで」「そそくさ師走」「やがての墓銘」「世紀の前後」(『すばる』22巻12号)
		詩「戯れに喜寿-贈る、鶴飼町の向井孝さんに。」(『騒』44号)
		詩「ためにしにノン!」(『文芸春秋』78巻12号(平成12年10月))
		詩「ためにしにノン!」(『現代詩手帖』43巻12号(平成12年12月))再掲
		「上方の人・上州の人」(『国文学解釈と教材の研究』45巻1号)
		「詩人たちの年号」(『日本古書通信』65巻1号)
		「ご案内ひとこと」(群馬県立土屋文明記念文学館『2000年百人一句』図録 2月11日)
		「風の町の思い出(福永武彦)」「足利の詩人の一端(岡崎清一郎)」「解説」「北軽井沢開拓の作家(野上弥生子)」「二作家の桐生来住と死(坂口安吾・南川潤)」「伊勢崎の工場で(黒井千次)」「解説-収録しなかった作品のこと」(伊藤信吉編『群馬文学全集』16巻 3月15日)
		「紹介 田中辰雄 夭折した歌人・作家」(群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』4号(平成12年3月))
		「私は聴いた群響の日比谷公会堂演奏」(『上州風』2号(平成12年3月))
		「93歳の詩人・伊藤信吉さんをたずねて(インタビュー)」(『ふれあいネット』173号(平成12年3月))
		「跋文 金沢ファミリーの流れに」(田辺徹著『回想の室生犀星-文学の背景』博文館新社 3月31日)
		「『群馬文学全集』(インタビュー)」(『上毛新聞』5月1日)
		「講演 とわずがたり 室生犀星 伊藤信吉 師をかたる」(金沢市立泉野図書館オアシスホール)6月3日開催
		「四人の往来とその文学」(群馬県立土屋文明記念文学館『佐藤緑葉と伴に-若山牧水・白石実三・田中辰雄』図録 6月3日)
		「講演 郷土の作品と社会的視野」(群馬県立土屋文明記念文学館「佐藤緑葉と伴に-若山牧水・白石実三・田中辰雄」)6月11日
		「解説・年譜・作品目録(佐藤緑葉)」「解説・年譜(田中辰雄)」(伊藤信吉・渡邊正彦編『群馬文学全集』7巻 6月11日)
		「遠く古く近く」(『高原文庫』15号(平成12年7月))
		「カラタチの垣根」(『風雷』144号(平成12年夏季))
		「波宜亭倶楽部に寄せて」(『はぎてい』創刊号(平成12年8月)筆名・読者不知)
		「一つの終末点(岡田刀水士)」(飯島耕一・梁瀬和男編『群馬文学全集』6巻 10月20日)
		「今号のことば 新世紀へ贈る」(『松風』69号(平成12年9月))
		「御案内ひとこと」(群馬県立土屋文明記念文学館『世界俳句フェスティバル2000招致展世界の俳句がやってくる』図録 10月22日)
		「尾形ダンテイズム」(山台文学館『尾形竜之助展-それからその次へ』図録 11月11日)
		「鼎談・石垣ひら 司修『私の方言。村ことばと文学』」(換享堂文芸講座<マックラサンベ 私の方言 村ことば 出版記念>12月16日開催)
2001 (平成13)	95	『群馬文学全集 11巻 伊藤信吉・司修』(群馬県立土屋文明記念文学館 9月30日)
		『群馬文学全集 8巻 高橋元吉 東宮七男 福田昭太郎』川崎洋 久保田稔 伊藤信吉 編(群馬県立土屋文明記念文学館 11月15日)
		『詩集 老世紀界隈で』伊藤信吉 著 (集英社 11月10日)
		『伊藤信吉著作集 2巻』伊藤信吉 著 (沖積舎 11月30日)
		詩「水ぐるま」(群馬県立土屋文明記念文学館『現代少年少女詩・童謡詩』図録 10月14日)
		詩「出席・欠席」(『騒』45号(平成13年3月))
		詩「盗用×ロディー」「往寿」(『騒』46号(平成13年6月))
		詩「八月」(今月の詩)(『東京新聞夕刊』8月8日)
		詩「九十四歳の不仕合せ」10篇「きんさん、ぎんさんの弟」「出席・欠席」「老年のチエ熟」「ぼっくり研究の旅費」「往寿」「盗用×ロディー」「郵便局 作文詩」「金言の老 作文詩」「浮雲」「気永の人」(『すばる』23巻9号(平成13年9月))
		詩「いいバランス」「空のいか」「困って楽しい」(司修編『いのちのえほん』第16回国民文化祭群馬県実行委員会 11月1日)
		詩「困って楽しい」(国民文化祭ハートフルフェスタ事業 いのちのえほん24)(『上毛新聞』11月13日)再掲
		詩「劇場の座席」(『現代詩手帖』44巻12号)
		俳句「花々」18句(『騒』1号(平成13年10月))
		「土曜訪問 悠々たる老境の日々を送る 背後に社会性持つユーモア(インタビュー)」(『東京新聞夕刊』2月17日)
		「追悼 山室静先生-お別れに」(『木の花』48号(平成13年2月)終刊号)
		「六月三十日にヒル花火を!」(『風雷』146号(平成13年冬季)終刊号)
		「暮鳥・上州アヴァンギャルドの回顧」(群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』5号(平成13年3月))
		「萩原朔太郎の戦争文学・作品集」「日露戦争従軍作家と歌人(付録)」(群馬県立土屋文明記念文学館『20世紀の群馬の戦争文学』図録 6月1日)
		「心の語録(インタビュー)」(『東京新聞夕刊』6月13日)
		「好き嫌いのこと」(『四季の味』夏号)
		「九十四歳の私の今の居場所は言うまでもなく老人の座だが、今私の毎日はずいぶん。知りたいこと、学ぶべきことが、行く手にいっぱいあるからです。」(『上毛新聞』8月14日 放送大学学生募集広告)
		「御案内に代えて」(群馬県立土屋文明記念文学館『現代少年少女詩・童謡詩』図録 10月14日)
		「上州画家の戦場歌」「年譜に代えて(福田昭太郎)」(川崎洋・久保田稔・伊藤信吉編『群馬文学全集』8巻 11月15日)
		「21世紀-群馬の100人(96) 文壇の最長老 伊藤信吉さん(インタビュー)」(『毎日新聞』11月22日)
		詩「語り継ぐ八月-戦争考」(群馬県立土屋文明記念文学館『20世紀の群馬の戦争文学』図録 6月1日)
2002 (平成14)	95	『伊藤信吉著作集 5巻』伊藤信吉 著 (沖積舎 6月3日)
		『伊藤信吉著作集 3巻』伊藤信吉 著 (沖積舎 9月2日)
		『伊藤信吉著作集 1巻』伊藤信吉 著 (沖積舎 10月1日)
		『伊藤信吉著作集 6巻』伊藤信吉 著 (沖積舎 11月29日)
		『私の村ことば 伊藤信吉方言メモ』伊藤信吉 [著] 飯塚葉 編 (群馬県立土屋文明記念文学館 11月30日)
		詩「オランダ亡命」(『騒』50号(平成14年6月))
		詩「帰宅」「来訪」(『騒』51号)

西暦 (和暦)	年齢	著作
		詩「帰宅（絶筆）」（『すばる』24巻10号（平成14年10月））
		詩「秋夜 算数」「ケータイ通りで」「盗用メロディー」「徒競走一景」（『老世紀界隈で』より）十七回詩歌文学賞発表（『すばる』24巻6号（平成14年6月）特大号）
		詩「帰宅」（『現代詩手帖』45巻12号（平成14年12月）現代詩年鑑2003）再録
		俳句「夕方・晩方・宵の頃」13句（『鬚』2号（平成14年1月））
		俳句「風、すこし春」18句（『鬚』3号（平成14年4月））
		俳句「日の永さ」8句（『鬚』4号（平成14年7月））
		俳句「秤台」8句、（絶筆）「火花火」8句（『鬚』5号（平成14年10月））
		「御案内ひとこと」（群馬県立土屋文明記念文学館『武尊の青春・江口さちの世界』図録 2月8日）
		「週間日記」連載5回（『読売新聞』3月2日-30日）
		「詩人・伊藤信吉氏に聞く（インタビュー）」（『朝日新聞』3月20日）
		「ご案内ひとこと」（群馬県立土屋文明記念文学館『白石実三とその時代』図録 4月27日）
		「勉強家で「善意の人）」（『上毛新聞』5月28日 島崎藤助遺作展）
		「館主口上」（群馬県立土屋文明記念文学館『紙芝居がやって来た』図録 7月20日）
		「お祝いひとこと」（金沢市立室生犀星記念館編『犀星』）
		「萩原朔太郎の戦争文学」（『国文学解釈と鑑賞』67巻8号）
		「室生犀星-満州国の旅」連載2回①『哈爾濱詩集』-露西亞文学の古きおもかげ- ②『大陸の琴』-棄子探し・孤児のさすらい、未完遺稿「続・室生犀星-戦争の詩人」（『すばる』24巻9号、24巻10号）
2003 (平成15)		『室生犀星 戦争の詩人・避戦の作家』伊藤信吉 [著] （集英社 7月10日）
		『伊藤信吉著作集 4巻』伊藤信吉 著 （沖積舎 7月10日）
		『伊藤信吉著作集 7巻』伊藤信吉 著 （沖積舎 10月15日）
		『群馬文学全集 14巻 群馬の詩人』伊藤信吉 編（群馬県立土屋文明記念文学館 3月31日）
		「戯れに喜寿」（『鬚』55号（平成15年9月））
		『三人句集 伊藤美太郎 父 信吉 長男 秀久 三男』伊藤秀久 編 伊藤信吉 [ほか] [著] （煥乎堂 8月3日）
2004 (平成16)		「日露戦争従軍作家と歌人」（群馬県立土屋文明記念文学館『風 文学紀要』8号（平成16年3月））
		『伊藤信吉全句集 たそがれのうた』伊藤信吉 著 （蠶の会 11月）
2006 (平成18)		「案市 私のガレージ・セール」（『軽』65号（平成18年3月））
		「朔太郎の離郷前・上京時のこと」（『上州路』33巻11号）